

新潟県厚生農業協同組合連合会

長岡中央総合病院

---

# 病 院 年 報

---

平成 27 年度・平成 28 年度



平成 27 年度・平成 28 年度

# 病院年報

第21回病院祭（平成27年10月31日）



防災訓練（平成27年11月17日）



病院創立80周年記念誌発行式典（平成27年12月3日）



長岡まつり (平成28年8月1日)



第22回病院祭 (平成28年10月15日)



ファミリーマート開店 (平成28年11月1日)



病院大忘年会 (平成28年12月15日)



たんぽぽ保育園開園（平成29年3月1日）



吉川病院長退任記念祝賀会（平成29年3月28日）



年報の発刊に際して	長岡中央総合病院 名誉院長 吉川 明	6
巻頭言	長岡中央総合病院 病院長 富所 隆	7

## I 病院の概要

沿革	11
概況	13
組織図	14
委員会・会議一覧	15
入院・外来患者数の推移	16
医事統計	20
疾病統計	21

## II 診療状況

消化器内科	内科部長 福原 康夫	41
呼吸器内科	内科部長 岩島 明	42
循環器内科	内科部長 中村 裕一	43
腎臓内科	内科医長 河野 恵美子	45
糖尿病内科	副院長・糖尿病センター長 八幡 和明	46
血液内科	内科部長 岸 賢治	47
総合診療科	内科医長 武藤 祥宏	48
神経内科	神経内科部長 大野 司	49
小児科	小児科部長 松井 俊晴	51
外科	外科部長 河内 保之	52
整形外科	副院長 矢尻 洋一	53
形成外科	形成外科部長 上條 正	55
脳神経外科	脳神経外科部長 谷口 禎規	56
呼吸器外科	呼吸器外科部長 古屋敷 剛	59
血管外科	血管外科部長 目黒 昌	61
皮膚科	皮膚科部長 和泉 純子	62
眼科	眼科医長 高田 律子	63
産婦人科	産婦人科部長 加勢 宏明	64
放射線科	放射線科部長 山本 哲史	65
泌尿器科	泌尿器科部長 照沼 正博	66
耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科部長 田中 久夫	68
麻酔科	麻酔科部長 佐藤 一範	69
歯科口腔外科	歯科口腔外科部長 山賀 雅裕	70

## III 活動状況

主要処理事項	73	
病院安全管理委員会・医療安全部会	医療安全管理責任者 本田 浩美	92
院内感染防止対策委員会	感染管理認定看護師 山崎 直子	94
褥瘡対策委員会	皮膚・排泄ケア認定看護師 岩城 杉子	102
栄養管理委員会	栄養科長 大瀧 智子	104
NST(栄養サポートチーム)委員会	管理栄養士 山澤 翔太	106
臨床検査運営委員会	検査科技師長 古俣 直樹	108
輸血療法委員会	委員長 坪井 康介	113
化学療法委員会	委員長 加勢 宏明	115
緩和ケア委員会	看護師長 桑原 佐枝子	116
救急委員会	外来看護師長 池野 美奈子	117
倫理委員会	医局長 松井 俊晴	118
治験審査委員会	治験審査委員会事務局 佐藤 弘行	119
診療録管理委員会	診療情報管理士 矢引 智子	120
臨床研修管理委員会	総務課長 阿部 一也	121

## IV 研究業績

論文掲載	125
学会発表	130

## 年報の発刊に際して

長岡中央総合病院

名誉院長 吉川 明

このたび富所院長の発案で当院の年報が発刊されることになりました。過去に遡りましても厚生連全病院を対象とした「厚生連医誌」が継続的に発刊されていたものの当院の「研究業績集」は断続的な発刊になっており、多岐にわたる統計上の集積成績はありませんでした。唯一、退院患者統計が研究業績集の一部に載せられていたに過ぎませんでした。

このたび多くの方々の御努力で、平成27年度及び28年度2ヵ年の集計結果がまとまりました。

今回の発刊を契機として今後も継続的に各年度の統計や集計結果がまとめられ、当院の歩みを着実に垣間見ることができるならば極めて意義あるものと考えます。

# 卷頭言

長岡中央総合病院

病院長 富 所 隆

この度、8年ぶりに病院の業績集並びに年報を上梓することができました。

新病院に移転し、診療科は25科となり、医師数は100名を超え、病院で働く職員数も1,000名を超えるようになりました。病院では普段からチーム医療や多職種連携を心がけていますが、これほど大きな組織になると、互いの顔も知らないことも間々あり、他の職員が何をしているかも分からないことが多々あります。

他の職員がどんなところでどんなふう to 活躍しているのかをお互い to 知ることや、得意な分野や生きがいを知ることで、また新たな連携の芽が育つことを期待します。

日々患者さんと向き合うことで発見すること、病める患者さんのために思いついたことなど研究し、発表し、論文にすることで仕事の充実感を得て欲しいと思っています。

今、医療界、特に医師は、働き方改革対象の筆頭にあげられています。自己研鑽のための研修会・研究・学会発表などをどこまで業務とするのかなどが話し合われています。当直翌日の勤務態勢などにも指導が入るものと予想されます。さらに、医師の応召義務までも見直そうとする動きも見られます。こんな中、研究を強く推奨し、業績集などを発行することに少し不安も感じますが、こうした行為はきっと職員のために、病院のために、そして患者さんのためになると信じています。

最後に、日々の業務で忙しい中、この雑誌の編集に奔走してくれた、上條正委員長を始めとする、学術教育委員会の諸氏に感謝いたします。



# I 病院の概要

# 沿 革

大正末期から昭和初期における全国的な農民運動の一環として取り上げられ、医療に恵まれない農村に協同利用施設「愛と奉仕」「相互扶助の精神」の医療機関として設置された。

- 昭和 8年 8月 中越医療組合設立  
9年 4月 県知事より中越医療組合病院設立許可  
10年 7月 中越医療組合病院開院（70床）  
13年 10月 経営不振により閉院  
16年 7月 丸新連合会により新潟県中央病院として開院（70床）  
19年 9月 新潟県農業会中央病院（組織変更）  
20年 8月 戦災で全焼～再建  
23年 8月 新潟県生産農業協同組合連合会中央病院（組織変更）  
26年 8月 公的医療機関に指定  
27年 5月 新潟県厚生農業協同組合連合会中央病院（組織変更）  
29年 7月 長岡市委託病棟建設  
32年 8月 新潟県厚生農業協同組合連合会中央総合病院（総合病院の認可）  
41年 6月 本館改築竣工（S38.7着工 RC6F）  
46年 3月 本館中央棟新築竣工  
48年 7月 人工透析施設設置  
49年 2月 整形外科機能訓練（リハビリテーション）承認  
54年 5月 病院近代化大規模改築工事着手  
10月 着工（RC地下1F地上6F）  
56年 4月 脳神経外科増科  
5月 竣工（診療科目14科）  
9月 増改築（本館・中央棟・委託棟）工事着手  
12月 形成外科増科  
福島江上に病院駐車場建設  
57年 7月 竣工（診療科目15科）  
58年 8月 人間ドック増床（531床）  
59年 10月 麻酔科増科（診療科目16科）  
60年 12月 増改築（健診棟RC地下1F地上4F 連絡橋 内部改修）工事着手  
62年 6月 竣工  
63年 7月 放射線科・小児科増改築工事着手  
平成 元年 5月 竣工  
核磁気共鳴コンピューター断層装置（MRI）導入  
3年 4月 健康管理課組織変更（附属施設 中央健診センター）  
6年 12月 健診棟増築工事着工（人工透析センター）  
7年 4月 呼吸器外科増科（診療科目17科）  
5月 健診棟増築工事竣工  
6月 人工透析センター稼働  
10月 第44回日本農村医学会学術総会 開催（長岡市にて）  
8年 4月 新潟県厚生農業協同組合連合会長岡中央総合病院（名称変更）

- 長岡市在宅介護支援センター開所
- 旧看護婦寮跡地に病院駐車場建設
- 9年 4月 心臓血管外科増科（診療科目18科）
- 10年 4月 長岡中央訪問看護ステーション開設  
病診連携室開設
- 11年 8月 病院内部改修工事（救急室・検査室等）
- 12年 3月 長岡中央総合病院居宅介護支援事業所開設
- 13年 4月 地域保健福祉センター設置
- 11月 処方オーダーリングシステム稼働
- 15年 4月 開放型病床（オープン病床）5床にて運用開始  
臨床研修病院指定の指定を受ける  
移転新築工事起工式
- 5月 開放型病床（オープン病床）10床医療法に基づく申請許可受理
- 16年 10月 病院移転新築工事上棟式  
新潟県中越大震災
- 17年 9月 病院移転新築工事竣工式
- 10月 新病院開院  
オーダーリングシステム導入
- 18年 8月 がん診療連携拠点病院指定
- 19年 2月 長岡市都市景観賞表彰
- 7月 新潟県中越沖大震災
- 10月 第56回日本農村医学会学術総会開催（長岡市にて）
- 20年 7月 DPC導入
- 10月 7:1看護基準導入
- 22年 12月 外来化学療法室他増改築工事（化学療法室18床→30床）
- 23年 3月 長岡市在宅介護支援センター廃止
- 24年 1月 土曜診療の廃止
- 4月 消化器内科、消化器外科増科（診療科目23科）  
DPCⅡ群指定
- 5月 中央看護専門学校移転新築工事着工
- 25年 5月 中央看護専門学校新校舎開校
- 7月 医局・研修医室拡充工事、事務長室、総務課内部移転
- 9月 病院情報システム更新
- 26年 4月 病理診断科増科（診療科目24科）
- 10月 福祉連携センターに名称変更（規程改訂）
- 27年 2月 注射・輸血・看護管理オーダーリングシステム稼働
- 28年 2月 電子カルテ（入院）稼働
- 4月 付属診療所「栃尾郷クリニック」開設
- 6月 電子カルテ（外来）稼働
- 29年 3月 長岡中央総合病院たんぽぽ保育園開園

## 概 況

1. 所在地 新潟県長岡市川崎町2041番地
2. 敷地面積 109,137㎡
3. 建築面積 18,145㎡
4. 延床面積 48,605㎡
5. 駐車場 1,603台（平成23年10月 73台増加）
6. 診療科 内科、消化器内科、神経内科、循環器内科、小児科、外科、消化器外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、精神科、心療内科、放射線科、リハビリテーション科、麻酔科、病理診断科、歯科口腔外科  
合計24科  
\*平成26年4月1日より24科へ変更
7. 許可病床数 一般 531床
8. 社会保険の指定 保険医療機関・労災保険指定・結核予防法指定・生活保護法指定・育成医療指定・更正医療指定・養育医療指定・原爆医療指定・地域周産期母子医療・日本病院協会指定優良短期人間ドック施設  
臨床研修指定（基幹型） H15.4.1  
がん診療連携拠点病院 H18.8.24
9. 救急病院 救急病院告知 H17.10.1
10. その他 開放型病床導入 H15.5.1  
新築移転開院 H17.10.1  
外来化学療法室他増改築完工 H22.12.10  
長岡市在宅介護支援センター廃止 H23.3.31  
たんぽぽ保育園開園 H29.3.1



## 委員会・会議一覧

委員会名	委員長	委員会名	委員長
運営審議委員会	吉川 明	学術教育委員会	上條 正
経営改善委員会	吉川 明	接遇委員会	新国 恵也
薬事委員会	竹内 茂和	クリニカルパス運用対策委員会	竹内 茂和
治験審査委員会	松井 俊晴	医療情報システム委員会	富所 隆
衛生委員会	若桑 隆二	保健福祉推進会議	吉川 明
院内感染防止対策委員会	岩島 明	病診連携運営委員会	富所 隆
防災委員会	吉川 明	ボランティア委員会	鈴木 光江
栄養管理委員会	八幡 和明	栄養サポートチーム委員会	新国 恵也
診療録管理委員会	富所 隆	セクハラ委員会	吉川 明
医療ガス安全管理委員会	竹内 茂和	緩和ケア委員会	富所 隆
放射線同位元素管理委員会	吉川 明	ホームページ委員会	富所 隆
放射線安全委員会	吉川 明	がん登録委員会	岩島 明
病院安全管理委員会	新国 恵也	院内臓器提供委員会	竹内 茂和
医療安全部会	新国 恵也	小児保護委員会	郡司 哲己
化学療法委員会	富所 隆	小児心身支援対策委員会	吉川 明
臨床検査運営委員会	岩島 明		
輸血療法委員会	長谷川 淳一		
臨床研修管理委員会	富所 隆		
褥瘡対策チーム会	竹内 茂和		
個人情報保護委員会	富所 隆		
DPC委員会	竹内 茂和		
コンプライアンス委員会	吉川 明		
業務適正化委員会	吉川 明		
管理者会議	吉川 明		
部科課長師長会議	吉川 明		
医局会議	松井 俊晴		
倫理委員会	富所 隆		
医薬分業検討委員会	吉川 明		
医療材料検討委員会	竹内 茂和		
救急委員会	中村 裕一		

# 入院・外来患者数の推移

入院患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【平成27年度】 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
内 科	6,158	6,165	5,915	6,259	5,725	5,715	6,475	6,340	6,385	6,444	6,281	6,738	74,600
神 経 内 科	271	413	320	366	360	323	386	441	514	438	317	310	4,459
小 児 科	594	588	418	531	597	909	644	690	647	603	617	507	7,345
外 科	1,447	1,419	1,409	1,456	1,488	1,557	1,576	1,416	1,551	1,557	1,573	1,476	17,925
呼吸器外科	127	190	183	163	169	178	193	232	249	140	131	116	2,071
心臓血管外科	48	85	73	98	82	67	49	95	78	41	148	63	927
脳神経外科	942	1,218	974	823	781	795	870	761	745	937	724	707	10,277
産 婦 人 科	1,295	1,236	1,190	1,251	1,207	1,422	1,484	1,098	1,099	1,123	1,247	1,511	15,163
耳鼻咽喉科	471	446	485	642	723	489	714	584	616	521	439	572	6,702
眼 科	258	279	310	287	259	261	295	162	201	289	218	184	3,003
整 形 外 科	1,637	1,790	1,692	1,894	1,690	1,555	1,501	1,769	1,918	1,620	1,900	1,859	20,825
形 成 外 科	76	147	157	185	121	48	110	183	159	129	144	238	1,697
皮 膚 科	59	7	37	30	52	30	8	32	81	29	47	47	459
泌 尿 器 科	529	562	628	756	668	582	591	615	637	658	732	686	7,644
合 計	13,912	14,545	13,791	14,741	13,922	13,931	14,896	14,418	14,880	14,529	14,518	15,014	173,097

入院患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【平成28年度】 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
内 科	5,815	5,962	5,572	5,796	5,825	5,289	6,317	6,493	6,200	6,077	6,265	6,300	71,911
神 経 内 科	434	297	386	404	294	260	391	413	433	446	427	305	4,490
小 児 科	624	531	551	688	581	607	909	789	827	560	426	514	7,607
外 科	1,635	1,506	1,510	1,468	1,681	1,495	1,353	1,654	1,710	1,586	1,456	1,687	18,741
呼吸器外科	152	112	227	167	214	190	220	255	284	228	200	192	2,441
心臓血管外科	102	89	150	155	109	171	146	156	158	197	165	118	1,716
脳神経外科	982	1,078	890	916	875	857	996	922	918	924	722	825	10,905
産 婦 人 科	1,180	1,091	1,212	1,314	1,233	1,204	1,065	1,153	939	1,103	1,073	1,086	13,653
耳鼻咽喉科	592	516	623	559	518	670	573	615	629	422	417	529	6,663
眼 科	171	275	309	221	228	130	288	277	309	199	206	317	2,930
整 形 外 科	1,621	1,538	1,673	1,642	1,609	1,475	1,909	1,808	1,654	1,744	1,796	1,795	20,264
形 成 外 科	168	173	253	258	254	164	136	115	174	199	152	91	2,137
皮 膚 科	33	42	43	37	30	12	41	26	41	12	16	39	372
泌 尿 器 科	571	464	709	481	650	614	564	543	685	751	717	684	7,433
合 計	14,080	13,674	14,108	14,106	14,101	13,138	14,908	15,219	14,961	14,448	14,038	14,482	171,263

入院患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【平成27年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	205	199	197	202	185	191	209	211	206	208	217	217	204
神経内科	9	13	11	12	12	11	12	15	17	14	11	10	12
小児科	20	19	14	17	19	30	21	23	21	19	21	16	20
外科	48	46	47	47	48	52	51	47	50	50	54	48	49
呼吸器外科	4	6	6	5	5	6	6	8	8	5	5	4	6
心臓血管外科	2	3	2	3	3	2	2	3	3	1	5	2	3
脳神経外科	31	39	32	27	25	27	28	25	24	30	25	23	28
産婦人科	43	40	40	40	39	47	48	37	35	36	43	49	41
耳鼻咽喉科	16	14	16	21	23	16	23	19	20	17	15	18	18
眼科	9	9	10	9	8	9	10	5	6	9	8	6	8
整形外科	55	58	56	61	55	52	48	59	62	52	66	60	57
形成外科	3	5	5	6	4	2	4	6	5	4	5	8	5
皮膚科	2	0	1	1	2	1	0	1	3	1	2	2	1
泌尿器科	18	18	21	24	22	19	19	21	21	21	25	22	21
合計	464	469	460	476	449	464	481	481	480	469	501	484	473

入院患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【平成28年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内科	194	192	186	187	188	176	204	216	200	196	224	203	197
神経内科	14	10	13	13	9	9	13	14	14	14	15	10	12
小児科	21	17	18	22	19	20	29	26	27	18	15	17	21
外科	55	49	50	47	54	50	44	55	55	51	52	54	51
呼吸器外科	5	4	8	5	7	6	7	9	9	7	7	6	7
心臓血管外科	3	3	5	5	4	6	5	5	5	6	6	4	5
脳神経外科	33	35	30	30	28	29	32	31	30	30	26	27	30
産婦人科	39	35	40	42	40	40	34	38	30	36	38	35	37
耳鼻咽喉科	20	17	21	18	17	22	18	21	20	14	15	17	18
眼科	6	9	10	7	7	4	9	9	10	6	7	10	8
整形外科	54	50	56	53	52	49	62	60	53	56	64	58	56
形成外科	6	6	8	8	8	5	4	4	6	6	5	3	6
皮膚科	1	1	1	1	1	0	1	1	1	0	1	1	1
泌尿器科	19	15	24	16	21	20	18	18	22	24	26	22	20
合計	469	441	470	455	455	438	481	507	483	466	501	467	469



外来患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【平成27年度】 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	9,872	9,192	10,336	10,877	9,963	10,211	10,676	10,146	10,816	9,493	9,621	10,907	122,110
神経内科	849	716	902	827	779	739	812	756	836	682	806	853	9,557
小児科	1,799	1,722	1,730	1,800	1,598	1,879	1,799	1,735	1,904	1,600	1,648	1,988	21,202
外科	2,030	1,931	2,219	2,021	1,938	2,139	2,404	2,276	2,434	1,894	1,862	2,464	25,612
呼吸器外科	256	171	241	241	201	220	259	235	246	200	194	229	2,693
心臓血管外科	189	184	202	217	171	183	158	176	156	178	174	173	2,161
脳神経外科	1,022	933	1,115	1,029	920	890	876	935	949	764	858	1,005	11,296
産婦人科	2,335	2,275	2,492	2,496	2,261	2,277	2,474	2,335	2,604	1,960	2,227	2,479	28,215
耳鼻咽喉科	3,626	3,220	3,515	3,637	3,327	3,301	3,647	3,229	3,783	2,922	3,252	3,590	41,049
眼科	1,978	1,627	1,891	1,827	1,718	1,696	1,872	1,559	1,764	1,418	1,403	1,604	20,357
整形外科	2,639	2,431	2,664	2,713	2,462	2,608	2,674	2,373	2,623	2,232	2,188	2,854	30,461
形成外科	392	379	378	430	363	327	365	353	456	351	393	490	4,677
リハビリテーション科	2,694	2,620	2,899	2,936	2,702	2,682	2,880	2,809	3,317	2,755	3,181	3,222	34,697
皮膚科	1,736	1,633	1,750	1,977	1,735	1,716	1,690	1,569	1,652	1,403	1,381	1,792	20,034
泌尿器科	1,713	1,537	1,830	1,936	1,559	1,542	1,886	1,679	1,947	1,568	1,505	1,945	20,647
麻酔科	20	19	39	35	41	36	56	59	34	40	50	55	484
精神科	56	37	81	59	50	75	60	36	73	46	54	62	689
歯科口腔外科	749	671	795	811	710	704	748	656	713	602	668	701	8,528
合計	33,955	31,298	35,079	35,869	32,498	33,225	35,336	32,916	36,307	30,108	31,465	36,413	404,469

外来患者数（延べ）の推移 〈月別・診療科別〉 【平成28年度】 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	9,916	9,353	10,137	9,995	10,371	10,086	9,810	10,490	10,379	9,206	9,034	10,553	119,330
神経内科	771	688	829	756	789	690	702	677	731	649	665	760	8,707
小児科	1,541	1,511	1,434	1,560	1,636	1,609	1,729	1,705	1,927	1,555	1,565	1,642	19,414
外科	2,028	1,967	2,214	2,073	2,234	2,346	2,415	2,430	2,501	1,866	1,932	2,346	26,352
呼吸器外科	232	209	228	233	214	223	260	270	274	222	210	225	2,800
心臓血管外科	179	158	214	209	199	191	197	192	189	156	189	214	2,287
脳神経外科	945	892	981	861	905	790	1,010	885	924	797	754	1,035	10,779
産婦人科	2,338	2,263	2,450	2,296	2,309	2,212	2,244	2,106	2,332	1,833	2,050	2,312	26,745
耳鼻咽喉科	3,465	3,243	3,387	3,323	3,483	3,355	3,231	3,226	3,580	2,962	3,053	3,377	39,685
眼科	1,505	1,316	1,410	1,244	1,297	1,034	1,258	1,232	1,319	1,196	1,232	1,491	15,534
整形外科	2,391	2,408	2,567	2,333	2,477	2,480	2,431	2,467	2,382	2,150	2,095	2,665	28,846
形成外科	421	392	437	412	413	448	414	379	408	333	387	460	4,904
リハビリテーション科	3,300	3,221	3,529	3,226	3,258	2,788	3,298	3,653	3,921	3,609	3,519	3,351	40,673
皮膚科	1,561	1,471	1,742	1,645	1,688	1,614	1,710	1,657	1,680	1,403	1,400	1,717	19,288
泌尿器科	1,529	1,552	1,816	1,726	1,843	1,897	1,716	1,901	1,908	1,661	1,687	1,912	21,148
麻酔科	44	32	35	62	48	68	56	45	52	37	51	42	572
精神科	64	57	46	63	68	41	47	51	58	44	58	63	660
歯科口腔外科	648	668	786	676	726	690	736	772	714	640	703	747	8,506
新尾郷クリニック	1,479	1,931	2,015	1,892	2,009	1,990	1,915	1,887	2,060	1,749	1,691	1,874	22,492
合計	34,357	33,332	36,257	34,585	35,967	34,552	35,179	36,025	37,339	32,068	32,275	36,786	418,722

外来患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【平成27年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内 科	470	511	470	494	498	537	508	534	515	500	481	496	500
神 経 内 科	40	40	41	38	39	39	39	40	40	36	40	39	39
小 児 科	86	96	79	82	80	99	86	91	91	84	82	90	87
外 科	97	107	101	92	97	113	114	120	116	100	93	112	105
呼吸器外科	12	10	11	11	10	12	12	12	12	11	10	10	11
心臓血管外科	9	10	9	10	9	10	8	9	7	9	9	8	9
脳神経外科	49	52	51	47	46	47	42	49	45	40	43	46	46
産 婦 人 科	111	126	113	113	113	120	118	123	124	103	111	113	116
耳鼻咽喉科	173	179	160	165	166	174	174	170	180	154	163	163	168
眼 科	94	90	86	83	86	89	89	82	84	75	70	73	83
整形外科	126	135	121	123	123	137	127	125	125	117	109	130	125
形成外科	19	21	17	20	18	17	17	19	22	18	20	22	19
リハビリテーション科	128	146	132	133	135	141	137	148	158	145	159	146	142
皮 膚 科	83	91	80	90	87	90	80	83	79	74	69	81	82
泌尿器科	82	85	83	88	78	81	90	88	93	83	75	88	85
麻 酔 科	1	1	2	2	2	2	3	3	2	2	3	3	2
精 神 科	3	2	4	3	3	4	3	2	3	2	3	3	3
歯科口腔外科	36	37	36	37	36	37	36	35	34	32	33	32	35
合 計	1,617	1,739	1,595	1,630	1,625	1,749	1,683	1,732	1,729	1,585	1,573	1,655	1,658

外来患者数（1日当り）の推移 〈月別・診療科別〉 【平成28年度】

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
内 科	496	492	461	500	494	504	491	525	494	485	452	480	489
神 経 内 科	39	36	38	38	38	35	35	34	35	34	33	35	36
小 児 科	77	80	65	78	78	80	86	85	92	82	78	75	79
外 科	101	104	101	104	106	117	121	122	119	98	97	107	108
呼吸器外科	12	11	10	12	10	11	13	14	13	12	11	10	11
心臓血管外科	9	8	10	10	9	10	10	10	9	8	9	10	9
脳神経外科	47	47	45	43	43	40	51	44	44	42	38	47	44
産 婦 人 科	117	119	111	115	110	111	112	105	111	96	103	105	110
耳鼻咽喉科	173	171	154	166	166	168	162	161	170	156	153	154	163
眼 科	75	69	64	62	62	52	63	62	63	63	62	68	64
整形外科	120	127	117	117	118	124	122	123	113	113	105	121	118
形成外科	21	21	20	21	20	22	21	19	19	18	19	21	20
リハビリテーション科	165	170	160	161	155	139	165	183	187	190	176	152	167
皮 膚 科	78	77	79	82	80	81	86	83	80	74	70	78	79
泌尿器科	76	82	83	86	88	95	86	95	91	87	84	87	87
麻 酔 科	2	2	2	3	2	3	3	2	2	2	3	2	2
精 神 科	3	3	2	3	3	2	2	3	3	2	3	3	3
歯科口腔外科	32	35	36	34	35	35	37	39	34	34	35	34	35
新尾郷クリニック	74	102	92	95	96	100	96	94	98	92	85	85	92
合 計	1,718	1,754	1,648	1,729	1,713	1,728	1,759	1,801	1,778	1,688	1,614	1,672	1,716

# 医事統計

## 主要項目の推移 〈月別〉 【平成27年度】

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来患者数(延べ)	人	33,955	31,298	35,079	35,869	32,498	33,225	35,336	32,916	36,307	30,108	31,465	36,413	404,469
(うち新患)	人	2,075	2,121	2,313	2,533	2,339	2,321	2,343	2,215	2,400	1,850	2,026	2,241	26,777
入院患者数(延べ)	人	13,912	14,545	13,791	14,741	13,922	13,931	14,896	14,418	14,880	14,529	14,518	15,014	173,097
入院件数	件	1,092	1,017	1,121	1,156	1,086	1,102	1,109	1,110	1,070	1,137	1,034	1,107	13,141
退院件数	件	1,064	1,072	1,074	1,177	1,090	1,039	1,186	1,024	1,245	1,011	1,033	1,131	13,146
暦日	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
外来診療実日数	日	21	18	22	22	20	19	21	19	21	19	20	22	244
外来患者数(一日当)	人	1,617	1,739	1,595	1,630	1,625	1,749	1,683	1,732	1,729	1,585	1,573	1,655	1,658
入院患者数(一日当)	人	464	469	460	476	449	464	481	481	480	469	501	484	473
平均在院日数	日	12.0	12.9	11.6	11.7	11.8	12.1	12.0	12.6	11.8	12.6	13.1	12.5	12.2
病床稼働率	%	87.3	88.4	86.6	89.6	84.6	87.5	90.5	90.5	90.4	88.3	94.3	91.2	89.1
病床回転率	回	2.52	2.40	2.59	2.67	2.63	2.49	2.59	2.39	2.63	2.46	2.22	2.50	2.51
紹介件数	件	1,003	982	1,142	1,175	1,002	1,025	1,089	968	1,068	851	981	1,121	12,407
逆紹介件数	件	468	407	500	481	387	431	537	317	531	453	503	649	5,664
紹介率	%	55.3	55.6	54.6	49.2	49.2	49.2	47.1	49.4	49.0	57.7	53.3	53.3	51.6
逆紹介率	%	29.6	26.9	29.7	24.9	22.3	24.6	33.1	25.0	29.3	33.8	33.6	38.6	29.1
救急搬送患者数	人	263	309	285	368	335	236	277	308	316	305	276	255	3,533
時間外患者数	人	804	1,140	777	992	1,009	1,062	763	878	889	924	806	884	10,928
救急外来患者数	人	888	1,226	881	1,107	1,118	1,114	868	967	992	1,021	908	957	12,047
手術件数(手術室)	件	500	497	576	592	501	496	543	462	529	487	476	520	6,179
全身麻酔件数	件	254	235	300	335	279	255	271	270	298	273	289	314	3,373
死亡件数	件	39	60	54	47	46	47	42	55	50	53	51	50	594
分娩件数	件	95	87	99	87	82	94	111	84	91	88	71	95	1,084

## 主要項目の推移 〈月別〉 【平成28年度】

項目	単位	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来患者数(延べ)	人	34,357	33,332	36,257	34,585	35,967	34,552	35,179	36,025	37,339	32,068	32,275	36,786	418,722
(うち新患)	人	1,901	1,980	2,195	2,210	2,367	1,988	2,186	2,057	2,120	1,756	1,733	1,874	24,367
入院患者数(延べ)	人	14,080	13,674	14,108	14,106	14,101	13,138	14,908	15,219	14,961	14,448	14,038	14,482	171,263
入院件数	件	1,013	1,008	1,056	1,064	1,102	1,037	1,182	1,126	1,032	1,142	1,019	1,088	12,869
退院件数	件	1,053	958	1,058	1,081	1,100	1,044	1,118	1,120	1,178	998	1,047	1,117	12,872
暦日	日	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
外来診療実日数	日	20	19	22	20	21	20	20	20	21	19	20	22	244
外来患者数(一日当)	人	1,718	1,754	1,648	1,729	1,713	1,728	1,759	1,801	1,778	1,688	1,614	1,672	1,716
入院患者数(一日当)	人	469	441	470	455	455	438	481	507	483	466	501	467	469
平均在院日数	日	12.7	13.0	12.4	12.2	11.9	11.7	12.0	12.6	12.5	12.6	12.6	12.2	12.4
病床稼働率	%	88.4	83.1	88.6	85.7	85.7	82.5	90.6	95.5	90.9	87.8	94.4	88.0	88.4
病床回転率	回	2.38	2.40	2.43	2.55	2.63	2.58	2.59	2.39	2.49	2.47	2.23	2.56	2.47
紹介件数	件	1,013	961	1,092	1,063	1,082	1,032	1,127	1,073	973	829	862	1,006	12,113
逆紹介件数	件	537	449	463	439	511	468	539	513	437	449	556	690	6,051
紹介率	%	69.8	65.3	56.1	57.0	54.8	53.8	59.4	56.3	56.4	63.3	59.1	61.7	58.9
逆紹介率	%	44.1	44.1	32.0	26.9	28.2	30.0	33.6	32.6	29.5	39.5	45.9	50.4	35.5
救急搬送患者数	人	240	275	243	311	289	231	343	272	298	284	250	251	3,287
時間外患者数	人	860	949	695	944	924	718	969	769	996	956	814	790	10,384
救急外来患者数	人	929	1,014	777	1,037	998	807	1,064	870	1,085	1,040	885	876	11,382
手術件数(手術室)	件	465	435	508	515	519	466	506	544	474	454	456	511	5,853
全身麻酔件数	件	269	223	289	274	294	264	296	309	284	264	265	302	3,333
死亡件数	件	47	55	46	57	45	37	58	41	52	56	54	51	599
分娩件数	件	80	90	99	96	96	98	84	85	71	80	75	63	1,017

# 疾病統計

## 平成27年度 長岡中央総合病院 病院指標

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位3位まで）

### ■内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040080x099x0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎（15歳以上）手術なし 手術・処置等2なし	165	17.55	14.34	7.88	75.75
040040xx9904xx	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2 4あり	147	27.67	13.38	0.00	69.02
100070xxxxxxxx	2型糖尿病（糖尿病性ケトアシドーシスを除く。）	132	18.30	15.35	2.27	64.58

内科では肺炎が最も多い症例となっております。また高齢の患者さんが多く重症化しやすいため、入院期間も長い傾向にあります。2番目に多いのは肺がんに対する化学療法になります。3番目が糖尿病に関する入院になります。血糖コントロールのための教育入院の他、合併症治療のための入院治療もあります。

### ■消化器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 手術・処置等2なし	215	5.59	9.20	0.47	73.35
060050xx97x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）その他手術あり 手術・処置等2なし	102	10.10	11.98	0.98	72.81
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔腫瘍手術等 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	97	9.40	10.93	4.12	75.31

消化器内科では早期胃がんに対する内視鏡手術が最も多くなっており、胃カメラを用いた粘膜下層剥離術（ESD）が主な治療法として行われています。

2番目に多いのが肝がんに対する治療になります。塞栓療法・動注化学療法やエタノール注入療法等を行っております。3番目に多いのが胆石や胆道系の疾患に対する症例になります。乳頭括約筋切開術を含む総胆管結石除去術や閉塞性黄疸の緊急ドレナージ、ステントの挿入などを積極的に行っております。

### ■循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	80	20.83	18.30	7.50	82.99
050050xx0200xx	狭心症、慢性虚血性心疾患、経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1なし、1,2あり 手術・処置等2なし	45	5.98	4.87	0.00	70.18
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等1 1あり 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	45	13.79	11.76	8.82	79.03

循環器内科では、心不全の治療に関する入院が最も多くなっており、平均年齢も82歳となっており高齢の患者さんが多いことがわかります。2番目に多いのが狭心症などに対する心臓カテーテル治療の入院となっており、3番目は心臓カテーテルの治療前と治療後に行う心臓カテーテル検査のための入院となります。

当院では急性心筋梗塞や不安定狭心症などの早期治療が必要な疾患には、積極的に緊急心臓カテーテル検査・治療を行っています。

### ■神経内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
010060x099030x	脳梗塞（JCS10未満）手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等23あり 定義副傷病なし	44	18.95	18.08	25.00	75.91
010230xx99x00x	てんかん 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	17	10.35	7.03	5.88	63.18
010080xx99x00x	脳脊髄の感染を伴う炎症 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	10	17.70	9.87	0.00	50.80

神経内科では、脳梗塞での入院が最も多く、2番目にてんかんによる入院、3番目に髄膜炎等の脳脊髄の感染を伴う炎症による入院が多くなっており、

脳梗塞につきましては、概ね20日程度の入院期間となっており、当院での治療及びリハビリが終了された約25%患者さんは、後方支援病院やリハビリ病院へ転院されております。

平均在院日数につきましては、全国平均並となっております。

■小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040100xxxx00x	喘息 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	311	7.32	6.31	0.00	3.07
040080x1xxx0xx	肺炎、急性気管支炎、急性細気管支炎(15歳未満) 手術・処置等2なし	154	6.52	5.72	0.00	2.36
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出生体重に関連する障害(出生時体重2500g以上) 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	149	4.89	6.17	0.00	0.00

小児科では、喘息での入院が最も多くなっており、2番目に肺炎・急性気管支炎等での入院となっております。3番目に新生児の高ビリルビン血症に対する光線療法となっております。小児の気管支喘息については、地域での中核治療拠点として、患者数もたいへんに多く、急性期の発作治療にもまたその後の予防治療にも力を入れて診療しています。あわせて肺炎・急性気管支炎などの呼吸器感染症も専門治療いたします。

■外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060035xx0100xx	結腸(虫垂を含む。)の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	132	11.67	17.41	0.00	71.65
060020xx01x0xx	胃の悪性腫瘍 胃全摘術 悪性腫瘍手術等 手術・処置等2なし	70	15.84	20.63	1.43	70.33
060020xx02x0xx	胃の悪性腫瘍 腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術等 手術・処置等2なし	64	11.58	16.02	0.00	67.69

外科では、大腸がんの手術治療の入院が最も多く、2番目には胃がんの手術治療(開腹手術)の入院、3番目には胃がんの手術治療(腹腔鏡下手術)の入院となっております。当院では、がん診療連携拠点病院に指定され、特にがんの手術件数が急増しています。クリニカルパスの導入や内視鏡手術の導入などで在院日数の短縮が可能となり、たとえば大腸癌の内視鏡手術は術後4日目に退院可能となりました。

また当院の平均在院日数につきましては、全国平均より短い期間となっております。

■脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
010060x099030x	脳梗塞(JCS10未満) 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等23あり 定義副傷病なし	89	18.06	18.08	40.45	74.24
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	56	8.96	10.02	5.36	75.11
010040x099x00x	非外傷性頭蓋内出血(非外傷性硬膜下血腫以外)(JCS10未満) 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	44	20.09	19.32	56.82	72.89

脳神経外科では脳梗塞の急性期病変での入院が最も多くなっており、2番目は慢性硬膜下血腫による入院、3番目は脳出血による入院が多くなっており、

脳血管障害(脳卒中)に対しては、手術対象となるか否かを問わず、全例で積極的に取り組んでいます。脳血管障害は、脳だけを診ては全体像が見えず、心臓や基礎疾患となる糖尿病・高血圧症・高脂血症などをきちんと評価する必要があります。脳梗塞で入院された患者さんは、循環器内科(心臓内科)での心臓検査を受けて頂き、不整脈や心臓の冠動脈虚血の状態を評価しています。

また、当院の平均在院日数につきましては、概ね全国平均並となっております。

■産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	97	7.95	9.53	0.00	68.59
120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等25あり 定義副傷病なし	83	3.10	5.17	0.00	61.58
12002xxx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等24あり 定義副傷病なし	59	3.85	5.33	0.00	65.56

産婦人科では、性器脱(子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤)に対する手術治療の入院が最も多くなっており、2番目、3番目については卵巣、子宮系の悪性腫瘍に対する化学療法の入院が多くなっており、

また、当院の平均在院日数につきましては、全国平均よりも比較的短い在院日数となっております。

■耳鼻咽喉科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	50	16.76	5.31	0.00	69.68
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	49	12.16	8.20	0.00	21.53
03001xxx99x4xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等24あり	40	10.50	14.34	0.00	70.03

耳鼻咽喉科では前庭機能障害（めまい、メニエール病、突発性難聴等）での入院が最も多くなっております。2番目は慢性扁桃炎に対する手術治療の入院になります。3番目は咽頭がん、喉頭がん、甲状腺がん等の頭頸部悪性腫瘍に対する化学療法入院となっております。

■眼科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
020200xx9710xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等1あり 手術・処置等2なし	27	13.33	7.99	0.00	68.85
020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり 片眼	27	16.19	11.08	0.00	61.04
020220xx97xxx0	緑内障 手術あり片眼	15	8.13	9.57	0.00	70.80

眼科では、短期滞在手術に該当する白内障に対する水晶体再建術を除いた場合は、黄斑変性に対する手術治療入院が最も多く、2番目に網膜剥離に対する手術治療入院が最も多く、2番目に網膜剥離に対する手術治療入院、3番目に緑内障に対する手術治療入院の順となっております。

なお、白内障に対する手術については、短期滞在手術の対象となっており、平成27年度では449件実施しております。

■整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人口骨頭挿入術 肩、股等	120	19.78	28.70	76.67	84.20
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む） 建縫合術等	107	10.37	11.98	0.00	31.25
070350xx97xxxx	椎間板変性、ヘルニア その他の手術あり	87	15.77	17.55	3.45	56.25

整形外科では大腿骨頸部骨折等の手術入院が最も多くなっております。また平均年齢が84.2歳と高齢な患者さんが多いことがわかります。2番目に多いのが肘、膝の外傷による入院となっており、3番目に多いのが、主に椎間板ヘルニアに対する手術治療入院となっております。

平均在院日数につきましては、全国平均よりも短い入院期間となっております。

長岡中央総合病院整形外科では、長岡及び新潟県中越地区の外傷、変性疾患など整形外科疾患全般を扱っております。各医師が新潟大学で専門研究班に所属して研修を受けておりますので、できる限り整形外科疾患の部位に応じて専門の医師が手術、治療を担当するように心がけており治療成績の向上を図っております。

■形成外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）等 手術・処置等1なし	16	4.25	4.38	0.00	36.13
070010xx010x0x	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等1なし 定義副傷病なし	11	5.27	5.27	0.00	50.82
070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍（脊椎脊髄を除く。）その他の手術あり 手術・処置等1なし	10	4.50	5.12	0.00	48.20

形成外科では、皮膚の良性腫瘍に対する摘出手術入院が最も多く、2番目、3番目には骨軟部の良性腫瘍に対する摘出手術入院が多くなっております。

平均在院日数につきましては、全国平均並か若干短くなっております。

開設は新潟県内では比較的早く、昭和56年にさかのぼります。形成外科で取り扱われる疾患全般にわたって診療を行っています。体表の生まれつきの変形や、外傷・熱傷・その後の変形を扱っています。乳房再建・眼瞼下垂・腋臭症も行っていきます。

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
080020xxxxxxx	帯状疱疹	16	5.56	8.97	0.00	69.88
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	13	6.77	11.97	0.00	71.69
080105xxxx0xx	重症薬疹 手術・処置等2なし	—	—	15.81	—	—

皮膚科では、帯状疱疹による入院治療が最も多くなっており、2番目は蜂窩織炎等の急性膿皮症による入院、3番目は重症薬疹による入院となっております。

また、当院の平均在院日数につきましては、全国平均に比べ短い在院日数となっております。

※患者数が10未満の項目については（－）ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	98	7.09	7.59	0.00	73.41
11012xxx040x0x	上部尿路疾患 体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（一連につき）手術・処置等1なし 副傷病なし	89	2.44	2.89	0.00	60.62
110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等22あり 副傷病なし	32	12.28	12.36	0.00	71.19

泌尿器科では、膀胱がんに対する手術治療の入院が最も多く、2番目に尿管結石や腎結石に対する体外衝撃波による結石破碎術に伴う入院が多く、3番目は膀胱がんに対する化学療法目的の入院が多くなっております。また上記の表以外では前立腺生検の為の検査入院が多くなっております。

また、当院の平均在院日数につきましては全国平均と概ね同程度となっております。

■心臓血管外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
180040xx02x0xx	手術・処置等の合併症 内シャント血栓除去術等 手術・処置等2なし	39	3.46	3.40	0.00	68.85
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈血栓除去術 その他のもの（観血的なもの）等 手術・処置等1なし、1あり手術・処置等2なし 定義副傷病なし	20	6.40	5.99	0.00	74.15
050170xx99000x	閉塞性動脈疾患 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	15	3.27	8.84	0.00	75.47

血管外科では、透析シャント狭窄の拡張のための入院が最も多くなっており、2番目に閉塞性動脈疾患に対する四肢の血管拡張術のための入院、3番目に血管の狭窄具合を調べる検査目的の入院が多くなっております。

平均在院日数につきましては概ね全国平均並となっております。

■呼吸器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040040xx97x0xx	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等2なし	162	6.83	13.03	0.00	69.19
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	25	6.44	9.68	0.00	27.92
040200xx99x00x	気胸 手術なし 手術・処置等2なし 定義副傷病なし	—	—	8.28	—	—

呼吸器外科では、肺がんに対する手術治療の入院が最も多く、2番目は気胸による手術治療の入院、3番目は気胸による手術を伴わない入院となっております。

当院では、肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術を行っております。呼吸器内科・呼吸器外科が呼吸器グループとして常に連携し、検討会を毎週行って医療情報を交換しつつ確実に迅速な診断・治療を心掛けています。

※患者数が10未満の項目については（－）ハイフンにて表示しております。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位3位まで）

■消化器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	217	1.00	3.62	0.46	73.30
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	117	1.57	14.94	3.42	77.48
K654	内視鏡的消化管止血術	64	2.20	12.31	9.38	69.42

消化器内科では、早期胃がんに対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）が最も多く行われております。2番目には内視鏡的胆道ステント留置術、3番目には内視鏡的消化管止血術となっており、内視鏡による手術が主に行われています。また付属する健診センターと共に消化器癌の早期発見及び治療に力を注いでおり、食道癌、胃癌、大腸癌の内視鏡的切除などを始めとし、症状緩和のための内視鏡を用いた各種治療も積極的に行っております。

■循環器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	50	3.60	5.32	0.00	69.58
K5972	ペースメーカー移植術（経静脈電極）	36	9.86	12.86	8.33	79.19
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）	36	1.50	21.22	8.33	79.19

循環器内科では、虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症など）に対する経皮的冠動脈ステント留置術を最も多く行っており、続いてペースメーカーの移植術が多くなっております。

経皮的冠動脈ステント留置術などの心臓カテーテル治療は、腕や足の血管から心臓まで管を通して病変を治療する方法です。この治療は緊急で行う場合や検査と同時に行う場合、検査から日数を空けて行う場合、検査後一旦退院してから再入院して行う場合など患者さんの状況に合わせて治療が行われます。

■小児科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K9131	新生児仮死蘇生術（仮死第1度）出生時仮死	12	0.00	10.75	16.67	0.00
K9132	新生児仮死蘇生術（仮死第2度）出生時仮死	-	-	-	-	-
K7151	腸重積症整復術（非観血的）	-	-	-	-	-

小児科では、新生児仮死蘇生術が最も多く行われております。次に腸重積症整復術（非観血的）となっております。

新生児仮死蘇生術とは、酸素が胎盤から十分に供給されず、胎児が仮死状態で生まれてくる状態の赤ちゃんに対して行う蘇生術です。また腸重積症整復術（非観血的）については、腸重積症に対して、おしりから造影剤を注入し圧を加えることにより腸重積を元に戻す方法です。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	115	2.63	7.22	0.00	70.92
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	78	1.13	3.49	0.00	60.03
K6335	鼠径ヘルニア手術	70	0.43	3.31	0.00	67.40

外科では、腹腔鏡を用いた結腸悪性腫瘍切除術が最も多く行われており、2番目には腹腔鏡を用いた胆嚢摘出術、3番目に鼠径ヘルニア（いわゆる脱腸）に対して行う鼠径ヘルニア手術となっております。また、当院はがん診療連携拠点病院に指定されており、特にがんの手術件数が急増しています。



■脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K164-2	慢性硬膜下血腫洗浄・除去術（穿頭）	55	1.05	8.96	9.09	77.25
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	21	9.81	39.57	47.62	69.71
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	20	2.60	39.45	40.00	64.05

脳神経外科では、慢性硬膜下血腫に対する洗浄除去術が最も多くなっております。こちらの手術につきましては、小さな穿頭で硬膜下に溜まった血腫を吸引し、洗浄除去する手術です。平均年齢が77歳と高くなっており高齢の患者さんが多いことがわかります。2番目に脳腫瘍に対する頭蓋内腫瘍摘出術になります。こちらは当院での治療終了後約半数の方が後方支援病院やリハビリ病院へ転院されております。3番目に脳動脈瘤頸部クリッピング術が多く、こちらにつきましては脳動脈瘤の破裂を防ぐため瘤内への血流を遮断する手術となっております。

■産婦人科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K802-21	膀胱脱手術（メッシュ使用）	93	1.00	6.47	0.00	68.06
K877	子宮全摘術	83	1.01	8.31	0.00	51.12
K867	子宮頸部（腔部）切除術	38	1.00	1.03	0.00	33.05

産婦人科では、膀胱脱手術（メッシュ使用）が最も多くなっております。2番目に子宮全摘術、3番目に子宮頸部（腔部）切除術の順となっております。

当院では性器脱に対して、TVM（tension-free vaginal mesh）手術を積極的におこなっております。TVM手術は、性器脱専用開発されたポリプロピレン製のメッシュ状のシートを使用し、子宮を摘出することなく、骨盤内の組織を補強します。体内では溶けることなく、ずっと支えていることとなります。アレルギーや感染の可能性は非常に低いとされています。さらに、従来の方法にくらべ体への負担も少なく、入院も短期間となっております。

■耳鼻咽喉科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K3772	口蓋扁桃手術（摘出）	52	1.00	10.27	0.00	23.37
K3932	喉頭腫瘍摘出術（直達鏡）	19	1.32	10.00	0.00	63.11
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的（複数洞）副鼻腔手術）	18	1.94	10.11	0.00	47.17

耳鼻咽喉科では口蓋扁桃手術（摘出）が最も多く行われております。手術は全身麻酔にて行います。入院期間は約10日間となっております。2番目に直達鏡による喉頭腫瘍摘出術、3番目が副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻・副鼻腔手術となっております。

■眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K2821□	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他）	492	0.60	1.26	0.00	75.61
K2801	硝子体茎頭微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）	81	0.84	12.62	0.00	65.62
K2682	緑内障手術（流出路再建術）	12	0.83	4.00	0.00	71.58

眼科では、白内障に対する水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）が最も多くなっております。2番目に網膜剥離や硝子体出血、黄斑部の病気などに対する硝子体茎頭微鏡下離断術が多くなっております。3番目に緑内障に対する緑内障手術（流出路再建術）が多く行われております。

## ■整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0461	骨折靱血の手術（大腿）	93	3.56	13.97	67.74	80.85
K0821	人工関節置換術（膝）	86	2.17	20.13	1.16	74.58
K1342	椎間板摘出術（後方摘出術）	79	2.82	10.57	1.27	56.01

整形外科では、大腿骨骨折に対する骨接合術が最も多く、2番目に変形性膝関節症等に対して人工膝関節に入れ替える人工関節置換術、3番目は椎間板ヘルニアに対する椎間板摘出術（後方摘出術）となっております。椎間板ヘルニアに対しては、顕微鏡下手術を行っており、また腰椎椎間板ヘルニアには症例を選択して適応のあるものに、内視鏡下ヘルニア摘出術を選択し、より低侵襲な手術となるように心がけております。

## ■形成外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K0301	四肢・躯幹部腫瘍摘出術（躯幹）	14	1.00	4.14	0.00	57.14
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径6cm以上）	13	1.46	3.15	0.00	50.00
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径4cm以上）	-	-	-	-	-

形成外科では軟部腫瘍に対する切除術が最も多く、次に皮下腫瘍に対する摘出術となっております。年間手術件数は約500例。入院手術件数が約150例、外来手術件数が約350例。内訳は熱傷約25例、顔面骨折や顔面外傷が約60例、口唇口蓋裂・耳介・手足の奇形などの先天異常が約50例、母斑・血管腫などの皮膚良性腫瘍が約190例、悪性腫瘍切除後の再建は関連各科と連携して行っており約35例あります。熱傷や外傷による瘢痕拘縮ケロイドは約50例、腋臭症や重瞼術などの美容外科手術が約30例となっております。\*患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

## ■泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	91	0.35	1.23	0.00	60.65
K8036イ	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用）	60	1.28	5.28	0.00	72.72
K8036ロ	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他）	39	1.21	4.62	0.00	74.44

泌尿器科では、腎結石や尿管結石に対して行う体外衝撃波腎・尿管結石破碎術（ESWL）が最も多く行われております。こちらは放電によって衝撃波を発生させる装置を用いて衝撃波のエネルギーを体内の結石に目標を合わせ収束し衝撃波の力で直接、結石を細かく砕く治療法です。入院期間は2泊3日となっております。次に多く行われているのが膀胱がんに対する膀胱悪性腫瘍手術です。内視鏡を使って膀胱の腫瘍を削り取る治療になります。

## ■心臓血管外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	39	0.95	1.51	0.00	68.85
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	24	1.38	6.88	0.00	74.08
K6113	抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）	12	0.08	1.00	0.00	61.67

血管外科では、透析シャント狭窄の拡張のための経皮的シャント拡張術・血栓除去術が最も多くなっており、2番目に閉塞性動脈疾患に対する四肢の血管拡張術・血栓除去術、3番目に抗がん剤を持続注入するために体内にポートを留置する抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）となっております。

■呼吸器外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）	100	1.54	5.25	0.00	69.53
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	38	1.37	3.08	0.00	67.45
K5131	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））	28	3.29	2.04	0.00	31.89

呼吸器外科では、肺がんに対する胸腔鏡を用いた肺悪性腫瘍手術が最も多くなっており、次に気胸に対する胸腔鏡を用いた肺切除術の順となっております。

当院では肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術で行っております。完全胸腔鏡下手術とは、創をカメラや道具を入れる穴だけとし、モニターのみ（完全モニター視）で手術する方法です。

平成28年度 長岡中央総合病院 病院指標

診断群分類別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040040xx99040x	肺の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり 副傷病なし	141	19.16	12.35	1.42	71.08
040081xx99x00x	誤嚥性肺炎 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	100	25.27	21.25	20.00	86.27
130030xx99x40x	非ホジキンリンパ腫 手術なし 手術・処置等24あり 副傷病なし	74	6.66	16.83	0.00	75.43
040110xxxxx0xx	間質性肺炎 手術・処置等2なし	59	28.71	19.92	5.08	76.64
110280xx99000x	慢性腎炎症候群・慢性間質性腎炎・慢性腎不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	51	13.14	12.84	3.92	71.55

内科で最も入院が多いのは、肺がんの化学療法（抗がん剤治療）を受ける患者さんです。比較的若く、入院期間は院内の平均に近くなっています。その後は化学療法に移行して、当院で引き続き治療を受ける患者さんがほとんどです。2番目に多いのは誤嚥性肺炎の患者さんです。高齢の方が多く、入院期間も長くなっています。退院後はご自宅で介護できず、転院する患者さんも多くおられます。次いで、非ホジキンリンパ腫、間質性肺炎、慢性腎不全などの治療を受ける患者さんの順に入院が多くなっています。

■消化器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060020xx04x0xx	胃の悪性腫瘍 内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切除術 手術・処置等2なし	187	5.52	9.02	0.53	73.25
060340xx03x00x	胆管（肝内外）結石、胆管炎 限局性腹腔膿瘍手術等 手術・処置等2なし 副傷病なし	116	8.68	11.06	2.59	74.06
060050xx97x0xx	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。） その他の手術あり 手術・処置等2なし	100	9.30	11.74	0.00	74.56
060020xx99x30x	胃の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等23あり 副傷病なし	51	6.10	6.88	0.00	68.71
060060xx97100x	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍 その他の手術あり 手術・処置等1あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	42	11.12	16.26	2.38	80.05

消化器内科では早期胃がんに対する内視鏡手術を積極的に行っています。内視鏡を用いた粘膜下層剥離術（ESD）が主な治療法として行われています。2番目に多いのが胆石や胆道系の疾患になります。乳頭括約筋切開術を含む総胆管結石除去術や閉塞性黄疸の緊急ドレナージ、ステントの挿入などを積極的に行っています。3番目に多いのが肝がんに対する治療です。塞栓療法・動注化学療法やエタノール注入療法等を行っています。

■循環器内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
050130xx99000x	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	97	24.95	17.95	12.37	81.51
050130xx99020x	心不全 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり 副傷病なし	32	32.75	25.02	15.63	79.25
050210xx97000x	徐脈性不整脈 手術あり 手術・処置等1なし、1,3あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	31	15.87	11.38	6.45	79.58
050050xx02000x	狭心症、慢性虚血性心疾患 経皮的冠動脈形成術等 手術・処置等1なし、1,2あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	29	8.10	4.71	0.00	64.59
050050xx99100x	狭心症、慢性虚血性心疾患 手術なし 手術・処置等11あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	29	4.90	3.06	13.79	62.45

循環器内科では、心不全の治療に関する入院が最も多くなっております。平均年齢も約82歳となっており高齢の患者さんが多いことがわかります。次いで、除脈性不整脈や狭心症などに対する治療の入院が多くなっております。当院では急性心筋梗塞や不安定狭心症などの早期治療が必要な疾患には、積極的に緊急心臓カテーテル検査・治療を行っております。

■神経内科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
010060x2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり 副傷病なし発症前Rankin Scale 0、1又は2	17	16.82	16.54	23.53	67.29
010080xx99x00x	脳脊髄の感染を伴う炎症 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	16	15.94	9.36	0.00	53.75
010060x0990401	脳梗塞（脳卒中発症4日目以降又は無症候性、かつ、JCS10未満）手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり 副傷病なし発症前Rankin Scale 0、1又は2	-	-	16.33	-	-
010060x2990421	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満）手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等24あり 副傷病2あり 発症前Rankin Scale 0、1又は2	-	-	32.67	-	-
010080xx99x01x	脳脊髄の感染を伴う炎症 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病あり	-	-	21.90	-	-

神経内科では、脳梗塞での入院が最も多く、次いで髄膜炎等の脳脊髄の感染を伴う炎症による入院が多くなっております。  
※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■小児科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040100xxxxx00x	喘息 手術・処置等2なし 副傷病なし	192	7.43	6.42	0.00	2.56
140010x199x00x	妊娠期間短縮、低出産体重に関連する障害（出生時体重2500g以上）手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	169	5.12	6.18	0.59	0.00
0400801199x00x	肺炎等（1歳以上15歳未満）手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	112	6.92	5.79	0.00	4.90
150010xxxxx0xx	ウイルス性腸炎 手術・処置等2なし	90	4.73	5.50	0.00	3.47
040090xxxxxx0x	急性気管支炎、急性細気管支炎、下気道感染症（その他）副傷病なし	77	5.90	6.02	0.00	1.35

小児科では、喘息での入院が最も多くなっております。2番目に新生児の高ビリルビン血症に対する光線療法、3番目に肺炎等での入院、次いでウイルス性腸炎、急性気管支炎等に対する入院治療の順になっております。小児の気管支喘息については、地域での中核治療拠点として、患者数もたいへんに多く、急性期の発作治療にもまたその後の予防治療にも力を入れて診療しています。あわせて肺炎・急性気管支炎などの呼吸器感染症も専門治療いたします。

■外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
060035xx01000x	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍 結腸切除術 全切除、亜全切除又は悪性腫瘍手術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	106	11.10	15.92	0.00	69.43
060020xx02x0xx	胃の悪性腫瘍 胃切除術 悪性腫瘍手術等 手術・処置等2なし	103	12.10	17.65	0.00	69.72
060335xx02000x	胆嚢水腫、胆嚢炎等 腹腔鏡下胆嚢摘出術等 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	79	5.78	7.61	1.27	60.67
090010xx02x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 単純乳房切除術（乳腺全摘術）等 手術・処置等2なし	53	10.87	10.30	0.00	60.66
090010xx01x0xx	乳房の悪性腫瘍 乳腺悪性腫瘍手術 乳房部分切除術（腋窩部郭清を伴うもの（内視鏡下によるものを含む。））等 手術・処置等2なし	35	10.26	11.57	0.00	61.29

外科では、大腸がんの手術治療の入院が最も多く、2番目に胃がんの手術治療の入院、次いで胆嚢水腫や乳癌の手術治療の入院が多くなっております。

当院では、がん診療連携拠点病院に指定され、特にがんの手術件数が急増しています。クリニカルパスの導入や内視鏡手術の導入などで在院日数の短縮が可能となり、たとえば大腸癌の内視鏡手術は術後4日目に退院可能となりました。

■脳神経外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
010060x2990401	脳梗塞（脳卒中発症3日目以内、かつ、JCS10未満） 手術なし 手術・処置等1なし 手術・処置等2あり 副傷病なし 発症前Rankin Scale 0、1又は2	60	17.62	16.54	30.00	70.58
160100xx97x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 その他の手術あり 手術・処置等2なし 副傷病なし	55	10.98	9.87	10.91	73.53
010040x099x00x	非外傷性頭蓋内血腫（非外傷性硬膜下血腫以外）（JCS10未満） 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	40	19.38	19.35	57.50	69.08
010010xx01x00x	脳腫瘍 頭蓋内腫瘍摘出術等 手術・処置等2なし 副傷病なし	25	26.12	22.47	24.00	64.04
160100xx99x00x	頭蓋・頭蓋内損傷 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	24	10.33	7.52	8.33	54.00

脳外科では脳梗塞の急性期病変での入院が最も多くなっております。2番目は慢性硬膜下血腫による入院、3番目は脳出血による入院が多くなっております。脳血管障害（脳卒中）に対しては、手術対象となるか否かを問わず、全例で積極的に取り組んでいます。脳血管障害は、脳だけを診ては全体像が見えず、心臓や基礎疾患となる糖尿病・高血圧・高脂血症などをきちんと評価する必要があります。脳梗塞で入院された患者さんは、循環器内科（心臓内科）での心臓検査を受けて頂き、不整脈や心臓の冠動脈虚血の状態を評価しています。

また、当院の平均在院日数につきましては、概ね全国平均並となっております。

■産婦人科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
120090xx97xxxx	生殖器脱出症 手術あり	101	7.06	9.44	0.00	69.26
120010xx99x50x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等25あり 副傷病なし	84	3.15	4.92	0.00	66.04
12002xx99x40x	子宮頸・体部の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等24あり 副傷病なし	66	3.62	5.12	0.00	54.59
120010xx99x40x	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等24あり 副傷病なし	44	2.07	4.84	0.00	54.64
12002xx01x0xx	子宮頸・体部の悪性腫瘍 子宮悪性腫瘍手術等 手術・処置等2なし	42	12.05	13.29	0.00	58.00

産婦人科では、性器脱（子宮脱・膀胱瘤・直腸瘤）に対する手術治療の入院が最も多くなっております。次いで、卵巣・子宮系の悪性腫瘍に対する化学療法での入院が多くなっております。

■耳鼻咽喉科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
030400xx99xxxx	前庭機能障害 手術なし	61	17.54	5.24	0.00	64.90
03001xxx99x4xx	頭頸部悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等 24あり	53	12.38	14.13	1.89	71.45
030230xxxxxxxx	扁桃、アデノイドの慢性疾患	45	12.36	8.12	0.00	16.36
030150xx97xxxx	耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍 手 術あり	25	12.00	7.75	0.00	64.64
030428xxxxxxxx	突発性難聴	21	20.52	9.37	0.00	59.10

耳鼻咽喉科では前庭機能障害（めまい、メニエール病、突発性難聴等）での入院が最も多くなっており、2番目は咽頭がん、喉頭がん、甲状腺がん等の頭頸部悪性腫瘍に対する化学療法の入院となっております。3番目は慢性扁桃炎に対する手術治療の入院になります。次いで、耳・鼻・口腔・咽頭・大唾液腺の腫瘍に対する手術治療、突発性難聴に対する手術治療の順となっております。

■眼科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
020160xx97xxx0	網膜剥離 手術あり片眼	48	13.06	10.35	0.00	58.50
020200xx9710xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等 1あり 手術・処置等2なし	33	9.39	7.72	0.00	68.36
020220xx97xxx0	緑内障 手術あり片眼	28	10.25	9.15	0.00	70.21
020180xx97x0x0	糖尿病性増殖性網膜症 手術あり 手術・ 処置等2なし片眼	27	8.96	8.27	0.00	56.89
020200xx9700xx	黄斑、後極変性 手術あり 手術・処置等 1なし 手術・処置等2なし	10	7.70	7.70	0.00	69.60

眼科では、網膜剥離に対する手術治療の入院が最も多く、2番目に黄斑・後極変性に対する手術治療の入院、次いで緑内障や糖尿病性増殖性網膜症に対する手術治療の入院の順となっております。

■整形外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
160800xx01xxxx	股関節大腿近位骨折 人工骨頭挿入術 肩、股等	131	21.25	27.63	71.76	83.18
160620xx01xxxx	肘、膝の外傷（スポーツ障害等を含む。） 縫合術等	114	9.21	11.91	0.88	34.13
070343xx97x1xx	脊柱管狭窄（脊椎症を含む。） 腰部骨 盤、不安定椎 その他の手術あり 手術・ 処置等21あり	90	16.18	21.14	0.00	70.66
070350xx97xxxx	椎間板変性、ヘルニア その他の手術あり	82	16.15	17.07	1.22	54.67
070230xx01xxxx	膝関節症（変形性を含む。） 人工関節再 置換術等	76	23.71	26.26	0.00	74.74

整形外科では大腿骨頸部骨折等の手術入院が最も多くなっており、また平均年齢が約83歳と高齢の患者さんが多いことがわかります。次いで肘・膝の外傷による入院、脊柱管狭窄等に対する入院、椎間板ヘルニアに対する手術入院、膝関節症に対する入院の順となっております。長岡中央総合病院整形外科では、長岡及び新潟県中越地区の外傷、変性疾患など整形外科疾患全般を扱っております。各医師が新潟大学で専門研究班に所属して研修を受けておりますので、出来る限り整形外科疾患の部位に応じて専門の医師が手術、治療を担当するように心がけており治療成績の向上を図っております。

■形成外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
090010xx05xxxx	乳房の悪性腫瘍 組織拡張器による再建手術 (一連につき) 乳房 (再建手術) の場合等	13	10.92	7.91	0.00	49.08
070010xx010x0x	骨軟部の良性腫瘍 (脊椎脊髄を除く。) 四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等 手術・処置等1なし 副傷病なし	10	7.20	5.94	0.00	48.70
180040xx97x0xx	手術・処置等の合併症 その他の手術あり 手術・処置等2なし	-	-	15.58	-	-
080007xx010xxx	皮膚の良性新生物 皮膚、皮下腫瘍摘出術 (露出部) 等 手術・処置等1なし	-	-	4.28	-	-
070010xx970xxx	骨軟部の良性腫瘍 (脊椎脊髄を除く。) その他の手術あり 手術・処置等1なし	-	-	5.11	-	-

形成外科では、乳がんに対する組織拡張器による再建手術の入院が最も多く、2番目には骨軟部の良性腫瘍 (脊椎脊髄を除く。) 四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術等に対する入院が多くなっておりま。開設は新潟県内では比較的早く、昭和56年にさかのぼります。形成外科で取り扱われる疾患全般にわたって診療を行っています。体表の生まれつきの変形や、外傷・熱傷・その後の変形を扱っています。乳房再建・眼瞼下垂・腋臭症も行っています。

※患者数が10未満の項目については (-) ハイフンにて表示しております。

■皮膚科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
080020xxxxxxxx	帯状疱疹	29	5.03	8.96	0.00	67.72
080011xx99xxxx	急性膿皮症 手術なし	-	-	11.97	-	-
080090xxxxxxxx	紅斑症	-	-	10.37	-	-
080030xxxxxxxx	疱疹 (帯状疱疹を除く。)、その類症	-	-	7.38	-	-
010080xx99x00x	脳脊髄の感染を伴う炎症 手術なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	-	-	9.36	-	-

皮膚科では、帯状疱疹による入院治療が最も多くなっておりま。次いで、蜂窩織炎等の急性膿皮症、紅斑症 (薬疹) による入院が多くなっておりま。

※患者数が10未満の項目については (-) ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
110070xx0200xx	膀胱腫瘍 膀胱悪性腫瘍手術 経尿道的手術 手術・処置等1なし 手術・処置等2なし	122	6.93	7.44	0.00	75.63
110070xx99x20x	膀胱腫瘍 手術なし 手術・処置等22あり 副傷病なし	43	10.47	11.72	0.00	68.88
110060xx99x20x	腎盂・尿管の悪性腫瘍 手術なし 手術・処置等22あり 副傷病なし	32	9.91	11.71	0.00	69.91
11012xx020x0x	上部尿路疾患 経尿道的尿路結石除去術等 手術・処置等1なし 副傷病なし	29	4.79	5.83	0.00	57.31
110310xx99xx0x	腎臓または尿路の感染症 手術なし 副傷病なし	26	16.19	12.43	19.23	66.73

泌尿器科では、膀胱がんに対する手術治療の入院が最も多く、次いで膀胱がんに対する化学療法目的の入院、腎盂・尿管の悪性腫瘍に対する入院、尿管結石や腎結石に対する体外衝撃波による結石破砕術に伴う入院、尿路感染症等に対する治療入院の順となっております。

■心臓血管外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
050180xx97xxxx	静脈・リンパ管疾患 その他の手術あり	78	3.18	3.34	0.00	64.04
050170xx99000x	閉塞性動脈疾患 手術なし 手術・処置等 1なし 手術・処置等2なし 副傷病なし	29	2.93	8.28	0.00	72.41
050170xx03000x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他の もの(観血的なもの)等 手術・処置等 1なし、1あり 手術・処置等2なし 副 傷病なし	21	7.10	5.85	0.00	69.67
090010xx97x0xx	乳房の悪性腫瘍 その他の手術あり 手 術・処置等2なし	16	2.00	6.11	0.00	56.88
050170xx03001x	閉塞性動脈疾患 動脈塞栓除去術 その他の もの(観血的なもの)等 手術・処置等 1なし、1あり 手術・処置等2なし 副 傷病あり	11	25.00	12.46	9.09	76.09

血管外科では、静脈・リンパ管疾患に対する手術の入院が最も多くなっており、次いで、閉塞性動脈疾患に対するバイパス手術やカテーテル治療の入院、抗悪性腫瘍剤持続注入用埋込カテーテル設置に対する入院が多くなっており、

■呼吸器外科

DPCコード	DPC名称	患者数	平均在院日数 (自院)	平均在院日数 (全国)	転院率	平均年齢
040040xx97x0xx	肺の悪性腫瘍 手術あり 手術・処置等2 なし	159	6.93	12.73	0.00	68.95
040200xx01x00x	気胸 肺切除術等 手術・処置等2なし 副 傷病なし	24	5.21	10.09	0.00	29.92
040200xx99x00x	気胸 手術なし 手術・処置等2なし 副傷 病なし	19	7.26	9.14	0.00	55.63
040150xx99x0xx	肺・縦隔の感染、膿瘍形成 手術なし 手 術・処置等2なし	-	-	23.87	-	-
040200xx99x01x	気胸 手術なし 手術・処置等2なし 副傷 病あり	-	-	19.87	-	-

呼吸器外科では、肺がんに対する手術治療の入院が最も多く、次いで気胸に対する治療の入院、肺・縦隔の感染、膿瘍形成に対する治療入院の順となっております。

当院では、肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術を行っております。呼吸器内科・呼吸器外科が呼吸器グループとして常に連携し、検討会を毎週行って医療情報を交換しつつ確実に迅速な診断・治療を心掛けています。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

診療科別主要手術別患者数等（診療科別患者数上位5位まで）

■消化器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K6532	内視鏡的胃、十二指腸ポリープ・粘膜切 除術（早期悪性腫瘍粘膜下層）	189	1.14	3.46	0.53	73.22
K688	内視鏡的胆道ステント留置術	124	1.79	13.44	3.23	78.33
K654	内視鏡的消化管止血術	44	2.09	9.66	2.27	68.11
K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長 径2cm未満）	38	4.13	5.13	2.63	73.24
K721-4	早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	38	1.00	4.08	0.00	67.61

当院の消化器内科では、内視鏡治療を積極的に行っており、がんに対する粘膜切除術、結石除去術、ステントを用いた減黄術など、あらゆる疾患に対応しています。

また付属する健診センターと共に消化器癌の早期発見及び治療に力を注いでおり、内視鏡的切除のみならず、薬物療法や症状緩和のための内視鏡を用いた各種治療も積極的に行っております。



■循環器内科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	37	4.89	7.54	2.70	67.92
K5972	ペースメーカー移植術（経静脈電極）	30	7.57	10.80	3.33	77.80
K5492	経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）	18	0.00	20.06	5.56	72.17
K5491	経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞）	17	0.00	20.24	11.76	66.88
K5952	経皮的カテーテル心筋焼灼術（その他）	15	2.33	5.33	0.00	62.27

循環器内科では、虚血性心疾患（心筋梗塞や狭心症など）に対する経皮的冠動脈ステント留置術を最も多く行っており、続いてペースメーカーの移植術が多くなっております。

経皮的冠動脈ステント留置術などの心臓カテーテル治療は、腕や足の血管から心臓まで管を通して病変を治療する方法です。この治療は緊急で行う場合や検査と同時に行う場合、検査から日数を空けて行う場合、検査後一旦退院してから再入院して行う場合など患者さんの状況に合わせて治療が行われます。3番目以降は、経皮的冠動脈ステント留置術（不安定狭心症）、経皮的冠動脈ステント留置術（急性心筋梗塞）、経皮的カテーテル心筋焼灼術（その他）の順となっております。

■小児科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K9131	新生児仮死蘇生術（仮死第1度）	—	—	—	—	—
K7151	腸重積症整復術（非観血的なもの）	—	—	—	—	—
K9132	新生児仮死蘇生術（仮死第2度）	—	—	—	—	—
K336	鼻内異物摘出術	—	—	—	—	—
K636	試験開腹術	—	—	—	—	—

※患者数が10未満の項目については（—）ハイフンにて表示しております。

■外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	112	2.46	8.85	0.00	70.34
K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	82	1.91	3.68	1.22	60.94
K6335	鼠径ヘルニア手術	81	0.28	2.31	1.23	67.62
K655-22	腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）	70	2.04	9.04	0.00	67.70
K4763	乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））	61	1.10	9.10	0.00	61.21

外科では、腹腔鏡を用いた結腸悪性腫瘍切除術が最も多く行われております。2番目には腹腔鏡を用いた胆嚢摘出術、3番目に鼠径ヘルニア（いわゆる脱腸）に対して行う鼠径ヘルニア手術、4番目には腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術）、5番目には乳腺悪性腫瘍手術（乳房切除術（腋窩部郭清を伴わない））となっております。また、当院はがん診療連携拠点病院に指定されており、特にがんの手術件数が増加しております。

■脳神経外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K164-2	慢性硬膜下血腫穿孔洗浄術	51	0.49	12.80	15.69	77.37
K1692	頭蓋内腫瘍摘出術（その他）	25	4.76	27.04	28.00	63.68
K1771	脳動脈瘤頸部クリッピング（1箇所）	11	1.09	35.82	36.36	61.00
K1742	水頭症手術（シャント手術）	—	—	—	—	—
K164-5	内視鏡下脳内血腫除去術	—	—	—	—	—

脳神経外科では、慢性硬膜下血腫に対する洗浄除去術が最も多くなっておりま。こちらの手術につきましては、小さな穿頭で硬膜下に溜まった血腫を吸引し、洗浄除去する手術です。

平均年齢が77歳と高くなっており高齢の患者さんが多いことがわかります。2番目に脳腫瘍に対する頭蓋内腫瘍摘出術になります。当院での治療終了後約半数の方が後方支援病院やリハビリ病院へ転院されております。3番目に脳動脈瘤頸部クリッピング術が多く、こちらにつきましては脳動脈瘤の破裂を防ぐため瘤内に血流を遮断する手術となっております。

※患者数が10未満の項目については（—）ハイフンにて表示しております。

■産婦人科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K802-21	骨盤臓器脱手術（メッシュ使用）	91	1.04	4.73	0.00	69.09
K877	子宮全摘術	55	1.33	8.04	1.82	51.85
K8882	子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）	43	1.02	4.63	0.00	40.12
K877-2	腹腔鏡下子宮全摘術	28	1.25	5.07	0.00	47.29
K867	子宮頸部切除術	27	1.00	1.00	0.00	34.48

産婦人科では、骨盤臓器脱手術（メッシュ使用）が最も多くなっておりま。2番目に子宮全摘術、3番目以降は子宮附属器腫瘍摘出術（両側）（腹腔鏡）、腹腔鏡下子宮全摘術、子宮頸部切除術の順となっております。当院では性器脱に対して、TVM（tension-free vaginal mesh）手術を積極的にこなっております。TVM手術は、性器脱専用開発されたポリプロピレン製のメッシュ製のシートを使用し、子宮を摘出することなく、骨盤内の組織を補強します。体内では溶けることなく、ずっと支えていることとなります。アレルギーや感染の可能性は非常に低いとされています。さらに、従来の方法にくらべ体への負担も少なく、入院も短期間となっております。

■耳鼻咽喉科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K3772	口蓋扁桃手術（摘出）	48	1.00	10.33	0.00	0.00
K340-5	内視鏡下鼻・副鼻腔手術3型（選択的複数洞）副鼻腔手術	21	1.00	10.00	0.00	54.90
K3932	喉頭腫瘍摘出術（直達鏡）	15	1.13	9.87	0.00	62.93
K4611	甲状腺部分切除術、甲状腺腫摘出術（片葉のみ）	14	1.00	10.00	0.00	49.93
K6262	リンパ節摘出術（長径3cm以上）	—	—	—	—	—

耳鼻咽喉科では全身麻酔にて行う口蓋扁桃手術（摘出）が最も多くなっておりま。入院期間は約10日間となっております。2番目は副鼻腔炎に対する内視鏡下鼻・副鼻腔手術、3番目は直達鏡による喉頭腫瘍摘出術、次いで甲状腺部分切除術・甲状腺腫摘出術（片葉のみ）の順となっております。

※患者数が10未満の項目については（—）ハイフンにて表示しております。

■眼科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K28210	水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）（その他のもの）	352	0.69	1.26	0.85	75.39
K2801	硝子体茎頭顕微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）	114	0.84	8.96	0.00	63.12
K2802	硝子体茎頭顕微鏡下離断術（その他）	17	0.76	6.94	0.00	70.76
K2682	緑内障手術（流出路再建術）	16	1.00	4.25	0.00	74.38
K2683	緑内障手術（濾過手術）	13	0.92	15.08	0.00	65.69

眼科では、白内障に対する水晶体再建術（眼内レンズを挿入する場合）が最も多くなっております。2番目に網膜剥離や硝子体出血、黄斑部の病気などに対する硝子体茎頭顕微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）が多くなっております。3番目以降は、硝子体茎頭顕微鏡下離断術（その他）、緑内障手術（流出路再建術）、緑内障手術（濾過手術）の順となっております。

■整形外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K1425	脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）	105	3.33	13.18	0.95	70.83
K0461	骨折観血的手術（肩甲骨、上腕、大腿）	104	3.34	14.93	61.54	79.91
K0821	人工関節置換術（肩、股、膝）	81	2.16	20.41	0.00	74.27
K1342	椎間板摘出術（後方摘出術）	76	3.13	10.95	0.00	55.61
K0811	人工骨頭挿入術（肩、股）	43	4.81	16.88	76.74	81.86

整形外科では、脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術（椎弓切除）が最も多く、2番目に大腿骨骨折等に対する骨折観血的手術、3番目に変形性膝関節症等に対して金属やセラミック、ポリエチレン等で出来た人工膝関節に入れ替える人工関節置換術、4番目は椎間板ヘルニアに対する椎間板摘出術（後方摘出術）、5番目は人工骨頭挿入術（肩、股）の順となっております。

■形成外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K476-4	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）	14	1.00	7.64	0.00	50.93
K0053	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部）（長径4cm以上）	-	-	-	-	-
K0063	皮膚、皮下腫瘍摘出術（露出部以外）（長径6cm以上12cm未満）	-	-	-	-	-
K0072	皮膚悪性腫瘍切除術（単純切除）	-	-	-	-	-
K0301	四肢・躯幹軟部腫瘍摘出術（肩、上腕、前腕、大腿、下腿、躯幹）	-	-	-	-	-

形成外科ではゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）が最も多く、次いで皮下腫瘍に対する摘出術、四肢・躯幹軟部腫瘍に対する摘出術の順となっております。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

■泌尿器科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K80364	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）	103	1.46	4.71	0.00	75.70
K768	体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	89	0.20	1.11	0.00	60.57
K783-2	経尿道的尿管ステント留置術	31	1.32	5.10	0.00	61.81
K7811	経尿道的尿路結石除去術（レーザー）	28	1.18	2.46	0.00	56.82
K80360	膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他のもの）	24	1.54	5.88	0.00	76.88

泌尿器科では、膀胱がんに対する膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（電解質溶液利用のもの）が最も多く行われています。次に多く行われているのが、結石や尿管結石に対して行う体外衝撃波腎・尿管結石破砕術（ESWL）です。こちらは放電によって衝撃波を発生させる装置を用いて衝撃波のエネルギーを体内の結石に目標を合わせ収束し衝撃波の力で直接、結石を細かく砕く治療法です。入院期間は1泊2日となっております。3番目以降は、経尿道的尿管ステント留置術、経尿道的尿路結石除去術（レーザー）、膀胱悪性腫瘍手術（経尿道的手術）（その他のもの）の順となっております。

■心血管外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K617-4	下肢静脈瘤血管内焼灼術	77	1.00	1.01	0.00	63.65
K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	59	0.56	1.22	0.00	69.12
K616	四肢の血管拡張術・血栓除去術	30	4.33	11.33	6.67	72.53
K6113	抗悪性腫瘍剤動脈、静脈又は腹腔内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他に設置した場合）	27	0.00	1.00	0.00	61.70
K6147	血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）	10	2.80	11.50	0.00	67.80

血管外科では、下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術が最も多くなっており、2番目に透析シャント狭窄の拡張のための経皮的シャント拡張術・血栓除去術、3番目に閉塞性動脈疾患に対する四肢の血管拡張術・血栓除去術、4番目に抗がん剤を持続注入するために体内にポートを留置する抗悪性腫瘍剤静脈内持続注入用植込型カテーテル設置（頭頸部その他）、5番目に血管移植術、バイパス移植術の順となっております。

■呼吸器外科

Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
K514-23	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は1肺葉を超える）	105	1.68	4.74	0.00	68.65
K514-21	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（部分切除）	33	1.06	3.45	0.00	71.42
K5131	胸腔鏡下肺切除術（肺嚢胞手術（楔状部分切除））	26	2.35	2.00	0.00	28.50
K514-22	胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除）	17	1.06	4.65	0.00	67.35
K5132	胸腔鏡下肺切除術（その他）	-	-	-	-	-

呼吸器外科では、肺がんに対する胸腔鏡を用いた肺悪性腫瘍手術が最も多くなっており、次に気胸に対する胸腔鏡を用いた肺切除術の順となっております。

当院では肺がん手術に対して完全胸腔鏡下手術で行っております。完全胸腔鏡下手術とは、創をカメラや道具を入れる穴だけとし、モニターのみ（完全モニター視）で手術する方法です。

※患者数が10未満の項目については（-）ハイフンにて表示しております。

## Ⅱ 診療状況

消化器内科は、吉川明院長（現名誉院長）、富所隆副院長（現院長）以下、佐藤知己、渡辺庄治、福原康夫、佐藤明人、岡宏充、堂森浩二の常勤医8名に、当院での臨床研修を修了して新潟大学大学院医歯学総合研究科消化器内科学分野（旧第三内科）に入局した卒後3年目の先生を加えて診療を行いました。なお新臨床研修制度が始まって以来、平成28年度に研修を修了した第12期生までに計16名が消化器内科医の道へ進んで県内外で活躍しています。

今回初めての(?)「病院年報」が作成されるにあたり、当院が新築移転してから10年間における当科の活動を振り返って見たいと思います。

当科の診療の中心は何と言っても内視鏡部門であり、下の表に示すように検査件数は年々増加傾向にあります。我々にとっては当たり前の日常になっていますが、当院の内視鏡検査件数は県内の他の中核病院と比べても圧倒的に多く、機敏に働いてくれるスタッフに助けられながら脇目も振らずに内視鏡を握る毎日です。新病院移転の際にはおそらく誰もが広いと感じた内視

鏡室も今や手狭になってきており、連日遅くまで検査・治療が行われています。

入院件数と平均在院日数は、移転翌年の平成18年度がそれぞれ1,202件、19.0日、平成28年度はそれぞれ1,775件、13.4日でした。在院日数は10年前の約3分の2に短縮され、年間で約1.5倍の入院患者を診療、看護しています。在院日数の短縮をはかることは現在の急性期病院に求められている課題ですが、入退院患者の増加すなわち病床回転率が高くなることにより病棟業務は多忙を極めています。多職種と連携・協力して時代に即した業務の効率化を図る必要性を実感しています。

入院患者の平均年齢はこの10年で3～4歳上昇してここ数年では70歳を超えています。今後ますます加速する超高齢化社会に伴い、消化器内科には安全性や確実性を確保した上でより低侵襲な医療が求められています。今後も質の高い医療を提供して地域医療に貢献するとともに、次世代を担う若手消化器内科医の育成に努めていきたいと考えています。

## 主な内視鏡検査、治療件数推移（10年間）

年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
上部内視鏡	7,953	8,381	8,251	8,279	8,578	8,537	9,024	9,635	9,689	9,510
ESD（食道）	1	1	22	26	33	36	33	35	34	19
ESD（胃）	11	20	121	140	180	215	222	187	239	210
下部内視鏡	2,974	3,192	2,948	2,926	3,273	3,309	3,649	3,877	3,827	3,542
ESD（大腸）			8	10	9	19	30	54	50	45
ERCP	225	245	335	306	366	270	453	443	438	466
EUS（超音波内視鏡）	32	42	48	75	67	86	76	144	159	186
EUS-FNA							10	31	64	65

平成27・28年度は、遠藤禎郎、伊藤竜、木村陽介、岩島明の4名が常勤医として勤め、石黒真妃は外来患者の診療を担当しました。

外来は、毎日最低2人の診察医が診療し、一度も「consultationをご遠慮いただいた」ことがありませんでした。入院患者は、5西・6西病棟を主に常時60人から80人でした。日々の外来診療では、1ブロックのスタッフの協力が欠かせず、入院診療では、常にベッドを探していただく病棟師長たちと緊急入院を嫌な顔一つせずに受け入れてくれる病棟スタッフたちに感謝すると共に彼らを誇りに思います。

気管支鏡検査は、年間300-350例を行い、ガイドシースやE-BUSといった技術を取り入れて、診断率の向上に努めました。また、気管支鏡下で高周波スネアによる腫瘍切除術やステント留置術も施行しました。

疾患別に、最も大きな変化が見られたのは、肺癌領域です。従来のEGFR-TKI、ALK-Iなどの分子標的薬に加え、EGFR-TKI耐性遺伝子T-790Mに対する第3世代EGFR-TKIといわれるオシメルチニブが発売され、免疫チェックポイント阻害薬であるニボルマブも発売されました。肺癌の化学療法は大きな転換期を迎え、長期生存例の増加が期待される時代となってきました。この時代の流れに取り残されず、常に標準治療を行えるように、研鑽を積む日々が続きました。各診療科での（当科も含めて）癌化学療法の増加と進歩に伴い、薬剤性の間質性肺炎が徐々に増加してきているのも印象的でした。

感染症領域では、高齢化に伴い、誤嚥性肺炎

が増加しています。しかし、超高齢者は施設で看取られるようになり、入院患者数は、以前と変わらないようです。

ステロイドと長時間作動型の $\beta$ 刺激薬の吸入により、コントロールできない気管支喘息患者は減少しました。難治性の患者は、抗IgE抗体などを用いています。

COPD領域では、包括リハビリテーションを行い、チーム医療で少しでも呼吸機能を高める試みを行っています。

睡眠時無呼吸症候群については、一般の方々にも認知され、順調に患者数が増えています。外来で、CPAPを行う患者さんは350名を超えています。

酸素療法では、Nasal High Flowという新たなデバイスを用いて、多くの患者さんのQOLを改善しています。それに伴い、人工呼吸管理の患者数が減少してきています。

慢性呼吸器疾患認定看護師の佐々木暁子を中心にRST活動も行い、リハビリテーション科・栄養科の協力を得て、人工呼吸管理の患者を回診して、加算を得ています。

この2年間で、診断・治療に大きな変化の始まりがみられ、このうねりはこれから数年間は続き、呼吸器内科の診療は劇的に変化していくと思われま

## スタッフ

中村 裕一 循環器内科部長

新潟大学医学部卒業 平成元年医師免許取得  
医学博士

日本循環器学会認定循環器専門医

日本内科学会認定総合内科専門医

日本救急医学会認定ICLSコースディレクター

落合 幸江 循環器内科部長

新潟大学医学部卒業 平成3年医師免許取得  
医学博士

日本循環器学会認定循環器専門医

日本内科学会認定総合内科専門医

日本心血管インターベンション治療学会認定医

田川 実 循環器内科部長

新潟大学医学部卒業 平成5年医師免許取得  
医学博士

日本循環器学会認定循環器専門医

日本内科学会認定内科医

日本不整脈心電学会認定不整脈専門医

富田 任 循環器内科医長

聖マリアンナ医科大学卒業 平成16年医師免許  
取得 医学博士

日本循環器学会認定循環器専門医

日本内科学会認定総合内科専門医

## 対象疾患

循環器内科は主に心臓・血管の病気を扱っています。動脈硬化に由来する狭心症や心筋梗塞、

弁膜症・心筋症による心不全、不整脈などが主な対象疾患です。体動時の胸の締め付け感、息切れや呼吸困難、動悸・めまい・失神などの症状がある場合は循環器疾患の可能性がありますので早めに受診してください。

## 診療

### ○一般外来

平日は毎日外来診療を行っています。新患・再来を並行して診療していますので、新患の方は若干お待ちいただくことがあります。その間に心電図やレントゲン・血液検査などをあらかじめ受けていただいています。なお、一般外来を受診された方でも、具合が悪い方は救急扱いでの診療が必要なこともあります。遠慮なくスタッフまで申し出てください。

### ○ペースメーカー外来

ペースメーカー植え込み手術後の患者さんに対し、定期的に機械のチェックを行う外来です。おおむね半年に1回ずつ受診していただいています。診察前にペースメーカーチェックを行い電池や電線にトラブルが無いか調べています。

### ○救急外来

心臓は急性疾患が多いため、院内各部門と緊密に連携し、救急患者には原則として24時間365日対応しています。急性心筋梗塞や不安定狭心症などの早期治療が必要な疾患には、積極的に緊急心臓カテーテル検査・治療を行っています。当科を定期受診されている方で、急に具合が悪



くなって救急受診を希望される方は、あらかじめ救急外来まで電話連絡ください。病院到着後の診療がスムーズに進み大変助かります。

### ○病診連携

高血圧症、高脂血症、心房細動などの一般的な疾患は、病状評価のため専門的な検査を行い治療方針が決まりましたら、かかりつけの先生に継続治療をお願いしています。その他の疾患でも、病状が安定している患者さんには、お近くの医療機関での受診をお願いしています。もち

ろん当科から紹介した患者さんの病状が変化し、検査・入院など病院での医療が必要な際にはいつでも対応いたしますのでご安心ください。

### ○診療機器

心臓超音波検査、ホルター心電図、トレッドミル負荷心電図、24時間持続血圧測定、心筋SPECT、心血管造影装置、血管内超音波検査、血管内光干渉断層画像診断装置、3次元マッピング装置（CARTO3）、CT、MRI、大動脈バルーンポンプ（IABP）、経皮的心肺補助（PCPS）など。

## 循環器内科 診療実績

		2012年	2013年	2014年	2015年	2016年
入院：	入院患者数総数	505	551	376	524	478
	CCU入室者数	100	131	99	94	96
	平均入院日数	17.6	17.6	19.0	18.0	20.5
	疾患					
	急性心筋梗塞	45	61	56	70	55
	心不全	167	169	180	157	226
検査：	心電図	141	151	107	103	70
		トレッドミル運動負荷試験 ホルター心電図	945	959	882	821
	心エコー検査					
	経胸壁心エコー	3,633	3,887	3,898	4,249	4,216
	経食道心エコー	9	21	12	10	9
	PWV/ABI	771	871	1,114		1,117
	心臓カテーテル検査					
	冠動脈造影検査	151	138	140	129	122
	血管内超音波検査	71	89	72	103	75
	左室造影検査		119	114	99	84
	大動脈造影	8	15	13	4	3
	心筋生検	8	14	10	14	15
	EPS	6	10	7	6	9
	先天性心疾患	0	4	0	2	1
	核医学検査					
	安静時心筋血流シンチ	53	15	28	25	42
	負荷心筋シンチ	599	581	509	464	455
	肺血流シンチ	5	9	9	7	6
	CT/MRI					
	冠動脈CT	229	252	271	298	286
	大血管CT	158	146	250		189
	心血管MRI	9	14	24	14	18
治療：	PCI					
		緊急PCI 待機的PCI	40 40	54 46	54 37	66 68
	下大静脈フィルター	8	15	20	11	4
	ペースメーカー					
	新規植込み	28	46	44	32	35
	交換	5	5	13	11	6
	カテーテルアブレーション	9	9	15	13	17
	循環補助					
	IABP	28	19	9	17	13
	PCPS	2	1	1	2	0

## 診療体制

平成27、28年度は高田琢磨（内科部長、総合内科専門医、腎臓専門医、透析専門医、糖尿病専門医）、河野恵美子（内科医長、内科認定医、腎臓専門医）の2名が常勤医師として腎臓内科診療を行っています。また助勤医師として、新潟大学病態栄養学講座准教授の細島康宏医師が週1日外来診療を行っています。

### 1) 外来診療の実績

当科は腎疾患を中心に診療しており、常勤医師2名で週4日6単位、非常勤医師1名で週1日1単位の外来診療を行っています。対象疾患は糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、糖尿病による二次性腎疾患、慢性腎不全などを扱っています。平成28年度より腎セミナー（1、4、7、10月）を開始し、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、ソーシャルワーカーが腎臓病患者とその家族を対象に腎臓病に関する集団指導を行っています。参加数は平成28年度で計30名でした。

当科は透析センター（40床）を運営しており、外来維持血液透析患者は平成27年度で125名、平成28年度で126名です。また、腹膜透析患者は平成27年度で17名、平成28年度で19名が通院しており、中越地区で最も多く腹膜透析患者を管理しています。当科および他科の入院

患者の血液透析、CHDF、血漿交換、免疫吸着、腹水濃縮再静注などの血液浄化療法にも対応しています。

### 2) 入院診療の実績

当科は3東病棟を主病棟とし、平成27年は1日あたり14.0人、平成28年は1日あたり15.4人の入院患者を診療しました。慢性腎炎、ネフローゼ症候群、血管炎の腎組織診断のために行う腎生検は平成27年度で33件、平成28年度で34件（うち剖検2件）を行いました。多発性嚢胞腎（ADPKD）に対するトルバプタン治療は、3泊4日のクリニカルパスを導入し、平成28年度までに9名に実施しました。慢性腎不全について、透析導入は平成27年度で血液透析30名、腹膜透析7名、平成28年度で血液透析33名、腹膜透析9名でした。腎不全教育入院は腎代替療法への導入延長を目的とし、2週間の予定で、腎臓病の基礎知識や食事・薬物療法、腎代替療法について学び、合併症のスクリーニング検査や血糖管理を行っています。平成27年度は40名、平成28年度は46名の患者が腎不全教育入院を行いました。

### 3) 手術実績

透析内シャント造設、腹膜透析カテーテル留置・出口部作成、シャントPTAを行っています。

	平成27年度	平成28年度
透析シャント造設（件）	35	29
腹膜透析カテーテル留置（件）	6	10
腹膜透析カテーテル出口部作成（件）	3	4
シャントPTA（件）	24	36

先日厚労省の調査結果で「糖尿病患者数は1,000万人、予備軍をあわせると2,000万人にのぼる」と報じられていました。残念ながら糖尿病の増加にはまだ歯止めがかかりません。当糖尿病センターの実情でも糖尿病患者さんがたまってくる一方で、今では6,000人の糖尿病患者を抱え、常時12~15人の入院患者の診療も行っています。その他にも甲状腺や副腎などの内分泌疾患も2,300人をこえます。もちろんこんなにたくさん1人で診られるわけもなく、新潟大学から矢口雄大先生、斉藤啓輔先生という新進気鋭の医師に応援をいただいて3人体制で診療にあたっています。さらには整形外科、脳外科、外科などの各診療科に入院中の糖尿病患者の周術期の血糖管理にも携わっています。

糖尿病診療の現場では近年次々と新薬が発売され使える武器が飛躍的に増えました。おかげで入院しなくてもHbA1cは1%前後下げられるようになりました。しかしいくら新薬が増えても糖尿病診療は難しいことに変わりはありません。生活習慣病である糖尿病の治療には、患者さん自身が自己管理能力を身につけることが大事です。しかしこれは決して簡単なことではなく、指示したから誰でもすぐにできるというわけではありません。

当センターでは糖尿病患者教育、療養指導として様々な取り組みをおこなっています。その最も根幹をなすものが糖尿病教室で毎月3回のコースで行っています。教室には入院外来を問わず毎回30人前後が参加し、知識を深めるだけでなく体験型の指導を通して自己管理のモチ

ベーションを高めるための教室を行っています。

外来では医師の診察のほかに、看護外来、薬の外来、栄養指導ミニ、フットケア外来、糖尿病腎症重症化予防、療養相談外来などそれぞれの病状に合わせた個別指導を行っています。入院でも日々の診療だけでなく、会食指導、外食ツアー、コンビニ探検、調理実習などほかの病院にはないユニークな指導をおこなっていることで内外の施設から見学が来るほどです。「指導は楽しく効果的に！」がモットーです。

さらに最近ではフリースタイルリブレという器械で24時間の血糖（ほんとは皮下間質液の糖）を持続的に2週間測定できるようになりました。これをつければ日々の血糖の上がり下がりが手に取るようにわかり、今までとは全く違った治療が可能となったのです。当センターではいち早くこの機器を導入して診療の質の向上に努めています。

また高齢者や認知症の糖尿病患者の治療にも週1回のGLP-1製剤の投与で良好な管理をしていくことが可能となってきました。訪問看護や老健施設との連携も積極的に進めています。

### 診療スタッフ

岸 賢治（平成19年12月～）、坪井康介（平成25年4月～）、武藤祥宏（平成27年8月～、総合診療科と併任）

### 診療

平成26年4月より2人体勢で、主に血液系腫瘍の治療（薬物療法）を行っています。入院治療は5東を主病棟としており、同じ病棟の循環器内科に準じて「必要時には速やかに入院させる」導線が確立しています。外来で急性白血病や巨大腫瘍のリンパ腫、著しい血小板減少症、骨がボロボロの骨髄腫などはほぼ即日入院が可能です。入院の半数は白血病や再発リンパ腫で、化学療法やADLの低下のため帰宅困難となり数カ月の入院継続が必要になります。残りは新規化学療法導入のための1～2週間入院、繰り返し化学療法のため4～7日の短期入院になります。

通院治療（外来化学療法）は積極的に行っています。ADLが良いこと、通院が可能なこと（家族のサポートがあること）、仕事を休みたくない等、各自にスケジュールを工面してもらい、3～4週毎の治療を行っています。リンパ腫は6～8コースで終了しますが、MDSや骨

髄腫では寛解になるまでか再発（病状進行）まで繰り返す事になり、いっそう通院治療の価値があります。

### 診療実績

当院に於けるがん登録の中での血液疾患の表を示します。県内のがん拠点病院の中で6-7位の症例数を診療しています。

年	2012	2013	2014	2015	2016
悪性リンパ腫	26	29	27	34	40
骨 髄 腫	3	7	7	5	7
白 血 病	13	19	11	13	14
そ の 他	18	16	3	11	20

## 1. 活動状況報告

総合診療科では、すぐに診断がつかない疾患、どちらの専門領域に相談するかも不明な疾患をおもに扱います。具体的には不明熱、原因不明の四肢や体幹の疼痛などを扱い、それに対して診断を行い、あるいはどの領域の疾患かを見極め、その専門領域へ紹介するといった活動をしております。

これまで扱った疾患としましては、感冒やインフルエンザウィルス感染症などの一般的な市中の感染症以外では下記の通りとなっております。

尿管結石症（主訴は背部痛） 4例  
 悪性リンパ腫（主訴は発熱とリンパ節腫脹）  
 2例  
 慢性甲状腺機能低下症（主訴は全身倦怠感）  
 1例  
 バセドウ病（主訴は体重減少） 2例  
 盲腸癌（主訴は右下腹部痛） 1例  
 自己免疫性形質細胞性リンパ節症（主訴は発熱と肺野の結節影） 1例  
 ベーチェット病（主訴は口内炎と発熱） 1例  
 リウマチ性多発筋痛症（主訴は四肢近位筋の痛みと発熱） 47例  
 偽痛風（主訴は発熱と関節痛・関節の腫脹）  
 5例  
 急性腎盂腎炎（主訴は発熱と食思不振） 29例  
 上行結腸癌（主訴は貧血） 2例  
 シェーグレン症候群（主訴は倦怠感と食思不振） 2例

薬剤アレルギー（主訴は発熱） 4例  
 ツツガムシ病（主訴は発熱と皮疹） 1例  
 歯髄炎（主訴は発熱と食思不振、右顎下リンパ節腫大） 1例

他に脳梗塞後の誤嚥性肺炎や蜂窩織炎、胆嚢炎や肋骨骨折など、診療領域は多岐にわたりますが、扱う専門領域が不明な疾患を中心に扱っております。紹介患者様の年齢は高齢者が大部分を占めるためか悪性腫瘍の合併が多くなっている印象です。

## 2. 学会・研究会発表

第140回 日本内科学会 信越地方会  
 （2017年6月10日）

「関節リウマチにてMTX内服中にID-LPDを発症し、経過観察中にTMAを合併した1例」

- 1) 長岡中央総合病院総合診療科
- 2) 長岡中央総合病院血液内科
- 3) 東海大学医学部病理診断学

○武藤祥宏<sup>1,2)</sup> 坪井康介<sup>2)</sup> 岸賢治<sup>2)</sup>  
 中村直哉<sup>3)</sup> 富所隆<sup>1)</sup>

神経内科部長 大野 司、渡邊浩之の2名体制で神経内科全般の診療を行なっています。

このほか新潟大学神経内科下畑享良准教授（現岐阜大学神経内科・老年内科教授）より週1回外来診療を担当していただきました。

診療実績は2015年度、2016年度それぞれ以下の通りです。

入院 181名、163名。外来新患 604名、454名。再診 8,953名、8,253名。1日平均外来患者 39名、36名。紹介率 49.8%、51.0%。逆紹介率 78.0%、80.7%。

神経内科は丁寧な診察と説明をこころがけており、診療時間と診療レベルは比例しますので徒に患者数を増やすことはいたしません。紹介率は高くそれ以上に逆紹介率をあげています。近年認知症、物忘れでの初診・紹介が激増しています。病診連携・病病連携をより強化して診断に特化していく必要があります。

院内では毎週脳外科との合同カンファレンスやリハビリカンファレンスを行なっています。毎月神経内科領域の画像検討会である長岡NRC (neuroradiological conference)、年に3回中越神経内科懇話会、年に2回脳外科神経内科の合同で上越神経疾患研究会が行われています。当科は日本神経学会准教育施設となっており、神経内科指導医2名体制です。渡邊は認知症専門医でもあります。

2015年は当院で初期研修医を修了した斎藤奈つみが新潟大学脳研究所神経内科に入局し大活躍しています。

学会発表

第213回日本神経学会関東・甲信越地方会  
A-29.胃切除後亜鉛製剤投与により銅欠乏性貧血とミエロパチーを呈したALSの1例

長岡中央総合病院神経内科 佐藤真帆（研修医）、渡邊浩之、大野 司

共同演者

2015年 第137回日本内科学会信越地方会  
非典型的な皮疹を呈したのち頭痛を訴え診断・治療に苦慮したライム病の1例

2016年 第139回日本内科学会信越地方会  
PET/CTで診断しえた、多発性単神経炎を呈した再発悪性リンパ腫の1例

第76回呼吸器合同北陸地方会

B-21 自然経過で人工呼吸管理を離脱しえた抗ミトコンドリア抗体陽性の2型呼吸不全の1例

研究会

2016.2.13. 第26回上中越神経疾患研究会  
脳梗塞を合併した片頭痛患者  
長岡中央総合病院 渡邊浩之 大野 司

2017.2.13.

第92回中越神経内科懇話会  
診断に苦慮した慢性髄膜炎  
長岡中央総合病院 渡邊浩之 大野 司

講演会

2015.1.21.

ハッピーフェイスセミナー in中越

パーキンソン病治療について ~ゾニサミド経

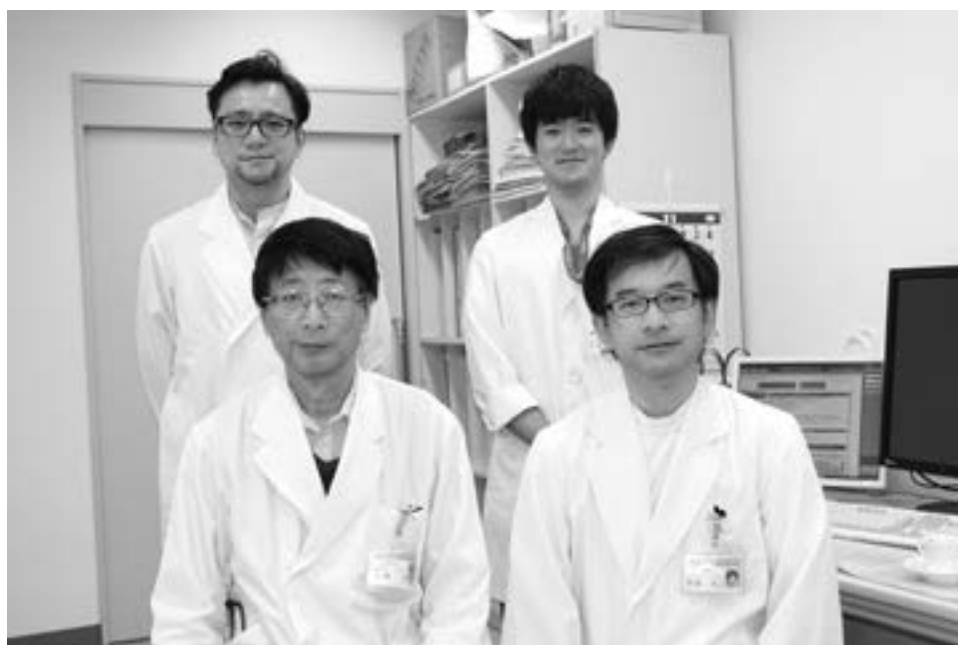
験例を含めて

長岡中央総合病院 渡邊浩之

院内講演会

2016.10.25. てんかんの診かた 大野 司

2016.10.28. 認知症について 渡邊浩之



## スタッフ紹介

常勤医4名と出張医2名で小児科全般とそれぞれの専門分野の診療を行っています。

郡司 哲己 部長 S60年度～

小児科全般、気管支喘息、感染症、小児保健（腎疾患、肥満、夜尿等）

松井 俊晴 部長 H4年度～

小児科全般、アレルギー（特に気管支喘息）、感染症、てんかん

竹内 一夫 部長 H20年～

小児科全般、小児心身症、新生児

堀 智里 医長 H20年～

小児科全般

江村 重仁 医長 H27年度～

小児科全般、アレルギー（とくに食物アレルギー）

高橋 早織 医長 H29年度～

小児科全般

## 診療実績

外来診療：一般外来は主に午前中に行い、午後は専門外来（アレルギー、腎臓・夜尿症、てんかん、低身長診断・治療、心身症、乳児健診、早産児などのすくすく外来、予防接種、シナジス外来など）を継続しました。

特に小児の気管支喘息については、急性期の発作治療やその後の予防治療にも力を入れて診療しています。

あわせて肺炎・急性気管支炎などの呼吸器感染症も専門治療いたします。

トピックとしては、食物アレルギー外来を開

始したことがあげられます。卵や牛乳・その他の食物での強いアレルギー症状が出てしまった児の相談や食物経口負荷試験などの導入、食事指導を行っています。

また、小児心身症（発達障害・学習障害・不登校・不定愁訴など）にも対応しています。

1日外来患者数は乳児、予防接種を除いてH27年度 86.9人、H28年度 79.6人でした。

入院診療：感染症、喘息関連疾患、食物経口負荷試験、新生児疾患を中心とした小児科全般の入院を診ています。

1日入院患者数はH27年度 20.1人、H28年度 20.8人でした。



2015年の外科総手術件数は1,088件で、全身麻酔946件で緊急手術142件です。2016年はそれぞれ1,142件、979件、132件です。ここ数年は総手術件数1,100件前後、全身麻酔1,000件弱、緊急手術150件前後の実績となっています。

食道癌手術は年間20数件です。進行度IIの症例はFP療法、進行度IIIはDCF療法で術前化学療法を行い、ほぼ全例胸腔鏡下で食道切除を行っています。胸腔鏡下食道切除は導入後累計180例を超え、術後2週間で退院を目標とするクリニカルパスを運用しています。

胃癌手術はピロリ菌の除菌や内視鏡治療の適応拡大などで年間150件前後と少し減少傾向にあります。半数以上は腹腔鏡手術で進行度IとIIの一部を対象としています。腹腔鏡下胃切除の累計件数は600例を超えました。高度進行胃癌に対しては術前化学療法後に根治切除を行っています。年間10～20例で、術前化学療法後胃切除は累計142件です。

大腸癌手術は年々増加傾向にあり、県下の症例数で約230件です。うち180件が腹腔鏡手術で累計1,500件を超えました。緊急開腹手術

の適応であった大腸癌イレウス症例も内視鏡的にステント留置し、イレウス解除後待機的に腹腔鏡手術を行っています。また、直腸癌手術における骨盤側方リンパ節郭清も腹腔鏡下行うことが可能となり患者の負担を減らすことができます。また、日本の癌標準治療の確立を目的としたJCOG胃癌および大腸癌グループの参加施設として手術・化学療法の臨床試験に症例登録を行っています。

肝胆膵悪性腫瘍手術も増加傾向で高度手術技能を必要とする膵頭十二指腸切除や肝葉以上の肝切除は年間40～50件行っていて肝胆膵外科学会の施設認定を受けています。

乳癌は2000年に比べ5倍以上の増加で、年間100件を大きく超えました。他施設と異なり、温存治療（部分切除＋放射線治療）より、全摘が多いのが当院の特徴です。その背景としてはインプラントを用いた乳房再建が形成外科で可能となったことによると思われます。2016年は温存率28%、再建率27%です。

その他の手術については表をご覧ください。

### 外科手術数の推移

	2000年	2005年	2010年	2015年	2016年
手術総件数	512	796	1,094	1,088	1,142
全身麻酔	362	621	889	946	979
緊急手術	66	112	157	142	132
食道癌	8	13	27	24	21
胃癌	125	133	166	157	146
大腸癌	89	113	182	230	226
肝胆膵悪性	16	43	72	84	85
乳癌	20	49	78	96	144
胆石・胆嚢炎	51	65	84	81	98
イレウス	8	29	31	40	41
虫垂炎	33	40	62	53	35
ヘルニア	86	144	87	101	119

2015年（平成27）4月、整形外科スタッフは主任医長・長谷川淳一、高橋一雄（脊椎脊髄外科部長）、矢尻洋一、善財慶治、有海明央、勝見亮太（2014.4～2016.3）、土屋潤平（2014.10～2015.9）の7名であった。その後、勝見の後任に大溪一孝（2016.4～2017.3）が、土屋の後任に佐藤雅之（2015.10～2016.9）、続いて石坂佳祐（2016.10～2017.9）が赴任した。2008年（平成20）年1月より長岡赤十字病院、立川総合病院とともに、より入院および手術患者さんに力を注げるように新患の受付を他院からの紹介状持参の患者と救急患者に制限をした。しかし、かかりつけの患者さんの再来は、前回受診から1年以内であればフリーに再来できる状態であった。そこで2015年（平成27年）4月に再来の完全予約制を院内で初めて導入した。これによりその日の患者数が把握でき、午後の手術に影響を及ぼすことが少なくなった。救急診療では長岡3病院の当番日は原則、長岡市、小千谷市、見附市、出雲崎町の救急搬送はすべて受け入れている。診療内容としては長谷川、善財が手の外科および上肢の外傷を、高橋、矢尻が脊椎外科を、有海と後期研修の勝見、大溪が膝関節および肩関節の診療を担当している。外傷は主に整形外科初期研修の土屋、佐藤、石坂が主治医となり、上級医とともに執刀にあっている。手の外科、上肢では橈骨遠位端骨折の手術件数の増加がみられ、手関節鏡を用いて、より関節面を解剖学的位置に整復固定すべく最先端の診療を行っている。また超音波検査も行い、手術後の合併症の予防に

も努めている。脊椎外科は月曜、火曜日は原則10時半から手術を行い、年間約300件の手術を行っている。脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニア、頸椎症性脊髄症の手術が主体である。膝関節手術ではTKAは手術予約が6か月以上先の状態で、靭帯再建術、半月板手術も積極的に行い手術成績も安定してきている。また腱板損傷を中心に肩関節患者の手術件数も増加している。リウマチ外来は月に1回、県立新発田病院リウマチセンターの石川肇先生に、股関節外来は毎月第4金曜日に新潟済生会第二病院の伊藤知之先生にお願いしている。研究会については中越整形外科手術手技研究会、中越臨床整形外科研究会、中越骨・関節懇話会をそれぞれ年1回主催した。2002年（平成14年）4月から診療科のトップとして当科を牽引してきた長谷川淳一が2017年（平成29年）3月をもって退職した。後任として矢尻（2017年4月より副院長）がこれを引き継ぐことになった。

外来患者数（1日当たり）

平成27年度 124.8人

平成28年度 118.2人

入院患者数（1日当たり）

平成27年度 56.9人

平成28年度 55.5人

年間手術件数

平成27年度 1,398件

平成28年度 1,385件

手術内容 実績	平成27年度	平成28年度
大腿骨近位部骨折	142件	129件
うち人工骨頭挿入術	43件	41件
脊椎総数	342件	296件
頸椎	56件	45件
腰椎	228件	207件
上肢（手、手関節、肘関節）		
骨折、脱臼、靭帯損傷	167	161
腱手術	11	22
手根管・肘部管症候群	70	51
手関節鏡手術	21	43
腫瘍・腫瘍類似疾患	9	23
膝・肩関節手術総数	315	319
関節鏡手術総数	210	198
人工膝関節置換術（UKA）	74（8）	90（7）
前十字靭帯再建術	46	55
関節鏡視下半月板縫合・切除	57	58
肩腱板断裂手術（関節鏡視下）	30（30）	28（23）
肩関節脱臼手術（関節鏡視下）	8（8）	16（14）

当科創設者であられる、前科長の星先生が2013年（平成25年）に引退されたあと、1年2カ月の間、一人科長として外来、手術、病棟、救急外来診療を行ってきました。

2014年（平成26年）7月、杏林大学から渡辺医師が赴任、二人体制になった為、以降、外来、入院ともに患者数が飛躍的に増加しました。

## 外来患者数（1日当たり）

	平成27年度	平成28年度
平均	19.2	20.1

## 入院患者数（1日当たり）

	平成27年度	平成28年度
平均	4.8	5.9

続いて当科での手術件数です。

## 症例実績件数

区 分	平成27年	平成28年
1. 外傷	41	47
2. 先天異常	19	6
3. 腫瘍	323	336
4. 瘢痕拘縮・ケロイド	9	8
5. 難治性潰瘍	26	24
6. 炎症・変性疾患	16	9
7. 美容（手術）	18	4
8. レーザー治療		33
合 計	451	502

外傷では、挫創、裂創などの軟部組織損傷は多いのですが、顔面骨骨折は減少傾向で、シートベルトや自動車の安全性が増したからだと思

います。特に多発骨折が減っています。また熱傷も件数的に減少しているため、植皮術も減っています。先天異常は、口唇口蓋裂、手足の多合指症、臍突出症などで、漏斗胸の手術はかなり減少しました。かつては漏斗胸手術だけで年平均25件位は行っていました。

腫瘍は良性、悪性含め一番多くなっております。また他施設に比して、難治性潰瘍は多く、褥瘡、糖尿病、下肢ASOなどの増加が原因と思われる。

2013年（平成25年）7月より、乳がんが乳房全摘手術を行った患者さんが人工乳腺による乳房再建術を保険適用下で行うことが可能になりました。当科でも専門とする渡辺医師が来てから、かなり行うようになりました。

## 乳房全摘後の乳房再建術

平成27年	平成28年
6	42

外科で切除し、同時に組織拡張器を挿入し、充分組織が広がったところで、人工乳腺に入れ替えています。その後、乳頭・乳輪形成術まで行った方もいます。

さらに当科に念願のQスイッチ・ルビーレーザーが導入されました。この最新機器の特性として、色素脱失などの治療のムラがなくなり、炎症が軽減され早く治ることが可能です。保険適応での太田母斑、異所性蒙古斑をはじめ、適応外（自費）での、しみ・あざなどの色素沈着の治療も増加しています。

## 1. 概要

	2016年	2015年
外来患者数（新患）	815	864
入院患者数	538	541
退院患者数	537	550
外来患者数延数	10,820	11,441
入院患者延数	10,802	10,287
手術件数	159	175
死亡件数（入院死亡のみ）	42	40
剖検数	0	0
剖検率		

## 2. 剖検の内容

	2016年	2015年
全身解剖	0	0
局所解剖		
脳腫瘍		
脳血管障害		
外傷		
その他		

## 3. 月別患者延数（外来・入院）

	外来		入院	
	2016年	2015年	2016年	2015年
1月	764	907	937	766
2月	858	867	724	815
3月	1,005	998	707	797
4月	945	1,022	982	942
5月	892	933	1,078	1,218
6月	981	1,115	890	974
7月	861	1,029	916	823
8月	905	920	875	781
9月	790	890	857	795
10月	1,010	876	996	870
11月	885	935	922	761
12月	924	949	918	745
合計	10,820	11,441	10,802	10,287

## 4. 月別新患数（外来・入院）

	外来		入院	
	2016年	2015年	2016年	2015年
1月	60	65	51	55
2月	75	78	29	42
3月	71	64	45	38
4月	70	79	55	58
5月	75	79	51	53

	外来		入院	
	2016年	2015年	2016年	2015年
6月	80	98	41	54
7月	51	68	45	42
8月	69	68	52	39
9月	49	83	37	38
10月	87	53	49	45
11月	62	60	36	42
12月	66	69	47	35
合計	815	864	538	541

## 5. 1日平均入院患者数、平均在院日数

	1日平均入院患者数		平均在院日数	
	2016年	2015年	2016年	2015年
1月	30.2	24.7	20.8	14.5
2月	25.0	29.1	18.1	16.9
3月	22.8	25.7	16.8	20.0
4月	32.7	31.4	16.9	17.1
5月	34.8	39.3	22.1	23.2
6月	29.7	32.5	19.2	17.3
7月	29.6	26.6	19.6	16.7
8月	28.2	25.2	17.4	19.3
9月	28.6	26.5	20.4	21.5
10月	32.1	28.1	20.5	17.7
11月	30.7	25.4	23.3	17.2
12月	29.6	24.0	19.3	19.1
平均	29.5	28.2	19.5	18.4

## 6. 月別手術件数

	2016年	2015年
1月	13	14
2月	11	17
3月	13	17
4月	17	18
5月	19	17
6月	11	19
7月	17	16
8月	15	7
9月	10	15
10月	12	13
11月	11	10
12月	10	12
合計	159	175

## 7. 疾患別退院患者数

	2016年	2015年
脳腫瘍	62 実数(47)	53 実数(41)
脳血管障害	293	313
脳出血	72	84
くも膜下出血 (破裂動脈瘤含む)	21	31
未破裂脳動脈瘤	11	19
脳動静脈奇形	1	2
脳梗塞	174	163
TIA・RIND	5	7
モヤモヤ病	2	4
その他	7	3
頭部外傷	44	38
慢性硬膜下血腫・水腫	75	81
小児疾患		
水頭症		
脊椎披裂		
その他		
機能的疾患	35	37
てんかん	22	21
三叉神経痛		1
顔面痙攣	2	1
その他	11	14
脊椎・脊髄疾患	2	
腫瘍	1	
血管障害		
外傷	1	
その他		
感染性疾患	6	4
脳膿瘍	1	
髄膜炎	1	1
その他	4	3
頭蓋・頭皮・顔面疾患		
眼窩内疾患	2	
その他	18	24
計	537	550

## 8. 脳腫瘍の組織診断

	2016年	2015年
glial tumor	7	11
glioblastoma	2	6
anaplastic astrocytoma	1	
anaplastic oligodendroglioma	1	2
anaplastic ependymoma		1
astorocytoma		
pilocytic astrocytoma	2	
oligodendroglioma		2
oligoastrocytoma		
ependymoma		
subependymoma		
medulloblastoma		
ganglioglioma		
brain stem glioma		
others	1	
meningioma	10	5
pituitary tumor	0	7
functioning adenoma		
non-functioning adenoma		6
Rathke's cyst		1
neurinoma	1	0
acoustic	1	
trigeminal		
jugular foramen		
others		
congenital tumor	1	0
craniopharyngioma	1	
chordoma		
epidermoid		
dermoid		
metastatic tumor	7	4
malignant lymphoma	1	1
hemangioblastoma	1	1
hemangiopericytoma		
cavernous angioma		1
central neurocytoma		
olfactory neuroblastoma		
others		1
unknown		
Total	28	31

## 9. 手術症例の実態

	2016年	2015年
脳腫瘍	35	34
摘出術	26	21
原発	19	17
神経膠腫	5	9
髄膜腫	10	5
神経鞘腫	1	0
血管芽腫	1	1
頭蓋咽頭腫	1	0
その他	1	2
転移性	7	4
生検術	1	3
定位生検術	1	1
経蝶形骨洞手術	0	6
下垂体腺腫	0	5
減圧開頭術	0	0
シャント術	2	1
脳室ドレナージ術	1	0
その他	4	2
脳血管障害	35	55
脳動脈瘤直達術	17	30
破裂脳動脈瘤	11	20
未破裂脳動脈瘤	6	10
脳動静脈奇形摘出術	0	1
脳内血腫除去術（開頭）	2	3
定位的脳内血腫除去術	0	0
内視鏡下脳内血腫除去術	4	0
血行再建術	3	2
CEA	2	1
減圧開頭術	1	2
シャント術	2	10
脳室ドレナージ術	1	0
その他	3	6
頭部外傷	66	72
急性硬膜下血腫	2	5
急性硬膜外血腫	2	3
脳内血腫	0	0
陥没骨折修復術	0	0
慢性硬膜下血腫	62	63
減圧開頭術	0	0
シャント術	0	0
その他	0	1
頭蓋内感染症	15	3
脳膿瘍	2	0
硬膜外膿瘍	1	0
ドレナージ術	5	2
その他	7	1
微小血管減圧術	1	0
顔面けいれん	1	0
三叉神経痛	0	0

	2016年	2015年
先天奇形	0	1
水頭症・シャント術	0	0
水頭症・ドレナージ術	0	0
脊髄髄膜瘤	0	0
くも膜嚢胞	0	1
その他	0	0
脊椎・脊髄疾患	0	0
腫瘍	0	0
血管障害	0	0
脊椎疾患	0	0
その他	0	0
頭蓋・頭皮疾患	0	1
頭蓋骨腫瘍	0	0
その他	0	1
眼窩内腫瘍	1	0
頭蓋形成術	2	4
シャント術	2	3
その他	2	2
計	159	175
血管内治療	3	1
脳動脈瘤塞栓術	0	0
PTA, stenting	0	0
局所血栓溶解療法	0	0
腫瘍塞栓術	3	1
動脈閉塞術	0	0
硬膜動静脈瘻塞栓術	0	0
総計	162	176

## 10. 検査件数

	2016年	2015年
脳血管撮影	69	90
脳脊髄MRI	2,299	2,414
脳脊髄CT	2,547	2,790
脳波	251	267
誘発電位	37	36
A B R	2	1
S E P	20	22
B R	15	13
術中モニタリング	11	25

当科は呼吸器疾患の外科領域、とくに肺癌の手術治療を中心として1995年に当時の相馬孝博医師によって発足され現在に至ります。当時、肺癌の手術は大開胸が主体でありましたが当科では発足当時から胸腔鏡併用による小開胸手術、いわゆるVATS (Video Assisted Thoracic Surgery) を適応していました。その後つねに手技の改善をかさね、現在ではほぼすべての肺癌症例に対してモニターのみの手技で切除する完全鏡視下手術を適応しています。

完全鏡視下手術には様々なメリットがあります。患者さんからの観点では、開胸手術と比較して創部は孔だけなので、傷による痛みその他の侵襲が小さいことがあげられます。それにより術後早期の実生活復帰に有利となります。治療側からの観点では、開胸手術は術後の胸腔内への出血などによる癒着が生じますが、孔だけの鏡視下手術では癒着がすくなく再手術などへの安全性にも寄与します。また手術中の観点からみても、術者、助手、そのほかスタッフがすべて同じモニター画像を観ることによって視野を共有することで進行を円滑かつ安全にすることに重要点があります。我々は大開胸から徐々に胸腔鏡併用による小開胸手術へと移行しその際に様々な問題点とぶつかりました。小開胸は侵襲を減らす効果が期待できますが、いっぽう、術者は直接視野に対し助手はモニター視野を観るため助手による理想的な補助が困難になる問題を感じました。また小開胸は直接覗く場合は視野が小さく、それにより死角が増えるデメリットを感じました。そこで必然的に術者も同

じモニターを観る完全鏡視下手術へと移行しました。それは自然な流れでもありました。

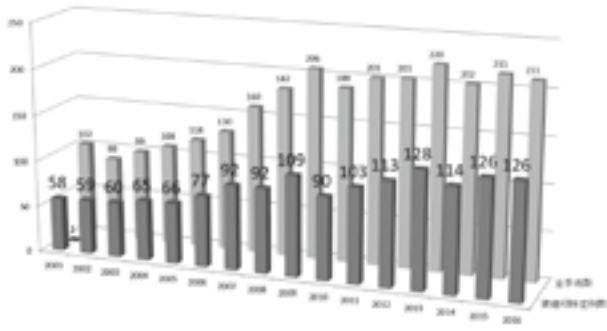
当科では2009年頃より飛躍的に完全鏡視下切除の割合が増え、2011年頃からはほぼ100%に近い割合で完全鏡視下手術を適応させ、現在に至ります。

肺癌切除症例数も発足当時60例ほどでありましたが、2011年からは常に100例を超え、新潟県内においても有数の件数を維持しております。完全鏡視下手術は高度な技術を要求されませんが、鍛錬と工夫によって、より安全かつ無理のない手術を意識し、経年的にみると平均手術時間の短縮、平均出血量の減少を可能にしました。スタッフは東京の杏林大学病院呼吸器外科と連携をとり学術的技術的交流をなお一層高めています。

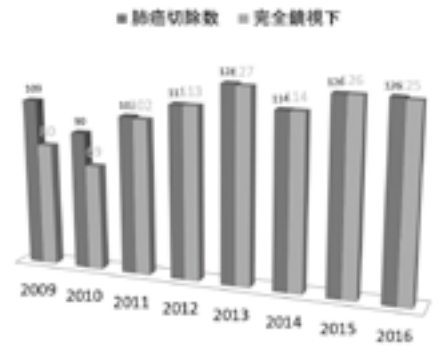
今後はより患者さんにいかにメリットになるか、さらに後継者を育てていくかを重点において勤めていく所存であります。



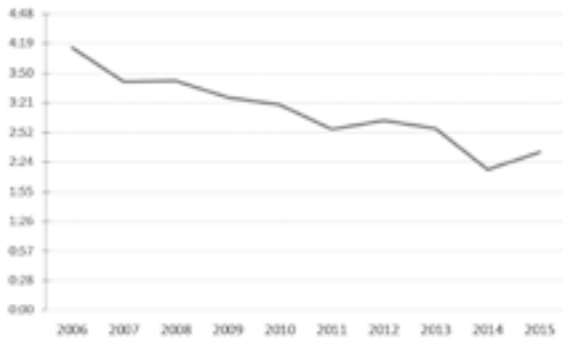
手術数年次推移



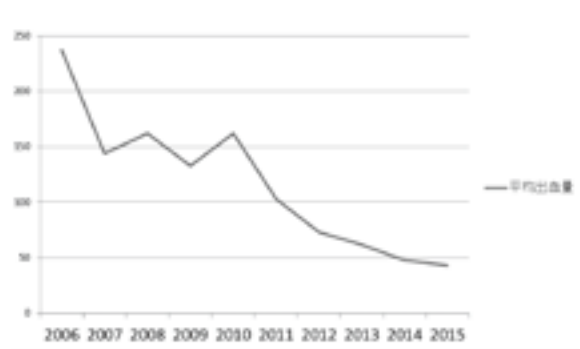
完全鏡視下における肺癌手術数変遷



平均手術時間



平均出血量(ml)



当血管外科は2002年4月に開設され、閉塞性動脈硬化症や下肢静脈瘤等の末梢血管疾患に対する手術の他に、内シャント造設や中心静脈ポート造設なども行ってまいりました。

閉塞性動脈硬化症は、糖尿病患者や透析患者の増加とともに下腿以下の末梢病変の割合が増加し、血管内治療の症例が増加傾向にあります。

静脈瘤については2015年に高周波（ラジオ波）による血管内治療が導入され、従来の手術と比較して低侵襲な治療が行えるようになりました。

内シャントは年々手術数が増加し、それに伴って血管内治療の件数も増加しております。

中心静脈ポートの造設も年々増加傾向にあり、昨年は初めて100例を超えました。これからも安全なポート作製に努めていきたいと存じます。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

			2015	2016
閉塞性動脈硬化症	バイパス術	大腿動脈領域	6	9
		下腿領域	1	3
	動脈形成術		5	4
	血管内治療		27	39
四肢の動脈瘤			0	0
動脈の血栓除去術			1	1
血液透析関連	内シャント造設術		25	24
	血管内治療		43	64
下肢静脈瘤	高周波（ラジオ波）焼灼術		0	73
	ストリッピング術		13	1
	高位結紮術		37	11
中心静脈ポート植え込み術			87	103
血管造影検査			21	36

**●スタッフ**

和泉純子、高橋利幸、坂本ふみ子（非常勤医）  
短期レジデント

平成27年度：永野啓、田中宏明、北村直也、  
佐藤真帆、村田雅樹、

平成28年度：茂木大輔、関本浩之、酒井瑛平

**●診療**

常勤医師は週4回の外来診療と非常勤医は週  
2回の外来診療に携わり、入院患者はチームで  
診療にあたっている。

外来延べ患者は総数平成27年度20,034人、  
平成28年度19,288人。実患者数は平成27年度  
3,639人、平成28年度3,448人。

1日平均は平成27年度82.1人、平成28年度  
79.1人。内訳は両年度共に皮膚炎群が80%台  
であった。主にアトピー性皮膚炎（平成27年  
度511人平成28年度491人）、接触皮膚炎（平  
成27年度500人平成28年度550人）、脂漏性  
皮膚炎（平成27年度416人平成28年度397人）。  
蕁麻疹は両年度共に8%台（平成27年度323  
人平成28年度298人）。感染症は主に帯状疱疹  
（平成27年度218人平成28年度207人）、足白  
癬爪白癬（平成27年度398人平成28年度429  
人）、蜂窩織炎（平成27年度66人平成28年度  
62人）、希な感染症はライム病（平成28年度1  
人）であった。乾癬（平成27年度120人平成  
28年度146人）。水疱症は水疱性類天疱瘡（平  
成27年度20人平成28年度29人）、尋常性天疱  
瘡（平成27年度3人平成28年度3人）、落葉状  
天疱瘡（平成27年度4人平成28年度4人）。薬  
疹（平成27年度99人平成28年度97人）、ス

ティーブンス・ジョンソン症候群（平成27年  
度7人平成28年度6人）、薬剤性過敏症症候群  
（平成27年度1人平成28年度1人）。菌状息肉  
症（平成27年度6人平成28年度5人）等であ  
る。

その他特徴として生物学的製剤による乾癬治  
療や特発性の慢性蕁麻疹の治療を行っている。  
また、より短時間で効果的な紫外線療法治療が  
可能である高輝度ターゲット型エキシマライ  
トによる治療を導入。その他多職種連携による  
フットケアの実践も積極的に行っている。

救急の多くは蕁麻疹、蜂刺症（平成27年度  
104人平成28年度57人、通常の外来患者数を  
含む）熱傷（平成27年度116人平成28年度166  
人、通常の外来患者を含む）であった。

入院患者の主な疾患は重症な帯状疱疹や重症  
型薬疹（スティーブンス・ジョンソン症候群  
薬剤性過敏症症候群）である。

さらに多職種によるチーム医療

①褥瘡対策チーム（褥瘡の啓蒙、教育。褥瘡治  
療。当病院全入院患者の褥瘡発症予防）

②栄養サポートチーム

③訪問看護（水疱性類天疱瘡や褥瘡）などに力  
を入れている。

一般的に人は生活情報の8割を視覚から得ていると言われていました。また角膜は人体表面の痛覚で最も鋭敏な部位になります。このため見えにくい・痛みや違和感がある・涙が出る等の様々な症状で日常生活に支障を来す原因を取り除くために治療を行っています。

当科は平成26年から眼科医2人常勤体制から1人医長に減員となっておりますが、新潟大学および開業医よりご協力をいただき平日はほぼ2名で診療と手術にあたっております。

また平成28年6月から当院が電子カルテに移行するにあたり眼科は完全予約制・紹介制に変更し、より個人の生活ニーズや背景因子にカスタマイズされた治療計画に沿って治療を行うことが可能となりました。平成29年7月にはロービジョンケア施設を申請し拡大鏡・遮光眼鏡等の選択や日常生活に役立つ情報を詳しくご提供できるようになりました。なお当院で対応困難な症例は対応可能な医療機関へ患者様の承諾を得て紹介させていただいております。

平成27・28年度の手術実績は白内障手術（水晶体再建術）が500件以上と最多で、患者様のニーズに合わせて日帰りもしくは2泊3日ですぐれも入院で手術を行っています。網膜硝子

体手術・緑内障手術は合わせて約100～150件程度と患者様の高齢化に伴い増加傾向です。そのほか軽微な外眼部外来手術（翼状片・結膜良性腫瘍・眼瞼内反症等）も行っております。また加齢黄斑変性症・網膜静脈閉塞症による黄斑浮腫・糖尿病黄斑症等に対し外来にて抗VEGF（血管内皮細胞増殖因子）治療を行っており、平成28年度は約300件施行しております。

これからも最新の知見と人的資源・治療機器を駆使し、患者様がよりよい日常生活を送れるように最大限の努力と研鑽を続けていきたいと考えております。

	外来患者数 (人/日)	入院患者数 (人/日)	手術件数 (件/年)	手術内訳 (件)			
				水晶体再建術	硝子体茎頭微鏡下離断術	緑内障手術	その他
平成27年度	83.4	8.2	754	629	90	14	21
平成28年度	63.7	8.0	729	527	140	31	31

産婦人科医師は現在5名体制で稼働している。2015年6月に魚沼基幹病院の開院にともない本多啓輔が同院に異動し、かわりに古俣大が勤務している。また、2016年3月末の加藤政美副院長の退職にともない、松本賢典が大学から異動になっている。この2年の間に産婦人科の体制は大きく変化した。また、産婦人科専攻医が1名、大学より派遣されており、期間中は大島彩恵子、上田遥香、風間絵里菜、齋藤強太が勤務した。

産科診療は、例年通りに月90件の分娩を基本として稼働しており、2015年は1,067件、2016年は1,044件であった。帝王切開は2015年153件（14.3%）、2016年144件（14.1%）であり、センター機能をもつ病院としては極めて低値で推移している。新潟県における地域周産母子センターとしての機能もあり、近隣からの母体搬送や産褥期搬送を受け入れている。2016年には母体搬送15件、産褥期搬送が5件あった。魚沼基幹病院が開院したこともあり、当院への搬送は三条地区からのものが半数以上をしめる。

婦人科診療では、不妊治療以外の全般に対応している。悪性疾患は内視鏡手術の希望者は新潟大学に依頼しているが、多くは当院で加療している。手術症例は2015年では子宮頸癌8例、子宮体癌15例、卵巣癌27例であり、2016年では、それぞれ5例、22例、17例であった。良性疾患の内視鏡手術は、古俣の勤務に伴い増加しており、2016年には68例の腹腔鏡下手術が行われた。一方、当院での特徴である骨盤臓器

脱および腹圧性尿失禁の治療では、県内から多くの紹介をいただいております。2015年には骨盤臓器脱手術115例、尿失禁手術65例であり、2016年はそれぞれ119例、58例であった。骨盤臓器脱手術では全国のDPC導入病院で13位の症例数になっている。現在手術待機時間の延長が問題となっており、今後の改善が待たれる。

2015年度および2016年度の当科の常勤医は4名（うち3名が放射線診断専門医）で、放射線技師27名、看護師6名、事務5名とともに働いております。

撮影装置は320列1台を含むマルチスライスCT4台、MRI2台（1.5Tと3.0T各1台）、乳房撮影装置2台、US装置1台、血管撮影装置2台、X線テレビ装置5台、一般撮影装置5台、骨塩測定装置1台のほか、胃部・胸部撮影検診車4台、乳房撮影検診車4台があり、年間およそ13万件の検査を行っています。放射線科医はその多くを読影しております。2016年度までは消化管造影やUSの検査も施行しておりました。ドックや検診、健康診断にも力を入れているのも特色です。ほかにも系列病院や近隣施設からの読影依頼を数多く受け入れております。なお諸般の事情から放射線科医施行のIVRは軀

幹部の止血目的TAEなど緊急時のみ請け負っております。

放射線治療は週のべ4名の新潟大学からの出張医に診療支援をお願いしています。

研修にも力を入れており、研修医ほぼ全員が放射線科を選択しています。

昨今の流れとしてはCT撮影の広範囲化と内容の高度化、MRIの増加傾向があります。CTに関しては被曝とのバランスを考えた最適化を技師と検討の上で行っております。MRIは数の要求を満たすために画質を保ちながら撮影時間を減らすべく努力しておりますが限界があり、旧式となってきた1.5T装置の更新が待たれるところです。

画像診断は精度はもとより鮮度も大切です。素早く検査を行い、正確な読影結果をお伝えできるよう、スタッフ一同努力しております。

## 検査数

	一般撮影系	造影透視	CT	MRI	血管造影	RI	骨塩	US
2015年度	52,851	1,693	27,505	6,469	711	1,267	1,090	4,535
2016年度	51,384	1,502	27,503	6,659	751	1,428	935	4,457

## ドック・検診

	胸部	胃透視	乳房
2015年度	16,470	13,765	6,957
2016年度	15,985	12,617	6,464

## 放射線治療

2015年度	6,228
2016年度	5,583

## 1、スタッフ

平成27年度 部長：照沼 正博、高橋 英祐、  
信下 智広

医員：山口 峻介

平成28年度 部長：照沼 正博、高橋 英祐  
医長：白野 侑子  
医員：山口 峻介

## 2、診療内容

当科では泌尿器科疾患及び男性生殖器疾患を対象に診療を行った。

泌尿生殖器悪性腫瘍に対する外科的治療、抗がん化学療法、放射線治療、前立腺肥大症に対する外科的治療、薬物療法、過活動膀胱、神経因性膀胱に対する薬物療法、運動療法、生活指導、尿路結石に対する薬物療法、低侵襲手術などを行った。

近年は人口の高齢化とともに前立腺癌患者が増えており、当科でも前立腺癌の診断および治療に診療全体に占める割合が高くなっている。

## 3、診療実績

尿路結石（腎結石、尿管結石）に対して、体外衝撃波結石破砕術（ESWL）は平成27、28年はそれぞれ90例、97例で、患者一人当たりの平均治療回数は1.36回/人であった。経尿道的尿管結石破砕術（TUL）は21例から36例と増加しており、下部尿管結石（U3）に対しては積極的にTULを選択していた。

膀胱癌に対する外科的治療は経尿道的切除術（TUR-Bt）はそれぞれ114例、133例で根治

的膀胱全摘出術は2例、6例。尿路変更術はいずれも回腸導管造設術を行った。再発を繰り返すあるいは多発性表在性膀胱癌には膀胱内注入療法（BCG、マイトマイシン、ピノルビン）を外来で行った。転移を有する進行性尿路上皮癌に対してはGC化学療法を、2nd lineとしてM-VAC療法を積極的に施行した。

腎癌に対する外科的手術は従来 of 根治的腎摘出術から腎機能温存をめざす腎部分切除術が増加傾向でそれぞれ5例、9例であった。また新大泌尿器科医局のアシストにより積極的に腹腔鏡下手術を導入し平成28年は腹腔鏡下手術9例（副腎摘出：2例、腎摘出術：2例 腎尿管全摘出術：5例）、平成28年は13例（副腎摘出：3例、腎摘出術：7例、腎尿管全摘出術：3例）と増加傾向である。開腹手術に比べて手術時間は延長するが、術後の鎮痛剤の投与量を著しく減量でき、患者様のQOLが良好で術後の回復期間が短く在院日数も短縮できる。

前立腺癌については増加傾向で、新規前立腺癌患者登録数は年間100例を超えるようになった。開腹による根治的前立腺術はそれぞれ11例、9例で、最近では他院でのロボット支援手術に移行しつつあり減少傾向である。これに対し放射線治療患者は増加傾向で、また内分泌療法では、抗男性ホルモン療法の副作用を軽減し医療費も節約できる間歇的抗男性ホルモン療法も取り入れている。去勢抵抗性前立腺癌に対してはドセタキセルによる化学療法とともに昨年度（平成26年）より認可されたエンザルタミド、アビラテロンを使用することで治療の幅を広げ

比較的良好な治療成績を納め、また患者数も着実に増加している。

前立腺肥大症に対しては、QOL疾患であるため $\alpha 1$  ブロッカーなどによる薬物療法が主体

ではあるが、尿閉に陥った症例では経尿道的前立腺切除術（TUR-P）をそれぞれ26例、28例施行した。

### 主な手術（件数）

	平成27年*	平成28年*
腹腔鏡下副腎摘出術	2	3
腎部分切除術	5	9
根治的腎摘出術	5	5
腹腔鏡下腎摘出術	2	7
腎尿管全摘出術	4	0
腹腔鏡下腎尿管全摘出術	5	3
経皮的腎瘻造設術	7	11
尿管ステント留置術	32	33
根治的膀胱全摘出術	2	6
尿管皮膚瘻造設術	1	0
回腸導管造設術	2	6
経尿道的膀胱腫瘍切除術(TUR-Bt)	114	133
内視鏡下止血術	2	2
膀胱瘻造設術	2	1
膀胱水圧拡張術	3	2
精巣摘出術	12	19
高位精巣摘出術	5	3
精巣固定術	10	5
陰嚢水腫根治術	12	6
内尿道切開術	8	5
包茎手術	7	7
経尿道的前立腺切除術（TUR-P）	26	28
根治的前立腺全摘出術	11	9
前立腺生検	223	209
体外衝撃波結石破碎術（ESWL）	90	97
経尿道的結石破碎術（TUL）	21	36
膀胱碎石術	13	10

\*：1～12月



当科では、外来は紹介を中心としており、紹介のない患者さんは原則的に受診できないシステムをとっています。それでも、外来数はかなり多くかなり待ち時間が長くなり申し訳なく思っています。私一人でやっておりますので、いろいろ行き届かない点もありますが、精いっぱい状況ですので、よろしく願いいたします。

入院患者さんも、手術や悪性腫瘍の患者さん

が中心ですが、めまい・突発性難聴・顔面神経麻痺・頭頸部の重症感染症の患者さんもみえます。一日中忙しく働いていますが、何とかやってこれたのも、看護師さんをはじめとしたチームワークのたまものと感謝しています。

個々の疾患の詳しい治療の内容の話をする、きりがなくなってしまうのですが、できる限り広い範囲で耳鼻咽喉科に対応して、平均的なレベル以上を目指して頑張りたいと考えています。

## 診療実績

平成27年と28年の麻酔科の管理症例数は、それぞれ3,468例、3,520例でした。私が平成14年に長岡中央総合病院に赴任して以来、当科の管理症例数は、毎年約100症例ずつ増加していましたが、ようやくそのピークを迎えたもようです。稼働手術室数10室、病院病床数531床、外科系医師数、手術室看護職員数などの制約を考えると、ほぼ限界に近い症例数にきている、と言えるのかもしれませんが。

表にこの期間中の麻酔法別の内訳を示しました。大半が全身麻酔もしくは全身麻酔+伝達麻酔です。この2年を比較すると、28年において伝達麻酔併用の全身麻酔が約300症例増えています。これは、主として整形外科領域の麻酔において、超音波エコー装置を用いた末梢神経ブロックを併用する症例が増えていることの表れです。

また、他施設に比べ、脊髄くも膜下麻酔（いわゆる腰椎麻酔）の件数が極端に少ないことが当院の特徴といえます。この期間における脊髄くも膜下麻酔施行症例のほとんどは、帝王切開手術でした。平成14年ころまでは、当院においても脊髄くも膜下麻酔が、当科管理症例の約

30%を占めていましたが、低侵襲の気道確保法であるラリングマスクを使用した全身麻酔が多く行われるようになり、現在に至っています。

## 診療体制

平成27・28年の当科は、常勤医師4名（内指導医3名）という体制で、週に2日の新潟大学麻酔科医局からの医師派遣を受けて、診療にあたりました。この期間の常勤医師一人当たりの年間担当症例数は、800例を超えました。これは、病院機能評価で適正とされる麻酔科医師一人当たりの年間担当数400例の約2倍で、麻酔科医師不足の新潟県内でも屈指の多さといえます。麻酔科常勤医の増員で是正していかなければならない、と考えます。

また、この期間中、多くの研修医も麻酔科診療に参加してくれました。救急救命における基本的手技の体得を目指したものか、麻酔科研修への関心は高いものがあり、27年は7名、28年は8名が当科で研修を行いました。当院の臨床研修医の約8割が麻酔科研修を行ったこととなります。しかしながら、この期間で、麻酔科医への道を目指す研修医を一人も得られなかったことは、残念でなりません。

## 平成27・28年の麻酔科管理症例の麻酔法別内訳

	27年	28年
全 身 麻 酔	1,639	1,407
全身麻酔+伝達麻酔	1,700	1,984
脊髄くも膜下硬膜外併用	87	88
脊髄くも膜下麻酔	32	28
伝 達 麻 酔	10	13
計	3,468	3,520

当科は歯科医師1名（月、水曜日は新潟大学からの非常勤歯科医師も出務）、歯科衛生士3名、受付事務1名の体制で、1日約35名の外来患者の診療を行っています。平成27、28年度の新規初診患者数は合計1,701名で、そのうち、地域の歯科医院からの紹介が691名、他院医科からの紹介が46名、当院他科通院中の併診依頼が215名、当院入院中の併診依頼が327名となっていました。紹介のない初診患者のうち、緊急性、妥当性のないコンビニ受診数は平成27年度の118名から28年度は60名と半減しており、病院歯科とかかりつけ歯科の機能分担については広く認知されつつあると考えられました。

歯科医院からの紹介では、従来から、埋伏歯や智歯などの若年者の難抜歯と、抗凝固薬や抗血小板薬服用中の高齢者の抜歯がかなりの割合を占めていましたが、近年では、骨吸収抑制薬の長期服用例で、顎骨壊死を懸念した抜歯依頼が増加しています。抜歯以外では、難治性口内炎や腫瘍性の口腔粘膜疾患、顎関節症、歯と口腔粘膜の外傷などが、医科、歯科を問わず、紹介数の多い疾患となっています。

院内からの紹介では、外来、入院ともに、基礎疾患の治療中に歯の痛みや入れ歯の不具合などを訴えて歯科治療が必要となったケースが多く、全身状態に配慮しながら迅速に処置するよう心がけています。一般歯科治療以外では、睡眠時無呼吸症候群の治療としてのマウスピース製作、アレルギー性疾患の悪化要因となりうる口腔内感染巣の治療、ステロイドや骨吸収抑制薬開始前の口腔内スクリーニングなどが依頼頻

度の高いものとなっています。

平成24年度の診療報酬改定では、がん患者が手術、化学療法、放射線療法を行う際の合併症や有害事象の予防、軽減を目的とした歯周術期口腔機能管理が新設されました。平成28年度には、緩和ケアも歯周術期口腔機能管理の対象に拡大され、栄養サポートチームに歯科医師が参画すると加算が付くなど、診療報酬の点からも、病院歯科は従来以上に広範な領域で役割を果たすよう求められています。限られたマンパワーのなかでは困難なこともありますが、がん診療連携拠点病院内の歯科として、当院を受診される皆様の診療に貢献できますよう体制を整えて行きたいと考えております。

## Ⅲ 活動状況

# 主要処理事項

## 平成27年度

4月	1日(水)	転入者・新採用者着任式8:00～ 新入職員オリエンテーション9:00～ 研修医結団式19:00～	講堂 講堂 魚藤
	2日(木)	管理者会議8:30～	応接室
	3日(金)	診療対策会議15:00～(病院長)	本部
	6日(月)	中央看護専門学校入学式14:00～	ニューオータニ長岡
	7日(火)	治験審査委員会17:00～ 倫理委員会18:00～	応接室 応接室
	8日(水)	衛生委員会14:00～ 長岡市医師会定例理事会19:00～	会議室 医師会館
	9日(木)	管理者会議8:30～ NST委員会16:00～ 薬事委員会17:30～	応接室 ラウンジ ラウンジ
	11日(土)	第23回にいがた脳卒中公開講座13:30～	パストラル長岡
	13日(月)	医療材料検討委員会15:00～ 接遇委員会16:30～	ラウンジ 会議室
	15日(水)	部科課長師長会議15:00～ 病院安全管理委員会16:00～	会議室 会議室
	16日(木)	管理者会議8:30～ 院内感染防止対策委員会16:00～ 医局会議17:30～、医局歓迎会19:00～	会議室 応接室 ラウンジ 講堂、ニューオータニ長岡
	17日(金)	事務長会議13:00～	本部
	18日(土)	新潟大学 消化器内科学分野 寺井崇二教授就任祝賀会(病院長)	ホテルオークラ新潟
	19日(日)	ACLS講習会8:30～	講堂
	20日(月)	厚生連理事会13:00～(病院長) 化学療法委員会17:30～	本部 ラウンジ
	21日(火)	緩和ケア委員会17:30～	ラウンジ
	22日(水)	病院長会議15:00～(病院長)	本部
	23日(木)	管理者会議8:30～	応接室
	24日(金)	経営管理委員会13:00～(病院長) 研修管理委員会17:30～	本部 ラウンジ
	25日(土)	日本農村医学会新潟地方会第65回例会11:00～	朱鷺メッセ
	27日(月)	褥瘡対策チーム会15:00～	ラウンジ
	28日(火)	看護部長委員会10:00～ 医事課長委員会10:00～ 薬剤委員会10:30～ 薬剤部長会議13:00～	本部 本部 本部
	30日(木)	管理者会議8:30～ 新潟大学医学部関連病院長会第1回理事会(病院長)16:00～	応接室 新潟グランドホテル
5月	2日(土)	新潟大学 耳鼻咽喉科学分野 堀井新教授就任祝賀会(病院長)	イタリア軒
	7日(木)	管理者会議8:30～ システム委員会16:00～	応接室 講堂
	8日(金)	診療対策会議15:00～(病院長) 事務長委員会10:00～	本部 本部
	9日(土)	JA新潟厚生連 合同就職説明会(看護職)10:00～	講堂
	11日(月)	医療材料委員会15:00～ 接遇委員会16:30～ 救急委員会17:30～	ラウンジ 講堂 ラウンジ

12日(火)	病院運営対策委員会15:00~(病院長)	本部
13日(水)	衛生委員会14:00~ 長岡市医師会定例理事会18:45~	会議室 長岡グランドホテル
14日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会16:00~	応接室 ラウンジ
18日(月)	新潟県病院協会役員会16:00~(病院長) 事務長会議13:00~ 化学療法委員会17:30~	ホテルオークラ新潟 本部 ラウンジ
19日(火)	魚沼基幹病院竣工式11:00~(病院長) 部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~ 緩和ケア委員会17:30~ 市内3病院長会議19:00~(病院長)	魚沼基幹病院 会議室 会議室 ラウンジ 市内
21日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染防止対策委員会16:00~ 医局会議17:30~ 平成27年度第1回良医育成コンソーシアム連絡会議16:00~(富所副院長)	応接室 ラウンジ 講堂 自治会館
22日(金)	厚生連理事会13:00~(病院長) 研修管理委員会17:30~	本部 ラウンジ
25日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
26日(火)	経営管理委員会13:30~(病院長)	本部
27日(水)	病院長会15:00~(病院長)	東映ホテル
28日(木)	管理者会議8:30~	応接室
29日(金)	平成26年度決算監事監査10:00~ 協栄会総会18:00~、懇親会18:30~	会議室 ニューオータニ長岡
31日(日)	作業停電(非常系回路)9:00~12:00	全館
6月 1日(月)	親睦会総会15:00~ 支部交渉(厚生連労組)17:30~	講堂 講堂
2日(火)	治験審査委員会17:00~ 倫理委員会18:00~ 新潟大学医学部関連病院長会(病院長)15:30~ 感染対策研修会17:45~	応接室 応接室 新潟市内 講堂
3日(水)	衛生委員会14:00~	会議室
4日(木)	管理者会議8:30~ 薬事委員会17:30~ 長岡市医師会 平成27年度定時総会18:30~	応接室 ラウンジ 長岡グランドホテル
5日(金)	診療対策会議15:30~(病院長)	本部
8日(月)	事務長委員会10:00~ 医療材料委員会15:00~ 接遇委員会16:30~	本部 ラウンジ 会議室
9日(火)	第1回医療機材共同購入委員会16:00~(竹内副院長)	本部
10日(水)	厚生連理事会13:00~(病院長) 経営協議会15:30~(病院長) NST委員会16:00~ 長岡市医師会定例理事会19:00~	本部 本部 ラウンジ 医師会館
11日(木)	管理者会議8:30~ 経営管理委員会15:00~(病院長) 第1回病院祭実行委員会15:00~	応接室 会議室

13日(土)	平成27年度第1回新潟レジデントフォーラム検討会12:00~(研修医)	ANAクラウンプラザホテル
14日(日)	ACLS講習会8:30~	講堂
15日(月)	防災委員会15:00~	会議室
	クリティカルパス委員会16:00~	ラウンジ
	化学療法委員会17:30~	ラウンジ
16日(火)	部科課長師長会議15:00~	会議室
	病院安全管理委員会16:00~	会議室
	がんに関する市民公開講座17:30~	講堂
	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
17日(水)	DPC委員会16:00~	会議室
18日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	院内感染防止対策委員会16:00~	ラウンジ
	医局会議17:30~	講堂
19日(金)	事務長会議13:00~	本部
	第1回防災訓練(消火器訓練)15:00~	会議室
20日(土)	第28回新潟県厚生連外科医会15:00~	新潟グランドホテル
	看護教育研修IV(プリセプター研修)9:50~	講堂
24日(水)	病院長会議15:00~	本部
25日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	第8回新潟県ドクターヘリ症例検討・勉強会15:00~(新国副院長)	新潟医療人育成センター
26日(金)	第10回中越内視鏡外科研究会12:30~	手術室
	臨床研修管理委員会17:30~	ラウンジ
29日(月)	合同通常総会10:45~(病院長)	JAビル
	救急委員会17:30~	ラウンジ
7月 1日(水)	衛生委員会(全体)14:00~	会議室
	輸血療法委員会16:00~	5B会議室
2日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	地域保健福祉推進会議15:30~	パストラル長岡
	医療安全研修会17:30~	講堂
4日(土)	BLS研修会8:30~12:30	会議室
	第2回新潟県がん相談支援センター相談員研修会13:30~(富所副院長他)	会議室
7日(火)	治験審査委員会17:00~	応接室
	倫理委員会18:00~	応接室
9日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	放射線同位元素等取扱施設の定期検査9:30~	放射線科
	NST委員会16:00~	ラウンジ
11日(土)	第22回新潟県厚生連産婦人科医会16:00~	新潟グランドホテル
13日(月)	医療材料委員会15:00~	ラウンジ
	接遇委員会16:30~	会議室
14日(火)	参与会議17:15~(病院長)	ANAクラウンプラザホテル
15日(水)	納涼会	長岡グランドホテル
16日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	院内感染防止対策委員会16:00~	ラウンジ
	システム委員会16:00~	会議室
	医局会議17:30~	講堂
17日(金)	部科課長師長会議15:00~	会議室
	病院安全管理委員会16:00~	会議室
19日(日)	レジナビ東京(長谷川整形外科部長他)	東京ビッグサイト

	21日(火)	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
	22日(水)	新潟県災害医療研修会9:00~(新国副院長)	長岡市消防本部
	23日(木)	管理者会議8:30~ 事務長委員会10:00~ 事務長・看護部長合同会議13:00~	応接室 本部 本部
	24日(金)	臨床研修管理委員会17:30~ 長岡市医師会 ビールパーティー19:00~	ラウンジ 長岡グランドホテル
	25日(土)	新潟県夏季卒後臨床研修合同ガイダンス15:00~(新国副院長他)	新潟グランドホテル
	26日(日)	ACLS講習会8:30~	講堂
	27日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
	29日(水)	高校生一日看護師体験 新規登録保険医(勤務医)の集団指導14:00~(研修医)	講堂 パストラル長岡
	30日(木)	管理者会議8:30~ 長岡高校理数科病院見学 魚沼基幹病院システム見学(富所副院長) 病院祭部門責任者会議(第1回)15:00~	応接室 講堂 魚沼基幹病院 ラウンジ
8月	1日(土)	第14回全国厚生連病院長会研修会(病院長) 長岡まつり前夜祭民謡流し	東京ガーデンパレス 長岡駅前
	4日(火)	臨床研修医 平成28年度採用面接試験①14:00~	ラウンジ
	5日(水)	衛生委員会14:00~ 厚生連医局懇談会16:00~	会議室 本部
	6日(木)	管理者会議8:30~ 中越地区ネットワーク会議18:00~	応接室 パストラル長岡
	7日(金)	事務長委員会10:00~ 診療対策会議15:00~(病院長)	本部 本部
	8日(土)	看護教育研修(看護の質向上研修)9:50~ 中央看護専門学校オープンスクール9:30~16:00	講堂 学校
	10日(月)	接遇委員会16:30~ 医療材料委員会15:00~	会議室 ラウンジ
	12日(水)	長岡市医師会定例理事会19:00~	医師会館
	13日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会16:00~	応接室 ラウンジ
	14日(金)	施設休日	
	17日(月)	部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~ 厚生連オーダリングシステム委員会・電算委員会合同会議14:00~(富所副院長他) 化学療法委員会16:30~ 協栄会講演会・納涼会17:45~	会議室 会議室 本部 ラウンジ ニューオータニ長岡
	18日(火)	臨床研修医 平成28年度採用面接試験②14:00~ 緩和ケア研修17:30~	ラウンジ 講堂
	20日(木)	管理者会議8:30~ 平成27年度第2回感染防止対策合同カンファレンス(魚沼)14:30~ 院内感染防止対策委員会16:00~ 病院祭部門責任者会議(第2回)15:00~	応接室 ラウンジ ラウンジ 検討会室
	21日(金)	事務長会議13:00~	本部
	24日(月)	経営協議会10:30~(病院長) 厚生連理事会13:00~(病院長)	本部 本部
	26日(水)	病院長会議15:00~	本部



	27日(木)	管理者会議8:30~ 厚生連経営管理委員会14:00~	応接室 JAビル
	31日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
9月	1日(火)	火災予防の立入検査(長岡消防本部)9:30~ 院内感染対策研修会18:00~	全館 講堂
	2日(水)	衛生委員会14:00~ 輸血療法委員会16:00~	会議室 5B会議室
	3日(木)	管理者会議8:30~ 薬事委員会17:30~ 全厚・事務長研修会(~4日)	応接室 ラウンジ 東京都内
	5日(土)	BLS研修会8:30~	会議室
	7日(月)	救急委員会17:30~	ラウンジ
	8日(火)	治験審査委員会17:00~ 診療対策会議13:30~(病院長) 病院運営対策委員会15:00~(病院長)	応接室 本部 本部
	9日(水)	事務長委員会10:00~	本部
	10日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会16:00~	応接室 ラウンジ
	11日(金)	長岡市医師会全体懇談会18:45~ 第12回新潟医師臨床研修指導医講習会(~12日)渡邊庄治内科部長	長岡グランドホテル イタリア軒
	12日(土)	看護教育研修I(倫理研修)10:00~ 新潟県災害医療コーディネート研修(~13日)中村内科部長	講堂 新潟県庁
	14日(月)	接遇委員会16:30~	会議室
	15日(火)	部科課長師長会議15:00~ 医療安全管理委員会16:00~ 緩和ケア委員会17:30~	会議室 会議室 ラウンジ
	16日(水)	病院長会15:00~ 病院祭部門責任者会議15:00~	東映ホテル 会議室
	17日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染防止対策委員会16:00~ 医局会議17:30~	応接室 ラウンジ 講堂
	18日(金)	事務長会議13:00~	
	24日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	25日(金)	厚生連理事会13:00~(病院長)	本部
	28日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
	29日(火)	看護部長会議10:00~	本部
10月	1日(木)	管理者会議8:30~ 新潟県がん診療連携協議会 緩和ケア部会16:00~(三浦Ns.)	応接室 新潟市民病院
	2日(金)	診療対策会議15:00~(病院長)	本部
	4日(日)	作業停電(一般回路)9:00~	全館
	5日(月)	接遇委員会16:30~ 医局向け電子カルテシステム運用説明会17:00~	会議室 講堂
	6日(火)	医療安全研修会①16:00~、17:30~ 治験審査委員会17:00~	講堂 応接室
	7日(水)	衛生委員会14:00~	ラウンジ
	8日(木)	管理者会議8:30~ 放射線技師長・主任会議13:30~(坂上技師長) NST委員会16:00~	応接室 本部 ラウンジ

	9日(金)	事務長委員会10:00~	本部
	10日(土)	新潟大学皮膚科学分野 阿部理一郎教授就任祝賀会(病院長)19:00~	イタリヤ軒
	13日(火)	中央看護専門学校 戴帽式14:00~	ニューオータニ長岡
	14日(水)	長岡市医師会定例理事会19:00~	医師会館
	15日(木)	管理者会議8:30~	応接室
		新潟県がん診療連携協議会 情報連携部会15:00~	会議室
		院内感染対策委員会16:00~	ラウンジ
		医局会議17:30~、医局歓迎会19:00~(ニューオータニ長岡)	講堂
	16日(金)	事務長会議10:00~	本部
		第2回病院祭実行委員会15:00~	会議室
	18日(日)	ACLS講習会8:30~	講堂
	19日(月)	部科課長師長会議15:00~	看護学校第4教室
		医療安全管理委員会16:00~	看護学校第4教室
		平成27年度長岡地域災害医療コーディネーターチーム講演会13:30~	長岡リリックホール
		医療安全研修会②17:30~	講堂
	20日(火)	厚生連理事会13:00~(病院長)	本部
		緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
	22日(木)	第64回日本農村医学会学術総会(~23日、秋田市)	秋田県民会館他
	24日(土)	越後ながおか農業まつり9:00~	ハイブ長岡
	26日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
	27日(火)	厚生連経営管理委員会13:00~(病院長)	本部
	28日(水)	病院長会議15:00~	本部
	29日(木)	管理者会議8:30~	応接室
		システム委員会16:00~	会議室
	30日(金)	平成27年度プログラム責任者養成講習会(~31日)中村部長 福井総合病院 電子パス見学(河内外科部長他)	千葉県船橋市 福井県福井市
	31日(土)	第21回病院祭10:00~	
		新潟大学外科学第二講座 開講50周年記念講演会・祝賀会17:00~(病院長)	ANAクラウンプラザホテル新潟
11月	2日(月)	救急委員会17:30~	ラウンジ
	3日(火)	緩和ケア研修会①8:30~	講堂
	4日(水)	衛生委員会(全体)14:00~	会議室
		輸血療法委員会16:00~	5B会議室
		新潟県がん診療連携協議会18:00~(病院長)	県立がんセンター新潟病院
	5日(木)	管理者会議8:30~	応接室
		防災委員会15:00~	会議室
		役員訪問による収支改善・説明会16:00~	会議室
	6日(金)	診療対策会議14:00~(病院長)	当院応接室
	9日(月)	医療材料検討委員会15:00~	ラウンジ
		接遇委員会16:30~	会議室
	10日(火)	病院運営対策委員会15:00~(病院長)	本部
	11日(水)	仮決算監事監査10:00~	講堂
		長岡市医師会定例理事会19:00~	医師会館
	12日(木)	管理者会議8:30~	応接室
		NST委員会16:00~	ラウンジ
	13日(金)	世界糖尿病デー ブルーサークル点灯式17:00~	中庭
	14日(土)	新潟県がん診療連携協議会 教育研修部会12:30~(新国副院長他)	新潟医療人育成センター
	15日(日)	緩和ケア研修会②8:30~	講堂
	16日(月)	部科課長師長会議15:00~	会議室

	病院安全管理委員会16:00~	会議室
17日(火)	平成27年度第2回防災訓練15:30~	講堂
	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
18日(水)	事務長会議13:00~	本部
	平成27年度 個人情報保護研修会17:30~	講堂
19日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	院内感染対策委員会16:00~	ラウンジ
	医局会議17:30~	講堂
	平成27年度第2回良医育成新潟県コンソーシアム連絡会議17:00~(中村部長)	新潟医療人育成センター
20日(金)	医療事故調査制度に関する研修会17:30~	講堂
21日(土)	新潟大学脳研究所神経内科 開講50周年記念祝賀会17:30~(病院長)	ホテルオークラ新潟
23日(月)	新潟大学形成外科学教室 松田健教授就任祝賀会12:00~(病院長)	ホテルオークラ新潟
25日(水)	厚生連病院長会15:00~(病院長)	本部
	平成27年度第3回感染防止対策合同カンファレンス(魚沼)15:00~	ラウンジ
26日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	経営管理委員会14:00~(病院長)	本部
27日(金)	長岡保健所 立入検査13:30~	会議室
	臨床研修管理委員会17:30~	ラウンジ
28日(土)	厚生連病院長セミナー10:00~(病院長)	東京都内
30日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
	コンプライアンス研修会①16:30、17:30	講堂
12月 1日(火)	個人情報保護委員会16:00~	会議室
	治験審査委員会17:00~	応接室
	倫理委員会18:00~	応接室
2日(水)	農林水産省現物実査(2日~4日)	
	衛生委員会14:00~	会議室
3日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	創立80周年記念誌 出版祝賀会18:00~	パストラル長岡
	新潟大学第6年次生臨床実習協力施設連絡会(岩島部長)	新潟大学医学部
7日(月)	コンプライアンス研修会②16:30、17:30	講堂
8日(火)	中越地区診療ネットワーク会議18:00~	パストラル長岡
	コンプライアンス研修会③16:30、17:30	講堂
9日(水)	長岡市医師会役員会18:45~	ニューオータニ長岡
10日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	NST委員会16:00~	ラウンジ
	薬事委員会17:30~	ラウンジ
11日(金)	診療対策会議15:00~(病院長)	本部
14日(月)	業務適正化委員会15:30~	応接室
	医療材料検討委員会15:00~	ラウンジ
	接遇委員会16:30~	会議室
15日(火)	部科課長師長会議15:00~	会議室
	病院安全管理委員会16:00~	会議室
16日(水)	事務長会議13:00~	応接室
	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
17日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	理事会13:00~(病院長)	本部
	院内感染対策委員会16:00~	ラウンジ
	病院大忘年会18:00~	ニューオータニ長岡

18日(金)	医局会議17:30~	講堂
21日(月)	経営管理委員会14:30~(病院長) DPCセミナー17:30~	JAビル 講堂
22日(火)	厚生連病院長会議15:00~(病院長)	本部
24日(木)	管理者会議8:30~	応接室
28日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
30日(水)	仕事納め	
1月 4日(月)	仕事始め 長岡市賀詞交換会11:30~ 病院長年頭挨拶17:30~	アオーレ長岡 講堂
6日(水)	衛生委員会14:00~ 輸血療法委員会16:00~	会議室 5B会議室
7日(木)	管理者会議8:30~	応接室
8日(金)	診療対策会議15:00~(病院長) 市内4病院長会議18:45~ NST委員会16:00~	本部 市内 ラウンジ
11日(月)	病院運営対策委員会15:00~(病院長) 接遇委員会16:30~	本部 会議室
14日(木)	管理者会議8:30~	応接室
18日(月)	農林水産省常例検査 本検査(18日~22日) 部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~ 化学療法委員会17:30~	講堂(18,19日)会議室(20~22日) 会議室 会議室 ラウンジ
19日(火)	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
20日(水)	事務長会議13:00~	本部
21日(木)	厚生連理事会13:00~(病院長) 管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~ 医局会議17:30~ 医局新年会19:00~	本部 応接室 ラウンジ 講堂・ニューオータニ長岡
22日(金)	事務長・看護部長合同会議10:00~	本部
25日(月)	厚生連経営管理委員会14:30~ 褥瘡対策チーム会15:00~	JAビル ラウンジ
27日(水)	厚生連病院長会議15:00~ 長岡市医師会 平成28年新年会19:00~	本部 ニューオータニ長岡
28日(木)	管理者会議8:30~ 診療報酬改定セミナー17:15~	応接室 講堂
29日(金)	研修管理委員会17:30~	ラウンジ
2月 2日(火)	治験審査委員会17:00~ 倫理委員会18:00~	応接室 応接室
3日(水)	衛生委員会14:00~ 第8回中越臨床研修医研究会18:45~	会議室 医師会館
4日(木)	管理者会議8:30~ 田宮崇医師叙勲祝賀会18:00~(八幡副院長)	応接室 ニューオータニ長岡
5日(金)	診療対策会議15:00~(病院長)	本部
8日(月)	医療材料検討委員会15:00~ 接遇委員会16:30~	ラウンジ 会議室
10日(水)	NST委員会15:30~ 長岡市医師会定例理事会19:00~	ラウンジ 医師会館

13日(土)	平成27年度第3回 新潟県臨床研修フォーラム15:00~(研修医)	新潟グランドホテル
15日(月)	内部監査10:00~ 救急委員会17:30~ 化学療法委員会17:30~	会議室 会議室 ラウンジ
16日(火)	部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~ 緩和ケア委員会17:30~	会議室 会議室 ラウンジ
17日(水)	DPC委員会16:00~ 事務長会議13:00~	会議室 本部
18日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~ システム委員会16:00~ 医局会議17:30~	応接室 ラウンジ 会議室 講堂
19日(金)	厚生連理事会13:00~(病院長)	本部
21日(日)	ACLS講習会8:30~	講堂
22日(月)	電子カルテ(入院)本稼働 経営健全化対策委員会14:00~(病院長)	JAビル JAビル
23日(火)	厚生連経営管理委員会13:00~(病院長)	あがの市民病院
24日(水)	厚生連病院長会議14:00~(病院長) 長岡市救急懇談会18:30~	ニューオータニ長岡
25日(木)	管理者会議8:30~ 労使調整・懸案事項研究会9:30~(事務長)	応接室 本部
26日(金)	県医師会病院長会議15:30~(病院長) 厚生連医局会理事会18:00~	ANAクラウンプラザホテル ラウンジ
29日(月)	経営協議会15:00~(病院長) 褥瘡対策チーム会15:00~	本部 ラウンジ
3月 1日(火)	運営審議委員会16:30~ フェニックスネット後方支援システム運用説明会19:00~(富所副院長他)	ホテルニューオータニ長岡 医師会館
2日(水)	衛生委員会14:00~ 輸血療法委員会16:00~ 研修医地域医療研修協議会19:00~	会議室 5B会議室 ニューオータニ長岡
3日(木)	管理者会議8:30~ 医療安全管理代表者会議14:00~(桐生副看護部長) 中央看護専門学校卒業式13:30~ 薬事委員会17:30~	応接室 本部 ニューオータニ長岡 ラウンジ
4日(金)	診療対策会議15:00~(病院長)	本部
5日(土)	春季新潟県卒後臨床研修合同ガイダンス14:30~(岩島部長他)	ホテルオークラ新潟
7日(月)	放射線安全管理委員会・放射性同位元素管理委員会16:00~ 救急委員会17:30~	応接室 ラウンジ
8日(火)	病院運営対策委員会15:00~(病院長) 医療ガス安全管理委員会16:00~ 治験審査委員会17:00~	本部 会議室 応接室
9日(水)	業務適正化委員会16:00~ 感染対策研修会①17:30~ 長岡市医師会定例理事会19:00~	応接室 講堂 医師会館
10日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会15:30~	応接室 ラウンジ
14日(月)	厚生連理事会13:00~(病院長)	本部

	医療材料検討委員会15:00~	ラウンジ
	接遇委員会16:30~	会議室
15日(火)	厚生連経営管理委員会12:50~(病院長)	JAビル
	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
16日(水)	随時監査(コンプライアンス・個人情報)13:00~	旧事務長室
	拡大研修管理委員会18:30~	講堂
17日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	院内感染対策委員会16:00~	ラウンジ
	医局会議17:30~	講堂
18日(金)	事務長・看護部長合同会議13:00~	本部
	コンプライアンス委員会14:45~	会議室
	部科課長師長会議15:00~	会議室
	病院安全管理委員会16:00~	会議室
19日(土)	新潟大学神経内科学分野 西澤正豊教授退任記念祝賀会17:30~(病院長)	ホテルオークラ新潟
	厚生連医局会総会15:30~	ホテルラグンウッド新潟
20日(日)	レジナビフェアin東京(研修医)	東京ビッグサイト
22日(火)	臨床研修修了発表会17:30~	講堂
	臨床研修修了式・祝賀会19:30~	ニューオータニ長岡
	第1回中越地域医療構想検討会19:00~(事務長)	長岡地域振興局
23日(水)	厚生連病院長会15:00~(病院長)	万代シルバーホテル
	長岡市医師会 平成27年度臨時総会19:00~	医師会館
24日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	感染対策研修会②17:30~	講堂
28日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
30日(水)	合同臨時総会10:00~	JAビル
31日(木)	管理者会議8:30~	応接室

#### 平成28年度

4月 1日(金)	転入者・新入職員対面式8:00~	講堂
	新入職員オリエンテーション9:00~	講堂
	診療対策会議13:30~(病院長)	本部
	研修医 結団式19:00~	たいしん
	長岡中央総合病院付属 栃尾郷クリニックへ組織変更	
2日(土)	平成28年度第1回 新潟県臨床研修フォーラム13:00~(研修医)	ANAクラウンプラザホテル
5日(火)	治験審査委員会17:00~	応接室
	倫理委員会18:00~	応接室
6日(水)	看護学校入学式14:00~	ニューオータニ長岡
	衛生委員会15:30~	旧事務長室
7日(木)	管理者会議8:30~	応接室
11日(月)	接遇委員会16:30~	会議室
13日(水)	長岡市医師会定例理事会19:00~	医師会館
14日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	NST委員会15:30~	ラウンジ
18日(月)	新潟大学6年次生臨床実習(第1クール)~5/20(金)	
	部科課長師長会議15:00~	会議室
	病院安全管理委員会16:00~	会議室
19日(火)	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
20日(水)	事務長会議13:00~	本部

21日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~ 医局会議17:30~ 医局歓迎会19:00~	応接室 ラウンジ 講堂、ニューオータニ長岡
23日(土)	日本農村医学会新潟地方会11:00~	講堂
25日(月)	厚生連理事会15:00~(病院長) 褥瘡対策チーム会15:00~	本部 ラウンジ
27日(水)	経営管理委員会12:30~(病院長) 病院長会議15:00~	本部 本部
28日(木)	管理者会議8:30~	応接室
5月 7日(土)	JA新潟厚生連 中越地区看護職合同就職説明会10:00~	講堂
9日(月)	医療材料検討委員会15:00~ 接遇委員会16:30~ 救急委員会17:30~	ラウンジ 講堂 ラウンジ
10日(火)	診療対策会議13:30~病院運営対策会議15:00~(病院長) 治験審査委員会17:00~ 倫理委員会18:00~	本部 応接室 応接室
11日(水)	衛生委員会15:30~ 長岡市医師会定例理事会役員会18:45~	会議室 長岡グランドホテル
12日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会15:30~	応接室 ラウンジ
14日(土)	第24回にいがた脳卒中公開講座13:30~	パストラル長岡
16日(月)	部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~ 長岡市内3病院長会議19:00~	会議室 会議室 いまつ
17日(火)	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
19日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~ 医局会議17:30~	応接室 ラウンジ 講堂
20日(金)	事務長・看護部長合同会議13:00~	本部
22日(日)	非常系回路・作業停電9:00~12:00	全館
23日(月)	厚生連理事会13:00~(病院長) 新潟大学6年次生臨床実習(第2クール)~6/17(金)	本部 本部
25日(水)	病院長会15:00~(病院長)	本部
26日(木)	管理者会議8:30~ 平成27年度決算監事監査10:00~ 新潟県がん診療連携協議会 情報連携部会13:30~(川原外科部長他)	応接室 会議室 県立がんセンター
27日(金)	研修管理委員会17:30~	ラウンジ
29日(日)	新潟大学腎研究センター設立記念講演会14:00~(病院長)	ホテルオークラ新潟
30日(月)	経営管理委員会13:50~(病院長) 褥瘡対策チーム会15:00~	JAビル ラウンジ
31日(火)	病院親睦会総会15:00~ 第1回良医育成コンソーシアム連絡会議18:00~(岩島内科部長他)	会議室 自治会館
6月 1日(水)	衛生委員会15:30~ 平成28年度長岡市医師会定時総会18:30~	会議室 長岡グランドホテル
2日(木)	管理者会議8:30~ 防災委員会15:00~ 薬事委員会17:30~	応接室 会議室 ラウンジ
5日(日)	ACLS研修会8:30~	講堂

6日(月)	防災訓練(新採用・転勤者対象)15:00~	講堂
7日(火)	治験審査委員会17:00~	応接室
8日(水)	長岡市医師会定例理事会19:00~	医師会館
9日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会15:30~	応接室 ラウンジ
10日(金)	病院祭実行委員会(第1回)15:00~	会議室
11日(土)	第29回新潟県厚生連外科医会15:00~	新潟グランドホテル
13日(月)	診療対策会議15:00~(病院長) 医療材料検討委員会15:00~ 接遇委員会16:30~	本部 ラウンジ 会議室
14日(火)	電子カルテ(外来)導入リハーサル17:00~ 厚生連小千谷総合病院上棟式	
15日(水)	厚生連理事会13:00~(病院長)	本部
16日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~ 医局会議17:30~ 経営管理委員会14:40~(病院長)	応接室 ラウンジ 講堂 本部
17日(金)	電子カルテ(外来)本稼働8:30~ 事務長会議13:00~	本部
20日(月)	部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~ 新潟大学6年次生臨床実習(第3クール)~7/15(金)	会議室 会議室
22日(水)	厚生連病院長会議15:00~(病院長) DPC委員会16:00~	本部 会議室
23日(木)	管理者会議8:30~	応接室
24日(金)	第11回中越内視鏡外科研究会13:00~	手術室
27日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
30日(木)	管理者会議8:30~ JA合同通常総会11:00~(病院長)	応接室 JAビル
7月 2日(土)	第23回新潟県厚生連産婦人科医会16:00~	新潟グランドホテル
4日(月)	地域福祉推進会議15:30~ 救急委員会17:30~	パストラル長岡 ラウンジ
5日(火)	治験審査委員会17:00~ 倫理委員会18:00~ 厚生連労組・支部交渉17:15~	応接室 応接室 会議室
6日(水)	新規登録保険医の集団指導(1年目研修医)14:00~ 第2回病院祭実行委員会(責任者会議)16:00~ 輸血療法委員会16:00~	長岡リリックホール 会議室 5B会議室
7日(木)	管理者会議8:30~ 診療録管理委員会16:00~ 日本農村医学会常任理事会~8日(病院長)	応接室 会議室 東京都内
9日(土)	平成28年度第2回新潟県臨床研修フォーラム10:00~(研修医)	オークラホテル新潟
11日(月)	医療材料検討委員会15:00~ 接遇委員会16:30~	ラウンジ 会議室
12日(火)	診療対策会議13:30~、病院運営対策委員会15:00~(病院長)	本部
13日(水)	衛生委員会(全体)15:00~ 医療安全管理研修会16:10~、17:20~ 長岡市医師会定例理事会19:00~	会議室 講堂 医師会館



14日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会15:30~	応接室 ラウンジ
15日(金)	事務長会議13:00~	本部
16日(土)	関東甲信越医師会連合会医療保険部会15:00~(病院長)	東京都内
17日(日)	レジナビ東京(岩島内科部長他)	東京ビッグサイト
19日(火)	コンプライアンス委員会14:45~ 部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~ 緩和ケア委員会17:30~	会議室 会議室 会議室 ラウンジ
20日(水)	納涼会18:30~	長岡グランドホテル
21日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~ 医局会議17:30~ 看護部長会議10:00~	応接室 ラウンジ 講堂 本部
22日(金)	厚生連理事会13:00~(病院長) 新潟大学基金贈呈式15:00~(病院長) 平成28年度長岡市医師会ビールパーティー19:00~	本部 本部 新潟医療人育成センター 長岡グランドホテル
23日(土)	臨床研修指導医講習会(加勢産婦人科部長)~24日 ACLS研修会8:30~	上越市内 講堂
25日(月)	医局懇談会16:00~(病院長他) 個人情報保護委員会16:00~ 褥瘡対策チーム会15:00~	本部 会議室 ラウンジ
27日(水)	厚生連病院長会15:00~、臨時病院長会議16:00~ 看護師一日体験(7/29日の2日間)	本部 会議室
28日(木)	管理者会議8:30~ 長岡高校理数科 病院見学13:30~	応接室 会議室
29日(金)	新・栃尾郷クリニック オープニングセレモニー15:00~	栃尾郷クリニック
8月 1日(月)	長岡まつり民謡ながし	
2日(火)	平成29年度 臨床研修医採用試験(1日目)	ラウンジ
3日(水)	衛生委員会15:00~	講堂
4日(木)	管理者会議8:30~ 感染対策研修会②17:30~ 中越地区地域医療構想協議会19:00~(病院長)	応接室 講堂 長岡保健所
5日(金)	収支状況説明会17:30~ 第3回病院祭実行委員会(責任者会議)16:00~	講堂 会議室
6日(土)	中央看護専門学校 オープンスクール9:30~16:00 全国厚生連病院長会(病院長)	看護学校 東京都内
8日(月)	医療材料検討委員会15:00~ 接遇委員会16:30~ 長岡市救急懇談会19:00~	ラウンジ 会議室 長岡消防本部
9日(火)	治験審査委員会17:00~ 新潟県医療人育成センター運営協議会16:00~(病院長)	会議室 医療人育成センター
10日(水)	診療対策会議15:00~(病院長) NST委員会16:00~ 長岡市医師会定例理事会19:00~	ラウンジ 医師会館
11日(木)	夏季新潟県卒後臨床研修合同ガイダンス13:30~(岩島内科部長他)	ANAクラウンプラザホテル新潟
12日(金)	病院施設休日	
16日(火)	平成29年度 臨床研修医採用試験(2日目)	ラウンジ

	コンプライアンス研修会①16:30~、17:30~	講堂
	事務長会議13:00~	本部
17日(水)	部科課長師長会議15:00~	会議室
	病院安全管理委員会16:00~	会議室
	コンプライアンス研修会②16:30~、17:30~	講堂
	薬剤部長委員会10:00~、薬剤部長会議13:00~	本部
18日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	院内感染対策委員会16:00~	ラウンジ
19日(金)	放射線治療装置選定委員会15:00~	会議室
23日(火)	コンプライアンス研修会③16:30~、17:30~	講堂
25日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	厚生連理事会13:00~(病院長)	本部
26日(金)	経営管理委員会14:00~(病院長)	本部
29日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
30日(火)	システム委員会16:00~	会議室
31日(水)	病院長会議15:00~	本部
9月 1日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	薬事委員会17:30~	ラウンジ
	平成28年度第1回医療安全代表者会議13:00~(桐生副看護部長)	本部
	全国厚生連事務長研修会~2日(高橋事務長)	東京都内
5日(月)	救急委員会17:30~	ラウンジ
6日(火)	診療対策会議14:30~(病院長)	ANAクラウンプラザホテル新潟
	病院運営対策委員会15:30~、参与会議17:15~(病院長)	ANAクラウンプラザホテル新潟
	治験審査委員会17:00~	応接室
	倫理委員会18:00~	応接室
7日(水)	衛生委員会15:30~	会議室
	輸血療法委員会16:00~	5B会議室
	平成28年度長岡市医師会全体懇談会18:45~	ニューオータニ長岡
8日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	NST委員会16:00~	ラウンジ
12日(月)	上・中越JA会長・組合長・常勤役員会議14:45~(病院長)	パストラル長岡
	医療材料検討委員会15:00~	ラウンジ
	接遇委員会16:30~	会議室
13日(火)	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
14日(水)	第4回病院祭実行委員会(責任者会議)15:00~	ラウンジ
	長岡市医師会定例理事会19:00~	医師会館
15日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	院内感染対策委員会16:00~	ラウンジ
	医局会議17:30~	講堂
	第47回全国厚生連薬剤長会議・学術総会~17日(薬剤部長)	京都市
16日(金)	事務長会議13:00~	本部
20日(火)	コンプライアンス委員会14:45~	会議室
	部科課長師長会議15:00~	会議室
	病院安全管理委員会16:00~	会議室
23日(金)	研修管理委員会17:30~	
25日(日)	一般回路・作業停電9:00~12:00	全館
26日(月)	厚生連理事会13:00~(病院長)	本部
	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ

	28日(水)	看護部長会議10:00~ 厚生連病院長会15:00~(病院長)	本部 本部
	29日(木)	管理者会議8:30~ 業務適正化委員会15:30~	応接室 応接室
	30日(金)	第13回新潟医師臨床研修指導医講習会~1日(矢尻部長)	イタリア軒
10月	4日(火)	治験審査委員会17:00~ 臨床研修センター(仮称)設置に向けた会議15:00~(岩島内科部長他)	応接室 本部
	5日(水)	第5回病院祭実行委員会(全体会)13:30~ 衛生委員会15:30~	会議室 会議室
	6日(木)	管理者会議8:30~ 新潟県がん診療連携協議会緩和ケア部会16:00~(三浦看護師) 感染対策研修会①17:30~	応接室 新潟市民病院 講堂
	7日(金)	診療対策会議15:00~(病院長)	本部
	11日(火)	接遇委員会16:30~	会議室
	12日(水)	感染対策研修会②17:30~ 長岡市医師会定例理事会19:00~	講堂 医師会館
	13日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会16:00~	応接室 会議室
	15日(土)	第22回病院祭10:00~	病院・看護学校
	17日(月)	中央看護専門学校戴帽式14:00~	ニューオータニ長岡
	18日(火)	部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~	会議室 会議室
	20日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~ 医局会議17:30~、医局歓迎会19:00~	応接室 ラウンジ 講堂、ニューオータニ
	21日(金)	立川綜合病院 新築落成記念祝賀会12:10~(病院長) 事務長会議13:00~	ニューオータニ長岡 本部
	23日(日)	平成28年度 緩和ケア研修会(PEACE)①	講堂
	24日(月)	厚生連理事会13:00~(病院長) 厚生連病院長会議15:00~(病院長)	本部 本部
	27日(木)	第65回日本農村医学会学術総会(~28日)	三重県志摩市
	28日(金)	新潟県がん診療連携協議会研修教育部会18:00~	新潟大学医歯学総合病院
	29日(土)	JA越後ながおか農業祭10:00~	ハイブ長岡
	30日(日)	平成28年度 緩和ケア研修会(PEACE)②	講堂
	31日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
11月	1日(火)	ファミリーマート長岡中央綜合病院店 9:00開店 治験審査委員会17:00~ 診療科部長会議18:00~	売店 応接室 講堂
	2日(水)	衛生委員会(全体)15:00~ 輸血療法委員会16:00~ 平成28年度新潟県がん診療連携協議会18:00~(病院長、富所副院長) 医療安全研修会18:00~	会議室 5B会議室 県立がんセンター 講堂
	7日(月)	救急委員会17:30~	ラウンジ
	8日(火)	上期監事監査10:00~	会議室
	9日(水)	長岡市医師会定例理事会19:00~	医師会館
	10日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会16:00~	応接室 ラウンジ
	11日(金)	防災委員会15:00~	会議室

14日(月)	医療材料検討委員会15:00~ 接遇委員会16:30~ 長岡市内4病院長会議19:00~	ラウンジ 会議室 市内
15日(火)	診療対策会議13:30~(病院長) 病院運営対策委員会15:00~(病院長) 緩和ケア研修会17:30~	本部 本部 講堂
16日(水)	部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~	看護学校 看護学校
17日(木)	管理者会議8:30~ 施設基準等に係る適時調査11:00~ 院内感染対策委員会16:30~ 医局会議17:30~	応接室 ラウンジ ラウンジ 講堂
18日(金)	事務長会議13:00~	本部
22日(火)	厚生連理事会13:00~(病院長) 第2回良医育成新潟県コンソーシアム連絡会議18:00~(富所副院長)	本部 新潟県自治会館
24日(木)	管理者会議8:30~	応接室
25日(金)	厚生連経営管理委員会14:00~(病院長)	本部
28日(月)	個人情報保護研修会17:30~ 褥瘡対策チーム会15:00~	講堂 ラウンジ
29日(火)	防災訓練14:00~ (訓練開始14:30)	会議室
30日(水)	看護部長会議10:00~ 厚生連病院長会15:00~(病院長) 病院祭実行委員会(反省会)15:00~	本部 本部 会議室
12月 1日(木)	管理者会議8:30~ 薬事委員会17:30~	応接室 ラウンジ
2日(金)	診療対策会議15:00~(病院長)	本部
6日(火)	治験審査委員会17:00~ 倫理委員会18:00~	応接室 応接室
7日(水)	臨床研修センター(仮称)設立準備委員会15:00~(岩島内科部長) 衛生委員会15:30~	本部 会議室
8日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会16:00~	応接室 ラウンジ
12日(月)	長岡保健所立入検査13:30~	会議室
13日(火)	接遇委員会16:30~	会議室
14日(水)	長岡市医師会定例理事会役員会18:45~	ニューオータニ長岡
15日(木)	管理者会議8:30~ 平成28年度第2回新潟県がん診療連携協議会情報連携部会13:30~(川原外科部長) 院内感染対策委員会16:00~ 病院大忘年会18:00~	応接室 がんセンター ラウンジ ニューオータニ長岡
16日(金)	事務長会議13:00~ 部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~ 医局会議17:30~ ※開催日変更	本部 会議室 会議室 講堂
18日(日)	ACLS研修会8:30~	講堂
20日(火)	厚生連理事会13:00~(病院長) 緩和ケア委員会17:30~	本部 ラウンジ
21日(水)	経営管理委員会14:30~(病院長)	本部
22日(木)	管理者会議8:30~	応接室

26日(月)	内部監査10:00~ 褥瘡対策チーム会15:00~	会議室 ラウンジ
27日(火)	放射線治療装置機種選定委員会14:15~	会議室
28日(水)	臨時理事会14:45~ 厚生連病院長会議15:00~(病院長) 臨時事務長委員会9:00~ 臨時事務長会議10:30~(事務長)	本部 本部
29日(木)	管理者会議8:30~	応接室
30日(金)	仕事納め	
1月 4日(水)	仕事始め 長岡市賀詞交換会11:30~(病院長他) 病院長年頭挨拶17:30~ 衛生委員会15:30~	アオーレ 講堂 会議室
5日(木)	管理者会議8:30~	応接室
10日(火)	接遇委員会16:30~	会議室
11日(水)	診療対策会議13:30~(病院長) 病院運営対策委員会15:00~(病院長) 長岡市医師会定例理事会19:00~	本部 本部 医師会館
12日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会16:00~	応接室 ラウンジ
16日(月)	部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~ 救急委員会17:30~	会議室 会議室 ラウンジ
17日(火)	吉川病院長「日本農村医学会賞」受賞祝賀会18:30~ 緩和ケア委員会17:30~	魚藤 ラウンジ
19日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~ 医局会議17:30~ 医局新年会19:00~	応接室 ラウンジ 講堂 ニューオータニ長岡
20日(金)	事務長会議13:00~	本部
23日(月)	厚生連理事会13:00~(病院長)	本部
25日(水)	経営管理委員会14:40~ 長岡市医師会 新年会19:00~ 輸血療法委員会16:00~	本部 ニューオータニ長岡 5B会議室
26日(木)	管理者会議8:30~	応接室
27日(金)	臨床研修管理委員会17:30~ 厚生連医局会理事会(新年会)18:00~	ラウンジ ホテル日航新潟
30日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
2月 1日(水)	衛生委員会15:30~	会議室
2日(木)	管理者会議8:30~ 第9回中越臨床研修医研究会18:45~	応接室 医師会館
3日(金)	診療対策会議15:00~(病院長)	本部
4日(土)	新潟県卒後臨床合同ガイダンス13:30~(岩島内科部長他)	オークラホテル新潟
6日(月)	中越地区病院ネットワーク会議18:30~ 長岡地域救急懇談会18:00~	パストラル長岡 長岡市消防本部
7日(火)	治験審査委員会17:00~	応接室
8日(水)	平成28年度随時監査13:30~(医療安全、個人情報、コンプラ) 長岡市医師会定例理事会19:00~	会議室 医師会館
9日(木)	管理者会議8:30~ NST委員会16:00~	応接室 ラウンジ

13日(月)	医療材料検討委員会15:00~ 接遇委員会16:30~	ラウンジ 会議室
14日(火)	緩和ケア委員会17:30~	ラウンジ
16日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~ 医局会議17:30~	応接室 ラウンジ 講堂
17日(金)	新潟県医師会病院長会議15:00~ 事務長会議13:00~	オークラ新潟 本部
19日(日)	JMECC研修会8:30~	講堂
20日(月)	厚生連理事会13:00~(病院長)	本部
21日(火)	部科課長師長会議15:00~ 病院安全管理委員会16:00~	会議室 会議室
22日(水)	経営協議会14:00~(病院長) 病院長会議15:00~(病院長) 保険診療研修会17:30~	本部 本部 講堂
23日(木)	管理者会議8:30~ 経営健全化対策委員会15:00~(病院長) 第13回新潟県ドクターヘリ症例検討会15:00~ 地域医療研修協議会18:30~	応接室 本部 新潟県医療人育成センター ニューオータニ長岡
24日(金)	経営管理委員会13:00~(病院長)	本部
27日(月)	褥瘡対策チーム会15:00~	ラウンジ
3月 1日(水)	長岡中央総合病院 たんぽぽ保育園 開園式8:30~ 衛生委員会15:30~ 輸血療法委員会16:00~	院内保育園 会議室 5B会議室
2日(木)	管理者会議8:30~ 中央看護専門学校卒業式13:30~ 薬事委員会17:30~	応接室 ニューオータニ長岡 ラウンジ
3日(金)	運営審議委員会16:30~ 厚生連医局会理事会18:00~	ニューオータニ長岡 ラウンジ
6日(月)	放射線安全管理委員会・放射性同位元素管理委員会16:00~ 救急委員会17:30~	応接室 会議室
7日(火)	業務適正化委員会15:30~ 治験審査委員会17:00~ 倫理委員会18:00~	応接室 応接室 応接室
8日(水)	診療対策会議13:30~(吉川病院長) 病院運営対策委員会15:00~(吉川病院長) 医療ガス安全管理委員会16:00~ 長岡市医師会定例理事会19:00~	本部 本部 会議室 医師会館
9日(木)	管理者会議8:30~ 新潟県医師会理事会15:00~	応接室 県医師会館
13日(月)	厚生連理事会13:00~(吉川病院長) ホームページ委員会17:00~ 拡大臨床研修管理委員会18:00~	本部 会議室 講堂
14日(火)	経営管理委員会13:20~(吉川病院長) 保険診療研修会17:30~ 緩和ケア委員会17:30~	本部 講堂 ラウンジ
16日(木)	管理者会議8:30~ 院内感染対策委員会16:00~	応接室 ラウンジ

	医局会議17:30~	講堂
17日(金)	小千谷総合病院新築工事竣工式10:00~(吉川病院長)	小千谷総合病院
	学術教育委員会16:00~	検討会室
18日(土)	新生児蘇生法講習会(NCPR)13:00~	講堂
19日(日)	レジナビ・スプリング2017(岩島内科部長他)	都内
21日(火)	事務長・看護部長合同会議13:00~(高橋事務長、鈴木看護部長)	本部
	コンプライアンス委員会15:45~	会議室
	部科課長師長会議15:00~	会議室
	病院安全管理委員会16:00~	会議室
22日(水)	厚生連病院長会15:00~(吉川病院長)	ANAクラウンプラザホテル
23日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	臨床研修修了発表会17:30~	講堂
	臨床研修修了式・祝賀会19:30~	ニューオータニ長岡
	新潟県医師会理事会15:00~	県医師会館
24日(金)	長岡市医師会 平成28年度臨時総会19:00~	医師会館
28日(火)	吉川病院長退任記念祝賀会18:30~	ニューオータニ長岡
29日(水)	新潟県ドクターヘリ運航開始式15:00~(富所副院長)	長岡赤十字病院
30日(木)	管理者会議8:30~	応接室
	JA合同臨時総会10:30~(吉川病院長、富所副院長)	JAビル

# 病院安全管理委員会・医療安全部会

医療安全管理責任者 本 田 浩 美

安全管理部門では、インシデントレポート及び事故報告の集計を収集・分析し、各部門のコアメンバーが集まり毎週水曜日に、医療安全が遂行できるように防止対策を検討し、病院安全管理委員会に対策の提案を行いました。また、医療安全研修企画をし、職員の医療安全に対する啓蒙活動をおこなってきました。

## 平成27・28年度活動内容

### 1. ヒヤリハット・アクシデント報告件数

	報告件数
平成27年 (2015/4/1-2016/3/31)	1,388
平成28年 (2016/4/1-2017/3/31)	1,368

### 2. 全報告からの種類別件数集計 (4/1~3/31) 比較

	H27年	H28年
薬 剤	552	536
転 倒 ・ 転 落	388	381
ドレーン・チューブ	194	164
検 査	71	69
療 養 上 の 世 話	45	65
治療・処置・手術	45	41

### 3. 針刺し事象件数

平成27年度 19件 看護部：11件、医師：6件、臨床検査技師：2件

平成28年度 18件 看護部：9件、医師：1件、臨床検査技師：5件

臨床研修医：2件、放射線科：1件

・安全機構を正しく作動させなかった、針捨てボックスを持参しないなどマニュアル違反が多かった。



#### 4. 院内医療安全研修

平成27年度

- ・「注射・採血にかかわる神経損傷・医療事故」講師：長谷川 淳一 整形外科部長
- ・「医療事故調査制度について」講師：林 達彦 村上総合病院長

平成28年度

- ・患者サポート窓口とは？ 「苦情相談」え！どうしよう 参加者：418名  
講師：患者サポート窓口 外山幸子専従看護師、医療安全管理者 桐生京子看護師
- ・最強医療「コミュニケーション」 講師：Wまこと 参加者：128名

#### 5. 意見箱・苦情対応

平成27年度 意見箱160件

平成28年度 意見箱156件

患者サポート窓口対応

平成27年度 苦情報告 …………… 66件

平成28年度 相談件数 …………… 9,365件

診療科の案内 …… 2,725件

受付後の受診方法がわからない…1,954件

苦情 …………… 38件

今後も患者サポート窓口と医療安全管理部と連携し、患者・家族からの相談対応をしていきます。

# 院内感染防止対策委員会

感染管理認定看護師 山崎直子

## 2015 (平成27) 年度 総括

### 1、感染情報レポート作成 MRSA、耐性菌、血液培養検出菌 (各月レポートにて報告)

急告書配布事例 31 件 (重複 1 件)

内訳: *ESBL* 21例、Ampc型βラクタマーゼ産生菌 4例、結核 (肺結核) 1例、多剤耐性緑膿菌 1例、病原性大腸菌O-25 1例 (*ESBL*と重複)、病原性大腸菌O-157 2例、カルバペネム耐性腸内細菌 1例

*ESBL*、Ampc型βラクタマーゼ産生菌、合わせて25例中、入院時の検体から検出された持ち込み事例は18件

### 2、保健所届け出事例 21件

内訳: ライム病 1例、劇症型溶血性連鎖球菌感染症 2例、アメーバ赤痢 1例

侵襲性肺炎球菌感染症 6例、腸管出血性大腸菌O-157 2例、梅毒 1例、結核 8例 (胸水 1例、T-spot 1例、喀痰 1例、肺胞洗浄液 1例、胃液 1例、尿 2例、リンパ節 1例)

### 3、抗菌薬使用状況 (表1、表2参照)

### 4、針刺し切創報告

報告数19件

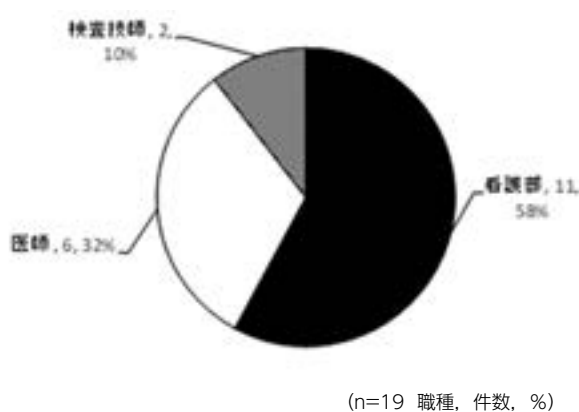


図1 平成27年度 職種別 針刺し切創事例

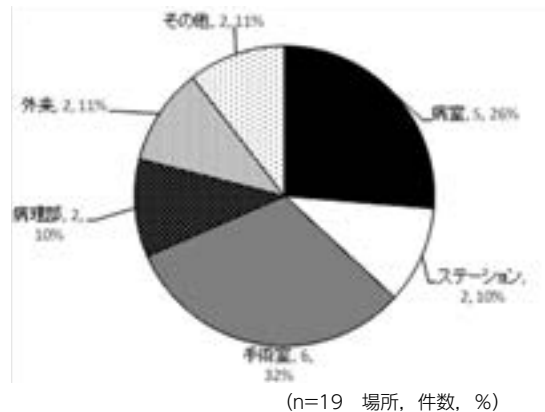


図2 平成27年度 針刺し切創発生場所

- ・職種別にみると、鋭利物を取り扱う看護師 (助産師 助手含む)、医師、臨床検査技師の3職種での発生であった。
- ・昨年度より上半期にかけ、携帯型廃棄容器を落下させ、廃棄物を拾おうとした際に発生した事例が複数あったため、再発防止策として看護部内では携帯型廃棄容器の仮蓋を閉じること原則とし、鋭利物を落とした際に拾い上げる鉗子などを配布した。病棟では、仮蓋を閉じることに関して協力を得られている。

- ・安全機構付針の動作不全による針刺しが依然として発生している。新入職員や転入者はもちろん、看護部を中心に鋭利物を取り扱う職員にむけて定期的に安全機構付針類の取扱いに関する研修をしていく必要がある。
- ・発生部署は病室（病棟）以外に、手術室での発生が多い。病理部での切創事象も減少していない。

## 5、マニュアル改訂

- 1) 院内感染防止対策委員会規約 改訂 6月1日
- 2) 届け出が必要な感染症発生時の報告ルート内に「アウトブレイクの考え方と対応について」を追加 12月1日

## 6、院内研修

- 1) 4月1日開催 「新入職員オリエンテーション 身に付けよう、院内感染防止対策」39名参加（新入職員 研修医含む）
- 2) 4月15日開催 「新人看護師技術研修 ～感染管理・安全機構付針の取扱い方法～」24名参加
- 3) 6月2日開催「現場力UPでまだまだできる!! 標準予防策・環境整備 ～平成26年度 評価者からのメッセージ～」220名参加  
講師：長岡赤十字病院 塩入 久美子 感染管理認定看護師
- 4) 9月1日開催 「感染症診療事始め2015－抗菌薬適正使用に向けて－」  
214名参加 講師：Sapporo Medical Academy 代表理事 感染症コンサルタント 岸田 直樹 医師
- 5) 11月10日・26日開催 「うつらない！うつさない！ノロウイルス、インフルエンザ流行シーズンに向けて！！」  
242名参加 講師：感染管理認定看護師 吉田 直子
- 6) 3月9日・24日開催 「見て、やって、防ぐ院内感染！みんなで取り組む感染経路別予防策」216名参加 講師：感染管理認定看護師 関 千代

## 7、感染防止対策チーム（ICT）活動（活動内容詳細は委員会内で報告）

- ・定期ミーティング（1回/週）
- ・院内ラウンド（1回/週）
- ・感染防止対策合同カンファレンス（魚沼病院）  
第1回5月21日、第2回8月20日、第3回11月25日、第4回2月18日
- ・新潟医療関連感染制御コンソーシアム（CHAIN）総会参加 7月25日（土）
- ・ICTニュース発行（5月、1月、2月、3月）
- ・感染防止対策地域連携相互チェック（済生会三条病院）  
10月26日 当院→済生会三条病院評価 11月30日 済生会三条病院→当院評価

- ・定期レジオネラ環境検査

8月4日実施 病棟共用シャワー室シャワー湯 特殊浴槽湯

3月14日実施 病棟個室水道湯 特殊浴槽湯

## 8、その他

- ・パウダー付きディスポーザブル手袋運用について検討（6月）
- ・中東呼吸器症候群（MERS）対応（6月～）
- ・レジオネラ環境検査陽性箇所対応（8月～9月）
- ・中心ライン関連血流感染サーベイランス開始（9月～）
- ・整形外科術後創部感染事例対応（8月～）
- ・中央滅菌室 流し周囲環境検査（10月～ 1回/月実施）
- ・新型インフルエンザ等対策に係る医療機関の対応について回答（11月）
- ・電子カルテ チーム医療 感染対策チーム運用開始（2月）

## 9、監査対応等

- 1) 11月27日 長岡保健所 立ち入り検査 … 委員会での恒常的欠席者の指摘
- 2) 1月18日～22日 農林水産省 常例検査 … 指摘事項なし
- 3) 3月16日 厚生連本部随時監査 … 指摘事項なし

## 10、総括

7月に院内で手術後創部感染事例が複数発生しました。9月の手術にて発症した事例以降、新たな感染事例は発生していません。長岡保健所に報告し、現在も定期的な環境検査を実施しています。

感染対策チームの活動は、メンバーの協力により週に1回のラウンドとミーティングを予定通り実施できました。ラウンドでは各部署の担当者の立ち会いを依頼していましたが、ラウンド時間が夕方であるため、外来部門では立ち会いがないことも多く、フィードバック用紙のみ返却することもありました。外来では滅菌物の管理が煩雑である部署もみられたため、今後は有効なフィードバック方法の検討が必要です。

ICT主催である全職員対象の感染対策研修は4回実施することができましたが、一人当たりの参加率は0.92回/年と、目標としている2回/年には届いていません。来年度は開催回数や複数開催を増やし、興味をもってもらえるような研修企画をすすめていきたいと考えています。

当院の感染対策チームの専従者は看護師1名で、その他の構成員は専任もしくは兼任で活動しています。所属部署の業務が多忙で、ラウンドやミーティングの出席ができないこともあり、勤務時間外で感染対策チームの業務を行っているのが現状です。当院は感染防止対策加算1を算定しており、連携病院への指導的役割もあります。今後も感染対策チーム活動への理解と、構成メンバーの時間の確保をお願いいたします。

## 2016（平成28）年度 総括

### 1、感染情報レポート作成 MRSA、耐性菌、血液培養検出菌（各月レポートにて報告）

急告書配布事例 49件

内訳：ESBL 38件、Ampc型βラクタマーゼ産生菌 8件、結核菌 2件、カルバペネム耐性腸内細菌 1件

ESBL、Ampc型βラクタマーゼ産生菌、合わせて46件中、入院時の検体から検出された持ち込み事例は33件

### 2、保健所届け出事例 14件

内訳：レジオネラ症 1件、後天性免疫不全症候群 1件、アメーバ赤痢 1件

侵襲性肺炎球菌感染症 1件、カルバペネム耐性腸内細菌 1件

結核 9件（胃液 1件、喀痰 3件、T-spot陽性 2件、胸水 2件、リンパ節 1件）

### 3、抗菌薬使用状況（表1、表2参照）

### 4、針刺し切創報告

報告数18件

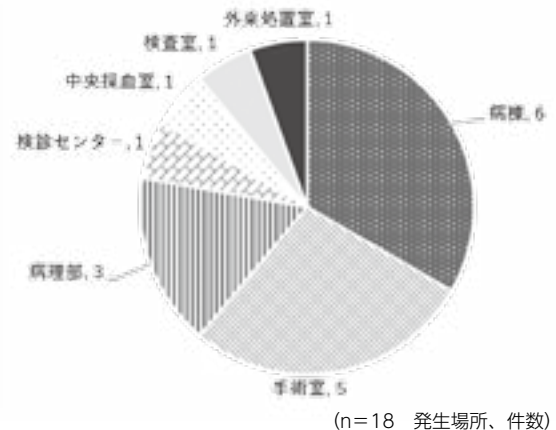
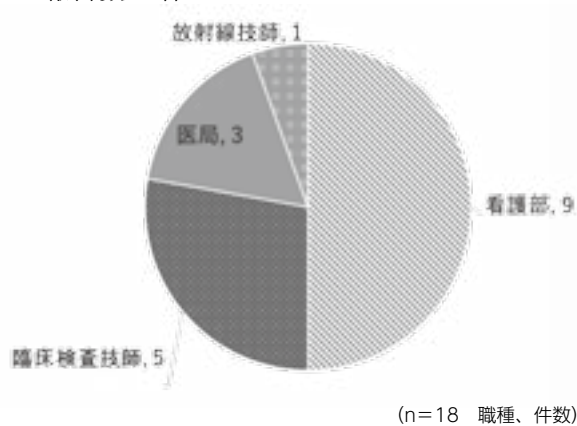


図1 平成28年度 職種別 針刺し切創事例

図2 28年度 針刺し切創発生場所

- ・看護部9件、コメディカル6件、医局3件。
- ・前期は転入者、新入職者による事象が複数例あった。鋭利物の取り扱いに不慣れなことが一因と考えられる。教育・トレーニング、周囲のサポート体制を充実させる必要がある。
- ・コメディカルによる針刺し切創事例が多かった。病理部での切創事象事例が増加しているため、再発防止のための対策強化が必要である。
- ・看護部では手術室での発生が多かった。

## 5、院内研修

- ① 4月1日開催「新入職員オリエンテーション 身に付けよう、院内感染防止対策」  
45名参加（新入職員 研修医含む）
- ② 4月5日開催 臨床研修医オリエンテーション 9名参加
- ③ 4月13日開催「新人看護師技術研修 ～感染管理・針刺し切創対策 個人防護具の選択について～」 28名参加
- ④ 4月19日開催 新人看護師技術研修 カテーテル関連血流感染予防について
- ⑤ 4月27日開催 新人看護師技術研修 カテーテル関連尿路感染について
- ⑥ 7月28日・8月4日開催 院内感染対策研修会①「針刺し切創をおこさないために今できること」 359名参加
- ⑦ 10月6日開催 院内感染対策研修会②「いつつけるの？どうしてつけるの？N95マスク N95マスクフィットの重要性」 428名参加
- ⑧ 1月23日、2月6日「看護助手研修 感染対策 いまさら聞けない！感染対策の基本のき」  
66名参加
- ⑨ 3月27日開催 院内感染対策研修会③「正しく知ってる？抗菌薬の使い方」 128名参加

## 6、感染防止対策チーム（ICT）活動（詳細は各月委員会内で活動報告）

- ・定期ミーティング（1回/週）
- ・院内ラウンド（1回/週）
- ・ICTニュース発行
- ・中滅環境検査実施（1回/月）
- ・感染防止対策合同カンファレンス（魚沼病院）  
第1回 5月30日、第2回 8月29日、第3回 12月5日、第4回 2月16日
- ・新潟医療関連感染制御コンソーシアム（CHAIN）総会参加 7月16日（土）
- ・地域連携相互チェック（燕労災病院）  
11月25日 当院→燕労災病院評価、 12月2日 燕労災病院→当院評価
- ・定期レジオネラ環境検査  
9月1日実施 病棟共用シャワー室 シャワー湯、特殊浴室 浴槽湯  
3月15日実施 病棟個室 水道湯、特殊浴室 浴槽湯

## 7、その他

- ・職員同居家族インフルエンザ発症に伴う予防投与の実施（通年）
- ・カルバペネム系抗菌薬使用届け出制開始（6月）
- ・N95マスクフィットテスト（6月23日・30日）
- ・ナーヴィサクシオンカテーテルサクシオンキット（気管内開放吸引時使用）滅菌手袋つき吸引チューブ導入（9月）
- ・レジオネラ環境検査陽性場所対応（9月、3月）

- ・中心ライン関連血流感染サーベイランス
- ・手指衛生サーベイランス
- ・末梢留置カテーテル固定用ドレッシング材 試用（10月～）
- ・HIV陽性患者手術受け入れの対応について協議・取り決め（11月）
- ・インフルエンザ・感染性胃腸炎流行期における病棟面会制限（12月27日～）
- ・N95マスク採用品変更（3月）

## 8、感染対策マニュアル改訂（12月1日）

- ・項目見直し
- ・標準予防策
- ・経路別予防策 結核
- ・尿道留置カテーテルの管理 追加

## 9、監査対応等

- ・11月17日 関東厚生局適時調査…指摘事項なし
- ・12月12日 長岡保健所立ち入り検査…院内感染防止対策委員会に常時欠席者がいることに関して指摘あり
- ・2月8日 厚生連本部随時監査…指摘事項なし

## 10、総括

4月より感染対策ラウンド方法を変更しました。毎回病棟を確認し、加えて月に1回は外来やその他の部署を確認できるようにラウンドしています。変更後、各部署の確認項目が少なくなってしまうため、今後はフィードバックの方法を工夫する必要があります。病棟は毎週ラウンドしているため、ICTラウンドの認知度が上がったように感じています。

6月よりカルバペネム系抗菌薬使用届け出制を開始しました。運用開始後大きなトラブルはありませんでしたが、届け出率が低かったため、医局あてに協力依頼文書を配布しました。その後届け出率はやや向上しましたが、電子カルテシステム上、どの患者に届け出をしていないか分かりにくい状況となっているため、今後届け出がされていないケースには主治医あてに届け出依頼文書を配布する予定となっています。

感染対策チームは医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師の4職種で構成されていますが専従として時間が確保されているのは現在看護師1名だけとなっています。その他の職種は日常業務に加え感染対策チームの業務を担っているため、メンバーの感染対策チーム活動の時間の確保が必須と考えます。

また専門資格取得や、資格更新には研修や学会参加などが必須となってくるため病院の支援をお願いいたします。

表1 抗菌剤使用量

					2015年度	2016年度
系統	商品名	成分名	略号	薬価		
ペニシリン					23,459	31,011
	注射用ペニシリンGカリウム100万単位	ベンジルペニシリン	PCG	317	239	619
	ピクシリン注射用0.25g	アンピシリン	ABPC	151	502	305
	ペントシリン静注用2gバッグ	ピペラシリン	PIPC	1,089	1,191	788
配合剤	ゾシン静注用4.5g	タゾバクタム +ピペラシリン (1:8)	TAZ/ PIPC	2,145	9,959	15,373
	ユナシン-Sキット静注用1.5g	スルバクタム +アンピシリン (1:2)	SBT/ ABPC	1,189	11,568	13,926
セフェム					35,076	36,429
第一	セファゾリンNa点滴静注用1gバッグ「オーツカ」	セファゾリン	CEZ	555	12,376	10,672
第二	セフメタゾンキット点滴静注用1g	セフメタゾール	CMZ	854	2,283	2,450
	パンスポリン静注用1gバッグS	セフォチアム	CTM	1,100	1,801	2,458
第三	フルマリキット静注用1g	フロモキシセフ	FMOX	1,587	6,410	7,990
	クラフォラン注射用0.5g	セフォタキシム	CTX	510	141	1,115
	モダシン静注用1g	セフトアジジム	CAZ	1,013	68	701
配合剤	ロセフィン静注用1g	スフトリアキソン	CTRX	750	4,461	4,938
	スルペラゾンキット静注用1g	スルバクタム +セフォペラゾン (第三) (1:1)	SBT/ CPZ	1,243	3,477	3,042
第四	ファーストシン静注用1g/バッグS	セフォゾプラシ	CZOP	1,697	883	588
	注射用マキシピーム1g	セフェピム	CFPM	804	3,176	2,475
カルバペネム					39,090	28,961
	オメガシン点滴用0.3gバッグ	ピアペネム	BIPM	2,270	5,182	2,646
	カルベニン点滴用0.5g	パニペネム +ベタミアロン (1:1)	PAPM/ BP	1,421	44	40
	チエナム点滴静注用キット0.5g	イミペネム +シラスタチン (1:1)	IPM/ CS	1,588	1,539	1,717
	フィニバックスキッド点滴静注用0.25g	ドリペネム	DRPM	1,133	16,069	9,467
	メロペナム点滴用キット0.5g	メロペネム	MEPM	1,708	16,256	15,091
アミノグリコシド					1,794	850
	ゲンタシン注40mg	ゲンタマイシン	GM	286	667	269
	トブラシン注60mg	トブラマイシン	TOB	413	127	24
	トロピシリン筋注用2g	スペクチノマイシン	SPCM	2,407	0	0
	ハベカシン注射用200mg	アルベカシン	ABK	5,645	108	79
	アミカシン硫酸塩注射液100mg「日医工」	アミカシン	AMK	341	880	476
	硫酸ストレプトマイシン注射用1g「明治」	ストレプトマイシン	SM	389	12	2
グリコペプチド					1,520	2,142
	塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g	バンコマイシン	VCM	2,561	1,076	1,462
	注射用タゴシッド200mg	テイコプラニン	TEIC	5,146	444	680
ニューキノロン					880	467
	シプロキサシ注400mg (2016.6まで300mg)	シプロフロキサシン	CPFX	2,314	465	133
	パシル点滴静注液500mg	パズフロキサシン	PZFX	1,891	94	27
	クラビット点滴静注バッグ500mg	レボフロキサシン	LVFX	5,417	321	307
その他					3,763	2,901
オキサリジノン	ザイボックス注射用600mg	リネゾリド	LZD	14,997	10	20
テトラサイクリン	ミノサイクリン塩酸塩点滴静注用100mg「サワイ」	ミノサイクリン	MINO	172	461	474
ホスホマイシン	ホスミンSバッグ2g点滴静注用	ホスホマイシン	FOM	1,159	2,108	1,517
マクロライド	エリスロシン点滴静注用500mg	エリスロマイシン	EM	813	0	0
	ジスロマック点滴静注用500mg	アジスロマイシン	AZM	2,535	24	42
モノバクタム	アザクタム注射用1g	アズトレオナム	AZT	1,374	0	0
リンコマイシン	ダラシンS注射用600mg	クリンダマイシン	CLDM	571	1,154	815
リポペプチド	キュービシン静注用350mg	ダプトマイシン	DAP	13,530	6	2
イミダゾール	アネメトロ点滴静注液500mg	メトロニダゾール	MNZ	1,252	0	32
計					105,582	102,760

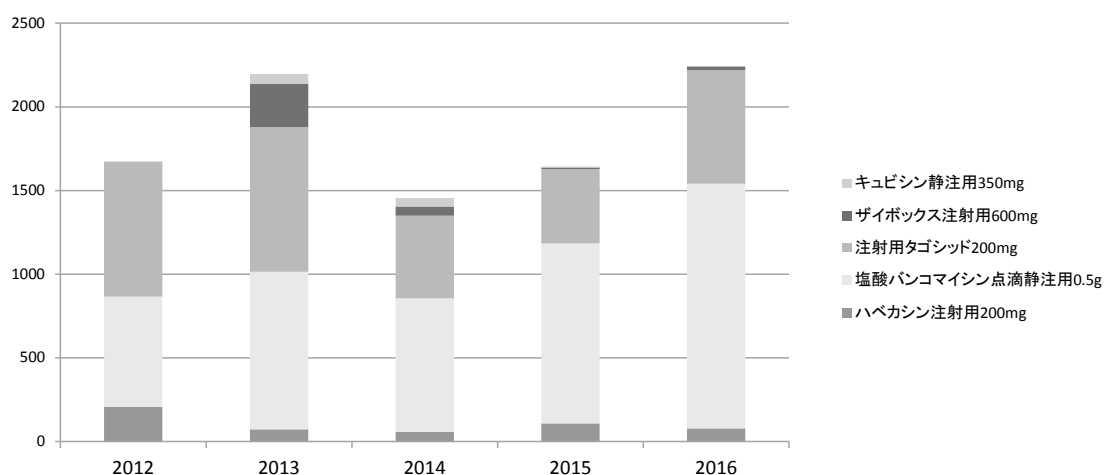
周術期予防にセファゾリンが使用されている。カルバペネム系やゾシンなど本来切り札となるべき抗菌薬の使用量が多くデ・エスカレーションがなされていない傾向が見受けられる。

感染制御認定薬剤師：山田加代子



表2 抗MRSA薬年度別使用量

	2012	2013	2014	2015	2016
ハベカシン注射用200mg	207	72	57	108	79
塩酸バンコマイシン点滴静注用0.5g	659	942	799	1,076	1,462
注射用タゴシッド200mg	807	865	494	444	680
ザイボックス注射用600mg	0	260	54	10	20
キュピシン静注用350mg	0	58	51	6	2



MRSAの検出率は低下しているにもかかわらず、使用数は全体として増加している。

2012年では念のために使用するため、腎機能を悪化させないタゴシッドを選ぶことが多かったが、届出制を開始して漠然と使用することが減り、使用量も高用量でしっかり使用することを指導した結果、適正にバンコマイシンを使用するようになった。

感染制御認定薬剤師：山田加代子

---

# 褥瘡対策委員会

---

皮膚・排泄ケア認定看護師 岩城杉子

褥瘡対策委員会と下部組織の看護部褥瘡対策小委員会が連携し活動をしています。

## 活動内容

### 1) 褥瘡対策委員会

専任医師3名、専任看護師4名、薬剤師1名、理学療法士1名、栄養士1名、医事課1名、総務課1名、皮膚・排泄ケア認定看護師（以下WOC）1名の13名で構成されています。月1回の会議。毎月第2水曜日15時から病棟の褥瘡回診を行い、院内褥瘡発生事例のカンファレンスを実施。週1回褥瘡ハイリスク患者ケア加算対象者のカンファレンスを行っています。

### 2) 看護部褥瘡対策小委員会

各病棟・手術室・外来・透析・訪問看護より各1名と、副部長・師長・WOCの計18名で構成されています。月1回の会議。毎月第2水曜日の褥瘡回診への参加。褥瘡発生時は、発生要因・対策のカンファレンスを実施。退院時には指導を行っています。

手術室では、手術中の褥瘡発生の予防に努めています。外来・透析においても、指導や調整を行い褥瘡予防に努めています。

### 3) 教育

平成27年度研修

- ・ポジショニングの実践
  - ～症状別にみた介入ポイント～（2回開催） 参加者：223名
- ・褥瘡に用いる薬剤と創傷皮膚剤について 参加者：89名
- ・おむつ研修（8回開催） 参加者：352名
- ・褥瘡予防の基礎（新人看護対象）
  - Part 1 ～褥瘡ケア体験～ 参加者：20名
  - Part 2 ～褥瘡リスクを理解して記録を書こう！～ 参加者：20名
- ・褥瘡（床ずれ）予防を学ぼう！（新採用看護助手対象） 参加者：8名
- ・外来での褥瘡予防～在宅につながる指導～（外来看護師対象） 参加者：24名

平成28年度研修

- ・ポジショニングを学ぼう（病棟褥瘡係メンバー対象） 参加者：57名
- ・専任看護師としての役割を学ぼう（褥瘡専任看護師対象） 参加者57名

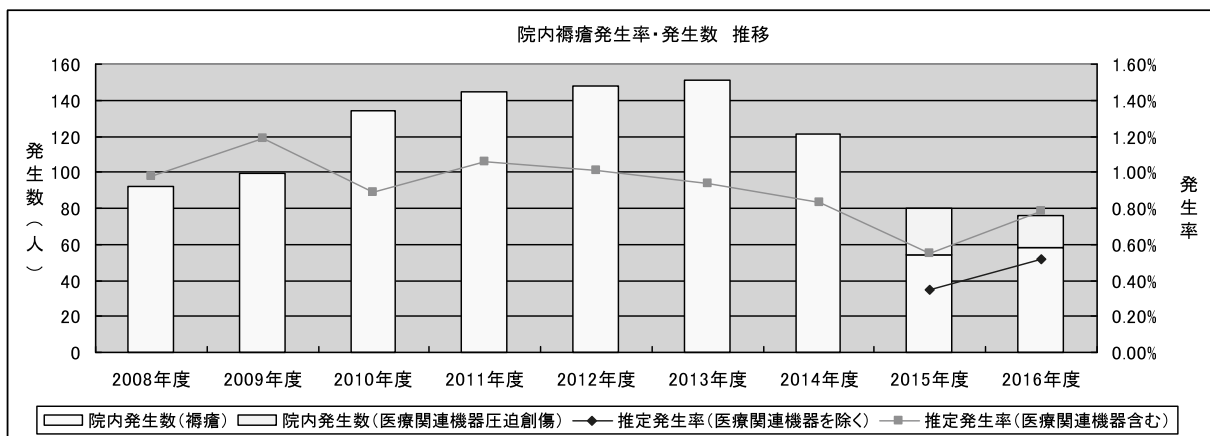
・褥瘡予防の基礎（新人看護対象）

Part 1 ～褥瘡ケア体験～ 参加者：24名

Part 2 ～褥瘡リスクを理解して記録を書こう！～ 参加者：23名

#### 4) 褥瘡発生状況

褥瘡ケアの質評価の指標として、褥瘡発生率（院内で褥瘡が発生した割合）をみています。当院の褥瘡発生率は、2015年度0.35%、2016年度0.52%と、日本褥瘡学会調査の全国平均0.83%（WOC在籍有）に比べて、低く維持できています。この状態を今後も維持できるように取り組んでいきます。また、現在は、褥瘡や褥瘡発生リスクを保有したまま退院となる患者も多いため、引き続き、ケースワーカー、退院支援看護師、訪問看護師などと協働し、在宅での褥瘡予防を見据えた指導や調整に取り組んでいきます。



\* 褥瘡：臥床状態にある患者の自重によって生じる創傷のこと

\* 医療関連機器圧迫創傷：医療機器などの外的要因による圧迫で生じる創傷のこと

---

# 栄養管理委員会

---

栄養科長 大 瀧 智 子

栄養管理委員会は下記内規（抜粋）に沿って運営しています。

## ○目的

患者に必要な栄養を十分効果的に提供し的確な栄養管理をするため、病院組織の有機的結合や情報を得て、栄養計画・給食や業務の改善・各部署との連携を図る。

## ○構成

この委員会は副院長2名・事務長・総務課長・看護部長・看護師長4名・栄養科長・主任栄養士・主任調理師で構成する。ただし、委員会が必要と認めた場合はこの限りでない。

## ○開催

年4回（5月・8月・11月・2月）第4木曜日の昼食時。

## <報告事項>

### 27年度

5月……残食調査の報告。栄養サポート加算取得について検討。お祝膳の改善について。

8月……全国厚生連統一メニュー「鶏飯」の試食。災害時備蓄食品の検討。

食物アレルギー負荷試験開始について。土日祝日の電話対応について。

11月……全国厚生連統一メニュー「小汁」（こづゆ）の試食。残食調査の報告。

鶏飯、しっぽくうどんのアンケート結果報告。地産地消献立について。

2月……全国厚生連統一メニュー「豆腐カステラ」の試食。残食調査結果報告。

小汁のアンケート結果報告。診療報酬改定について。

### 28年度

5月……診療報酬改定について（4月より栄養食事指導の対象にがん、摂食・嚥下機能低下、低栄養が増枠となり、栄養指導料も初回260点、2回目以降200点と変更）

「栄養管理計画書運用マニュアル」の改定・濃厚流動食の変更について。

8月……全国厚生連統一メニュー「こんにゃくマリネ」の試食。食事指導件数増の検討。

11月……栄養サポート加算算定後の報告。嗜好調査の報告。栄養科災害時訓練の報告。

2月……全国厚生連統一メニュー「たれかつ丼」の試食。食事指導件数の報告。

以上です。今後も患者や病院にとって有益になるような委員会として活動します。



# NST（栄養サポートチーム）委員会

管理栄養士 山澤 翔太

NST委員会は栄養の面から患者および疾病を捉え、医療の質向上への寄与と早期回復の支援を目的として活動をしています。

2004年（平成16年）6月より活動を開始し、NST委員会は医師6名、歯科医師1名、看護師13名、薬剤師3名、管理栄養士6名、言語聴覚士1名、臨床検査技師1名、医事課職員1名で構成されています。毎週木曜日にカンファレンスと回診、月に1度委員会を開催しています。カンファレンス参加職種は医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士です。専従は管理栄養士が担当しています。

2016年6月から栄養サポートチーム加算の算定を開始しました。2016年6月から2017年3月までに248件のNST介入を行い、221件の栄養サポートチーム加算を算定しました。また、歯科医師連携加算も同時に取得をしています。

診療科別の介入数を示します。（表1）最も多いのは整形外科、ついで総合診療内科、腎臓内科と続いています。

院内スタッフの栄養に関する知識向上を目的にNST委員会主催の勉強会を開催しています。（表2）また年に1度、当院で採用している補助栄養食品を院内スタッフに試食いただく機会を設け、栄養への興味と関心を高める工夫をしています。

加算算定を開始してから間もないため、院内での認知度はまだまだ低いですが、活動を続けていくことで院内全体の栄養に関する意識を高め、目的達成に向けて活動をしていきたいと考えています。



## 2015年 NST勉強会内容

月 日	内 容	講 師
5月27日	NSTにおける栄養管理 ～栄養サポートはなぜ必要か～	株式会社クリニコ 松崎由佳
6月30日	経腸栄養時のトラブル対応について	キューピー株式会社 小林千恵
8月11日	腎臓病の食事療法について	キッセイ薬品工業株式会社 小池昌志
9月27日	経腸栄養管理のポイント ～栄養剤の剤形や投与時の工夫について～	大塚製薬株式会社 小宮大岳
10月25日	NST活動報告 栄養補助食品試食・試飲会	当院 栄養科 山澤翔太

## 2016年 NST勉強会内容

月 日	内 容	講 師
6月28日	プロバイオティクスとビフィズス菌	株式会社クリニコ 松崎由佳
7月26日	「見て・聞いて・食べて」知ろう	当院 栄養科 高橋洋平
8月30日	リハビリテーション栄養	株式会社クリニコ 松崎由佳
9月27日	生体内微量元素～亜鉛の有効性～	株式会社シノテスト 塚本和範
10月25日	高齢者の栄養不良 ～サルコペニア、フレイルの観点から～	アボットジャパン株式会社 木村美奈穂
11月29日	NST活動報告 栄養補助食品試食・試飲会	当院 栄養科 山澤翔太

# 臨床検査運営委員会

検査科技師長 古 俣 直 樹

## 平成27年度報告

臨床検査の精度の向上と業務の円滑な運営の確保を目的とし、実践するため年2回の検査運営委員会を開催した。結果、2つの外部精度管理では優秀な成績を収めることが出来た。しかし日本医師会精度管理調査では3項目でC評価を得てしまい96.6点の評価であった。次年度はより良い評価を得られるよう努力する。

その他、病院内の業務連携、検査科機器保守更新、オーダリング、勤務体制等多岐にわたり討議を行い、成果をあげることが出来た。

### 【平成27年度 第1回臨床検査運営委員会】

日 時：平成27年12月25日（金）15：00～

場 所：5ブロック会議室

出席者：岩島内科部長（委員長）、北澤医長、高野副看護部長、加野総務課員（代理）、  
高橋医事主任、手塚検査技師長、安藤主任検査技師、山川主任検査技師

議 題：

1. 臨床検査運営委員会委員の交代について
2. 平成26年度検査科部門別実践方策のまとめ・業務実績・収支報告
3. 平成27年度検査科部門別実践方策について
4. 部門別・収支改善対策計画と検証 平成27年10月・11月実績
5. 機器特別購入申請について
6. 平成27年度医療機器保守点検計画
7. 平成27年度上半期業務実績について
8. 患者さん向け「検査値の見方」リーフレットについて
9. 外注検査未保険検査実績
10. 電カル化に伴う親展検査結果（遺伝子関連検査など）の扱いについて
11. 二交替制勤務の実施について
12. 中央採血室待ち時間改善策として早出勤務採用
13. 輸血管理料I取得について
14. 精度保証施設認定取得について
15. システムダウン時専用検査伝票について
16. 検体検査管理加算I・IIの届出医師変更について
17. 検査項目依頼実績調査について



【要旨】 検査件数、金額共前年度を上回ったが、超音波診断装置・ポータブル心電計・遠心機など機器の経年劣化で業務に支障を来す場面があった。早期の更新を望む。

患者向け「検査値の見方」リーフレットを平成27年7月から採血室受付にて配布開始。

勤務関連では臨床検査の24時間体制の確立および長時間労働の軽減を考慮し平成27年6月より毎日2交替勤務とした。更に中央採血室待ち時間改善策として平成27年7月13日より臨床検査技師2名と看護師1名が午前8時からの早出勤務とし、患者・外来より好評を得た。

施設基準関連では輸血管理料Ⅰの取得を平成28年2月1日を目標に検査科内の整備を行う。

日本臨床衛生検査技師会の精度保証施設認定を取得した。認定期間は2015年4月～2017年3月。

#### 【平成27年度 第2回臨床検査運営委員会】

日 時：平成28年3月11日（金）15：00～

場 所：5ブロック会議室

出席者：岩島内科部長（委員長）、北澤医長、高野副看護部長、田中総務主任、高橋医事主任、手塚検査技師長、安藤主任検査技師、三好主任検査技師、山川主任検査技師

議 題：

1. 平成27年度外部精度管理報告
2. 平成27年度1月末実績について
3. 輸血管理加算（Ⅰ）算定へ施設基準変更
4. 血液ガス分析のオーダリング運用開始
5. 部門別・収支改善対策計画書、計画検証
6. 試薬発注数の見直しについて
7. 請求漏れ防止対策について
8. 個人情報管理台帳について
9. 平成27年度設備計画実績28年度設備年計画及び27～29年中期計画
10. 臨床工学技士との業務連携について
11. 親展検査結果の扱いについて
12. 他部門との連携・協力について
13. 検査項目の見直しについて
14. 院内検査一覧の改訂について
15. 外注検査項目結果の「未満」のロー・ハイ色表示について

【要旨】 外部精度管理は日本臨床衛生検査技師会・新潟県臨床検査精度管理調査の2つで100点と優秀な成績を収めることが出来た。しかし日本医師会精度管理調査では生化学3項目でC評価を得てしまい96.6点の評価であった。原因は分析機の経年劣化による特発誤差と思われる。次年度はより良い評価を得られるよう努力する。

業務統計では検査件数、金額共に昨年同期を上回った。

施設基準関連ではアルブミン製剤の一元管理を検査科で行うことで、輸血管理料ⅡからⅠへと施設基準が変更された。また、一元管理により依頼から製剤管理、実施認証、副作用管理、実施記録等を行うことで安全な輸血業務が構築された。

院内の連携については心カテ業務の検査技師と臨床工学技士の連携強化を図りたい。具体的には電気刺激試験、アブレーション装置など生命維持装置等の業務と業務分担を図りながら連携する。

更に内視鏡室でのヘリコバクター・ピロリ尿素呼気試験および健診センターの心電図・スパイロ検査の2台2名体制の協力について検討中。

前回の委員会で提案された検査項目依頼実績調査については依頼実績が0の項目は無かった。

外注検査項目結果の「未満」の扱いによる正常異常の色表示の不具合の検証をおこなう。

## 平成28年度報告

臨床検査の精度の向上と業務の円滑な運営を目的とし、実践するため年2回の検査運営委員会を開催した。結果、2つの外部精度管理では優秀な成績を収めることが出来た。しかし前年度に続き日本医師会精度管理調査では2項目でC評価を得てしまい96.6点の評価であった。来年度はより良い評価を得られるよう努力する。

その他、病院内の業務連携、検査科機器保守更新、オーダーリング、勤務体制等多岐にわたり討議を行い、成果をあげることが出来た。

### 【平成28年度 第1回臨床検査運営委員会】

日 時：平成28年7月22日（金）15：00～

場 所：健診棟2階会議室

出席者：岩島内科部長（委員長）、佐藤副看護部長、今井総務主任、高橋医事主任、手塚検査技師長、高橋主任検査技師、三好主任検査技師、山川主任検査技師、内山主任検査技師

議 題：

1. 臨床検査運営委員会規定について
2. 臨床検査運営委員会委員の交代について
3. 平成27年度検査科部門別実践方策のまとめ・業務実績・収支報告
4. 平成28年度検査科部門別実践方策について
5. 平成28年度設備計画について
6. 平成27年度医療機器保守点検について
7. 平成28年度6月末業務実績について
8. 外注検査未保険検査実績
9. 電カル化に伴う親展検査結果（遺伝子関連検査など）の扱いについて
10. 患者情報の共有化について
11. 検体検査管理加算Ⅰ・Ⅱの届出医師変更について
12. 中央採血室待ち時間改善策として早出勤務採用
13. ヘリコバクター・ピロリ尿素呼気試験について

【要旨】平成27年度は検査件数、金額共前年度を上回った。早朝尿蛋白の院内化などを行い、迅速報告に努めた。アルブミン製剤の一元管理を検査科で行うことで、輸血管理料ⅡからⅠへと施設基準が変更された。また、一元管理により依頼から製剤管理、実施認証、副作用管理、実施記録等行うことで安全な輸血業務が構築され、輸血管理料が110点→220点・輸血適正使用加算が60点→120点と増え増収につながった。今年度もより安全な輸血業務を目指す。

分析機関連では平成28年度の施設整備計画では生化学分析装置、心電図ファイリングシステム等を特別申請。昨年度の保守点検は概ね達成した。

電カル化に伴う親展検査結果（遺伝子関連検査など）の扱いについてはシークレット機能を持つ自科検査システム「クライオ」を利用し依頼元科限定で検索可能とした。

業務連携についてヘリコバクター・ピロリ尿素呼気試験を検査技師が見学し今秋実施予定。

【平成28年度 第2回臨床検査運営委員会】

日 時：平成29年3月24日（金）15：00～

場 所：5ブロック会議室

出席者：岩島内科部長（委員長）、矢口医師、佐藤副看護部長、今井総務主任、高橋医事主任、手塚検査技師長、高橋主任検査技師、三好主任検査技師、山川主任検査技師

議 題：

1. 平成27年度検査科部門別収支について
2. 平成28年度外部精度管理報告
3. 関東信越厚生局適時調査（平成28年11月）の結果について
4. 長岡保健所立ち合い（平成28年12月）について
5. 個人情報管理台帳について
6. 休診日の半日拘束勤務の半日勤への取り組みについて
7. 平成29年度要員計画について
8. 平成28年度設備計画実績および平成29年度設備計画について
9. 平成28年度2月末検査科業務実績
10. 試薬発注実績
11. 試薬在庫調査
12. 超過勤務実績
13. 臨床工学士との業務連携について
14. 他部門との連携・協力について
15. 委員の交代について

【要旨】平成27年度の検査科の収支状況は検査件数が伸び、試薬・材料の支出が抑えられたため、前年度を上回ることが出来た。しかし、平成28年2月末の実績では前年度比99.6%となった。健診件数の減少が原因と考える。

外部精度管理は日本臨床衛生検査技師会で98.7点、新潟県臨床検査精度管理調査で100点、日本医師会精度管理調査で96.6点の評価であった。3つの外部精度管理で生化学2項目、免疫1項目、血液凝固1項目でC評価、生理1項目でD評価となった。生化学・免疫の原因は分析機の経年劣化による特発誤差と思われ、血液凝固は標準物質の影響と考えられ、試薬・標準物質の変更を視野に入れ対応する。生理検査の1項目は更なる研鑽を積む。来年度はより良い評価を得られるよう努力する。

関東信越厚生局適時調査、長岡保健所立ち合い検査の両方とも指摘事項なし。

休診日の半日拘束勤務の半日勤への取り組みは業務拡大、人員不足で現時点では対応できない。。院内の連携は心カテ業務でのEPSとアブレーションで臨床検査技師と臨床工学技士の連携強化を本来業務に沿って図りたい。臨床検査技師によるヘリコバクター・ピロリ呼気試験は平成28年10月より開始した。

# 輸血療法委員会

委員長 坪井 康介

## 2015年度（平成27年度）、2016年度（平成28年度）活動報告

輸血療法委員会は13名の委員で組織され、当院における輸血療法の安全性確保と適正化をはかることを主な目的として、委員会を年6回開催しました。

議事の内容は、輸血後感染症検査実施状況と陽転者の確認、血液製剤の廃棄数、アルブミンの使用状況について毎回報告し安全な輸血療法及び血液製剤の適正使用の推進の検討材料としました。またその他の輸血療法の運営について討議し、決定された事項は輸血ニュースなどを発行し院内への伝達に努めました。

### ■2015年度（平成27年度）

#### 1) 輸血後感染症検査実施件数状況

輸血後感染症対象件数 610件（死亡含む）

輸血後感染症実施総件数 189件

輸血後感染症検査 実施率 31.0% 輸血後陽性検体なし

#### 2) 廃棄製剤

Ir-RBC-LR2 12本（24単位） 廃棄率0.55%

FFP-LR240 23本（5,520ml） 廃棄率12.57%

#### 3) 製剤使用単位数

製剤名	RBC	FFP	PC	アルブミン	自己血	FFP/RBC	ALB/RBC
総単位数	4,398	366	10,925	7,304.2	60.35	0.08	1.66
昨年度	4,653	481	9,445	5,387.8	63.50	0.10	1.16
今年度/昨年度	0.95	0.76	1.16	1.36	0.95		

#### 4) その他

- ・輸血ニュースを発行しました。
- ・アルブミン製剤を検査科で管理することにより輸血管理料（I）及び輸血適正使用加算（I）を取得しました。
- ・看護部新人研修会において血液製剤の取り扱いについて講師を担当しました。
- ・外来輸血注意喚起案内文配布の運用を開始しました。

- ・新輸血マニュアルを院内配布しました。
- ・院内輸血研修会を開催しました。

## ■2016年度（平成28年度）

### 1) 輸血後感染症検査実施件数状況

輸血後感染症検査対象件数 513件（死亡除く）

輸血後感染症検査実施総件数 180件

輸血後感染症検査 実施率35% 輸血後陽性検体なし

### 2) 廃棄製剤

Ir-RBC-LR2 22本（44単位） 廃棄率1.09%

FFP-LR240 13本（3,120ml） 廃棄率5.33%

Ir-PC-LR 1本（10単位） 廃棄率0.12%

### 3) 製剤使用単位数

製剤名	RBC	FFP	PC	アルブミン	自己血	FFP/RBC	ALB/RBC
総単位数	4,028	488	8,550	7,183.3	81.15	0.09	1.71
昨年度	4,398	366	10,925	7,304.2	107.35	0.08	1.66
今年度/昨年度	0.92	1.33	0.78	0.98	0.76		

### 4) その他

- ・輸血ニュースを発行しました。
- ・電子カルテ運用にともない、輸血後感染症検査案内方法の変更、血液型シールの発行停止を検討しました。
- ・廃棄製剤数を削減するためFFPの院内在庫数の見直しを検討しました。
- ・カリウム吸着フィルターを夜間・休日のため検査室（輸血検査）にも数個在庫することを決定し運用を開始しました。
- ・看護部新人研修会において血液製剤の取り扱いについて講師を担当しました。
- ・血液製剤の患者認証業務、アルブミン製剤の実施記録方法の簡易マニュアルを作製しました。
- ・院内輸血研修会を開催しました。
- ・院内輸血マニュアルの改訂作業を開始しました。

# 化学療法委員会

委員長 加勢 宏 明

化学療法委員会は、毎月第二月曜日に開催しています。平成27年度4月で第100回開催となりました。主な協議事項は、化学療法レジメン登録、レジメン管理、化学療法の実施マニュアルの統一化、「がんセミナー」と称する講演会等を通じて、職員への教育・啓発も行っています。平成27年1月の時点では、管理するレジメン数は311レジメンとなっており、平成27年度は新規レジメン20件、平成28年度は16件登録されました。「がんセミナー」に関しては下記を参照してください。

また、平成27年度から化学療法委員会の議事録と化学療法レジメン集を院内共有PCにて参照できるようにしております。

## ■化学療法委員会「がんセミナー」のまとめ

17時30分～ 当院講堂で開催

### 【平成27年度】

4月23日	歯科口腔外科：口腔領域	山賀医師
5月26日	放射線科：骨転移	鮎川医師
6月24日	婦人科：婦人科がん	加勢医師
7月13日	緩和ケア科：緩和ケア	大島医師
9月16日	形成外科：乳房再建	渡辺医師
10月28日	脳外科：脳腫瘍	谷口医師
12月9日	皮膚科：抗がん剤による皮膚障害	高橋医師
1月29日	呼吸器内科：薬剤性間質性肺炎	岩島医師
2月15日	看護部：抗がん剤の安全な取り扱い	栢倉看護師
3月7日	今伝えたい！ビハーラ病棟が大切にしていること	長岡西病院 看護師長

### 【平成28年度】

4月19日	血液内科：白血病	坪井医師
5月24日	血液内科：悪性リンパ腫	坪井医師
6月27日	看護部：抗がん剤の安全な取り扱い	栢倉看護師
8月29日	消化器内科：治療効果判定基準	外池医師
9月7日	耳鼻科：頭頸部がん	田中医師
10月31日	腫瘍マーカー検査	アボットジャパン
11月30日	消化器内科：B型慢性肝炎	渡辺医師
1月30日	がん免疫療法	ブリストル・マイヤーズ
2月23日	化学療法時の制吐薬の必要性	大鵬薬品
3月17日	携帯型ディスプレイブル注入ポンプ	ニプロ

# 緩和ケア委員会

看護師長 桑原 佐枝子

緩和ケア委員会は、毎月第3火曜日に開催しています。

委員会では、緩和ケア認定看護師から緩和ケア外来の受診患者数とチーム介入内容について、多職種の委員からは各部署が関わったがん患者の介入件数と内容について報告を行っています。広報係と研修担当係に分かれて活動しています。

また年4回の中越緩和ケア懇談会に、主に委員が事例提供者となり参加しています。

## ◆緩和ケア委員会主催「緩和ケア研修」内容

開催日	テーマ	講師	参加人数
2015年8月18日	知っておきたい緩和ケアへの関わり方	栄養科・リハビリ科・緩和ケア外来看護師・薬剤部・臨床心理士	77名
2015年11月24日	伝えたい緩和ケアの心 ～全人的、死から生と いのちを考える～	緩和ケア医師 高宮有介先生	95名
2016年7月19日	知っておきたい緩和ケアへの関わり方	栄養科・リハビリ科・緩和ケア外来看護師・薬剤部・臨床心理士	50名
2016年11月15日	医療者自身の心のケア、 死にゆく人に向き合うために あなた自身のケア、 していますか？	緩和ケア医師 高宮有介先生	137名

## ◆緩和ケアニュースを年間2回発行

## ◆患者向け緩和ケア啓発ポスター作成と院内掲示

## ◆中越緩和ケア懇談会 緩和ケア委員の発表内容

開催日	テーマ	発表者
2015年4月18日	「看護師と患者さんのココロをつなげます ～関係性をつなぐ役割としての臨床心理士の介入～」	臨床心理士 大崎由実子
2016年1月19日	「クローズアップとろみ氷」 「介護者をどう支えていくか」	管理栄養士 阿部まなみ 緩和ケア認定看護師 田邊千代子
2016年7月2日	「緩和ケア外来で関わったせん妄患者への対応 ～コントロール困難事例も含めて～」	緩和ケア認定看護師 田邊千代子

## ◆緩和ケア外来年間コンサルト依頼介入患者数

平成27年度 (H27.4～28.3)	27名
平成28年度 (H28.4～29.3)	21名



# 救急委員会

外来看護師長 池野 美奈子

当院は新潟県中越地域医療圏において、救急医療を担う他の医療機関や行政と連携し救急患者の対応を行っています。長岡市内3病院が輪番制で救急医療を担い、当院は主に一次救急医療から2次救急医療の患者対応を行っています。時には、医療圏を超えた救急患者の受け入れ要請もあります。救急外来スタッフの他、外来各部署のスタッフが当直・夜勤・日直を担い他職種と協働し救急患者の対応をしています。救急の現場だからこそ、安全安心な医療が提供できるように、環境を整え、多様な症例や専門的な治療・処置に対応できるように学習会等を企画しスタッフのスキルアップに取り組んでいます。

定期的に開催される「長岡地域救急懇談会」「中越地域救急懇談会」には当院スタッフも参加し、救急医療を担う医療機関相互の役割分担や関係機関との連携方策について協議・検討を行っています。平成29年3月の西部（長岡）ドクターヘリ運航開始により県内2機体制となり、より地域の事情に即した広域的な活動が期待されています。

また、地域包括ケアシステムの推進が求められる今日、長岡市では平成28年6月より「長岡在宅フェニックスネット」の初期運用が開始されました。当院も後方支援病院として活動に参加しており、救急外来には専用のタブレットが配置されています。緊急時には患者の医療・看護・介護情報やケア記録の一部がネットワーク上で共有でき、診断・治療に活かされるようになりました。

救急外来では365日24時間、ドクターヘリ・救急車・ウォークイン等多くの救急患者の対応をスタッフが協働して行っています。これからも、必要とされる人に適切な医療・看護の提供ができる様に活動していきたいと思えます。

## <平成27年～平成28年度の救急患者受診件数、救急車搬送状況等>

	時間外・ 休日来院数	左記のうち 入院	ドクター ヘリ	救急車	心臓カテーテル 一時ペーシング	緊急内視鏡 検査、処置	緊急手術	CPA
平成27年度	10,928	3,496	12	2,418	60	62	71	129
平成28年度	10,384	3,184	6	2,289	70	119	68	128

---

# 倫理委員会

---

医局長 松 井 俊 晴

倫理審査委員会は、当院で行われる人を対象とした臨床研究や臨床試験などが、ヘルシンキ宣言（ヒトを対象とする医学研究の倫理的原則 1964年WMA総会採択）を尊重した医の倫理的原則のもとに行われるよう、医学的・倫理的・社会的観点からの妥当性を審査・審議しています。

審議にあたっては、特に次に掲げる事項に留意し行っています。

- 1、研究等の対象となる個人の人権の確保
- 2、研究等によって生じる個人への危険性に対する配慮
- 3、有害事象及び不具合等の発生と健康被害の有無
- 4、現在実施中又は過去に実施された研究等の指針等の適合性

委員の構成は、院内の委員7人に外部の有識者2人を加えることで透明性を高め中立的な審査が行えるように構成されています。

委員会開催は毎月1回行い、H27年・28年度の審査結果は下記ようになっています。

## H27・28年度の審査結果

審議件数	75件
承認件数	75件
不承認件数	なし

# 治験審査委員会

治験審査委員会事務局 佐藤 弘 行

当院において、治験を実施するにあたって、その治験が科学的・倫理的に則しているかどうかを審議するための委員会です。毎月第1火曜日に開催されています。10名の委員で構成されており、医師3名、薬剤師1名、検査技師長、栄養科長の6名の専門委員と事務長、総務課長の2名の非専門委員、ならびに外部委員として2名の委員で構成されています。開催の必要条件として、専門委員、非専門委員、外部委員のそれぞれ1名以上、計5名以上出席しなければなりません。

審議内容としては、主に現在当院で実施している治験の安全性情報を報告し審議して、継続可能の是非を判断する継続審議が行われています。その他に、新規治験の実施の可否、治験実施に関わる変更が妥当であるか等を審議しています。

平成27年度は年9回開催し、平成28年度は年11回開催しています。

審議内容の概要は当院のホームページで公開しています。

平成27年度開催日	平成28年度開催日
4月7日	4月5日
5月12日	5月10日
6月2日	6月7日
7月7日	7月5日
9月8日	8月9日
10月6日	9月6日
12月1日	10月4日
2月2日	11月1日
3月8日	12月6日
	2月7日
	3月7日

## 平成27年度実施治験

小野薬品工業株式会社の依頼によるONO-7643の第Ⅱ相試験

大鵬薬品工業株式会社の依頼によるABI-007の胃癌患者を対象とした第Ⅲ相試験

第一三共株式会社の依頼による虚血性脳血管障害患者を対象にしたCS-747Sの第Ⅲ相試験

日本イーライリリー株式会社の依頼によるデュロキセチン塩酸塩の糖尿病性神経障害に伴う疼痛を対象とした製造販売後臨床試験

## 平成28年度実施新規治験

MSD株式会社の依頼による複雑性腹腔内感染症患者を対象としたMK-7625Aの第Ⅲ相試験

第一三共株式会社の依頼によるDS-5565第Ⅲ相国際共同試験（糖尿病性末梢神経障害性疼痛）

杏林製薬株式会社の依頼によるKRP-AM19777Y第Ⅲ相試験（市中肺炎、呼吸器感染症）

大鵬薬品工業株式会社の依頼によるPro-NETUの第Ⅱ相試験

---

# 診療録管理委員会

---

診療情報管理士 矢引 智子

当院の「診療録管理規定」にある通り、「病院における患者の診療録の中央管理に必要な事項を定め、診療録の適正な管理を図ることを目的とする。」として、年2回開催しています。

## \*2015年度

2015年12月3日、2016年1月14日に開催しました。その他に電子カルテ導入を見据えて、委員代表と関係部門代表者で構成したワーキンググループを2回開催しました。

本体の委員会では診療録保管状況を報告し、診療録管理規定改定について検討をしました。その他に電子カルテ導入後の紙カルテや各種帳票類のスキャナー取込み後の取扱いについて、ワーキンググループで検討を重ねて、本体の委員会で協議し、その結果をシステム委員会へ提案いたしました。

## \*2016年度

2016年7月7日、2017年2月27日に開催しました。

2016年2月22日から入院カルテ、同年6月17日より外来カルテが電子カルテとなったことに伴い、議題の中心は電子カルテ導入後のスキャナー取込み帳票の取扱いとなりました。その他に診療録保管状況、退院サマリ完成率について報告されました。従前、各部署に配布していた「診療録管理規定」の印刷物配布を止め、電子カルテのスタート画面に、掲載することを提案し、委員会です承が得られましたので、平成28年6月17日改定版より、電子カルテに掲載しました。

---

# 臨床研修管理委員会

---

総務課長 阿部 一也

当委員会においては、副院長の富所先生（現病院長）を委員長として、毎月初期臨床研修医に関する現況報告と問題事項などの協議を行っております。院内の委員は各科診療部代表者17名と初期臨床研修医1年次2年次各1名ずつのほか、事務長、看護部長、診療情報室事務員と事務局2名で構成されております。年間1回、年度末に外部の委員5人を含めた総括的な委員会を開催しております。

毎月、入院サマリの作成状況の確認を行っており、研修の評価の目安としております。また、各種行事の提案と企画の作成、およびその行事を実行するため検討を行い、事務局が活動しております。

初期臨床研修医を獲得するため、研修プログラムの見直し、研修環境の向上などを行い、より良い初期臨床研修ができるように指導医が集まり協議をしております。

初期臨床研修医 受入れ状況

2015年度	1年次	9名
	2年次	7名
2016年度	1年次	9名
	2年次	8名

付 記      2015年度は9名のマッチングで1名医師国家試験不合格  
             2016年度は10名のマッチングで1名医師国家試験不合格

## IV 研究業績

## ■ 論文掲載

### 平成27年度

#### ●著書・論文

##### 内科（循環器）

Secondly ECG recordings in the emergency room revealed Garenoxacin-induced abnormal QT interval prolongation in a patient with multiple syncopal attacks.

Tagawa M., Ochiai S., Nakamura Y., Sato A., Chinushi M.

Heart Vessels, 2015/5/29号, 2015

Ventricular Rhythm and Hypotension in a Patient with Pheochromocytoma-induced Myocardial Damage and Reverse Takotsubo Cardiomyopathy.

Tagawa M., Nanba H., Nakamura Y., Uchiyama H., Ochiai S., Terunuma M., Yahata K., Minamino T.

Intern Med, 54,18,2343-2349, 2015

##### 小児科

Mycoplasma hominis as a cause of septic hip arthritis in a neonate

Ryo Suzuki, Kazuo Takeuchi, Tetsuki Gunji, Yumiko Murayama, Akiko Ando, Junichi Hasegawa, Akihiko Saitoh

JMM Case Report 2015, 2015

Niemann-Pick Disease Type C Presenting as a Developmental Coordination Disorder with Bullying by Peers in a School-Age Child

Ryo Suzuki, Atsushi Tanaka, Toshiharu Matsui, Tetsuki Gunji, Jun Tohyama, Aya Nairita, Eiji Nanba, Kousaku Ohno

Case Report in Pediatrics, 2015,807591, 2015

## 外科

胆管切除後の再発による輸入脚症候群に対する経皮経腸ドレナージとバイパス術の3例

北見 智恵

日本農村医学会雑誌, 63,5,780-786, 2015

## 整形外科

胸椎椎間板ヘルニアに対する後方進入顕微鏡視下椎間板摘出術の成績

矢尻 洋一

Journal of Spine Research, 6,3,478, 2015

手指伸筋腱皮下断裂に対する並列位テーピング法による早期運動療法の成績

善財 慶治

日本手外科学会雑誌, 32,3,34-37, 2015

## 脳神経外科

中越二次保健、医療圏における脳卒中診療と医療連携の実態

竹内 茂和、藤田 信也、立川 浩、阿部 博史

新潟県医師会報, 787,7-13, 2015

## 産婦人科

Elevate型TVM手術とProlift型TVM手術の比較検討

加勢 宏明、大島 彩恵子、市川 希、森 裕太郎、横田 有紀、古俣 大、

本多 啓輔、加藤 政美

日本女性骨盤底医学会誌, 12,54-57, 2015

メトロイリントル注入量による分娩誘発効果の差異

市川 希、大島 彩恵子、本多 啓輔、加勢 宏明、加藤 政美

産と婦, 82,6,685-690, 2015



当院における円錐切除術後妊娠症例の検討

堀内 綾乃、加勢 宏明、大島 彩恵子、横田 有紀、古俣 大、加藤 政美

新潟産科婦人科学会誌, 110,2,67-69, 2015

## 平成28年度

### ●著書・論文

#### 外科

経肛門的標本摘出法を用いた完全腹腔鏡下S状結腸切除術後のquality of lifeと排便機能

西村 淳、川原 聖佳子、河内 保之、牧野 成人、北見 智恵、福田 進太郎、

油座 築、新国 恵也

日本内視鏡外科学会雑誌, 21,6,817-825, 2016

胃石による十二指腸穿通・後腹膜膿瘍をきたした1例

北見 智恵

日本腹部救急医学会雑誌, 36,5,943-946, 2016

感染性心内膜炎を合併した中部胆管癌の1例

北見 智恵

新潟医学会雑誌, 130,2,132-138, 2016

正常肝に発生した細胆管細胞癌の1例

北見 智恵

日本消化器外科学会雑誌, 49,10,1006-1015, 2016

下血をきたした虫垂粘液嚢胞腺腫の1例

庭野 稔之、西村 淳、岩城 孝和、川原 聖佳子、新国 恵也

新潟医学会雑誌, 130,30,203-207, 2016

## 整形外科

分子標的薬治療中に発症したMRSAによる化膿性屈筋腱鞘滑膜炎の2例

土屋 潤平

新潟整形外科研究会誌, 32,1,31-34, 2016

## 脳神経外科

Neuropathology Education. Nonfunctional intra-and suprasellar tumor in a patient with visual disturbance and panhypopituitarism

Saito R, Jinguji S, Taniguchi Y, Takeuchi S, Okamoto K, Nishizawa M, Takahashi H, Kakita A

Neuropathology, 36,1,107-112, 2016

## 産婦人科

第8回新潟県臨床細胞学会研修会報告「子宮頸部・体部の細胞診 ー腺系病変の症例検討ー」

加勢 宏明

日本臨床細胞学会新潟支部会誌, 31,8-11, 2016

長岡中央総合病院の新生児聴覚スクリーニングの現状

明石 絵里菜、古俣 大、松本 賢典、横田 有紀、加勢 宏明、竹内 一夫、

加藤 政美

新潟産科婦人科学会誌, 111,2,76-79, 2016

タンポン挿入を契機に敗血症性ショックをきたした1例

上田 遥香、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明、加藤 政美、杉田 萌乃、佐藤 知巳

新潟産科婦人科学会誌, 111,2,63-65, 2016

帝王切開術の際に診断された子宮捻転の一例

大島 彩恵子、横田 有紀、本多 啓輔、加勢 宏明、加藤 政美

新潟産科婦人科学会誌, 111,1,1-4, 2016

## 検査科

プロカルシトニンと血液培養の相関～乖離症例の検討も含めて～

安藤 昭子、飯塚 麻里、石井 幸恵、山川 栄一

新潟県厚生連医誌，25,1,12，2016

麻痺患者を左側臥位にする事により見落としを防ぐ事ができた肺動脈弁狭窄症の一症例

山崎 健作、林 典子、小林 敬子、内山 博子、弥久保 悦子、中村 祐一

新潟県厚生連医誌，25,1,80，2016

## 学会発表

### 平成27年度

#### ●学会・研究会

内科（循環器）

Changes in the J-wave during the treadmill exercise test

Minoru Tagawa ,Yukie Ochiai ,Yuichi Nakamura ,Masaomi Chinushi ,Yoshifusa Aizawa

第30回日本不整脈学会学術大会・第32回日本心電学会学術集会合同学術大会，2015.7.28，京都府

左冠尖内限定部位からの高出力通電で2種類の薬剤抵抗性心室期外収縮を治療できた一例

田川 実、池主 雅臣、中村 裕一、落合 幸江、古嶋 博司

第13回信越心電図セミナー，2015.10.24，妙高市

小児科

憤怒けいれん と Fe

松井 俊晴

中越小児臨床検討会，2015.5.21，長岡市

突然の胸痛を訴え耳鼻科より紹介受診した15歳男児の一例

郡司 哲己

中越小児臨床検討会，2015.7.16，長岡市

11歳児の左後頭部・後頸部痛を主訴に受診した1例

酒井 瑛平

中越小児臨床検討会，2015.9.22，長岡市

唾石による顎下腺炎をきたした学童例

中林 大器

中越小児臨床検討会，2015.9.22，長岡市

劇症型溶血性レンサ球菌感染症による壊死性筋膜炎を疑った1例

茂木 大輔

中越小児臨床検討会，2015.11.20，長岡市

虐待を疑ったITPの1例

中林 大器

中越小児臨床検討会，2015.11.20，長岡市

学校給食の食物アレルギー対応についてのご相談～重症小麦アレルギー患児の一例をまじえて～

江村 重仁

中越小児臨床検討会，2016.1.28，長岡市

胆石を認めた2症例の検討

杉田 萌乃

中越小児臨床検討会，2016.1.28，長岡市

両側手指の疼痛を訴えた12歳女児例（細菌性腸炎後の反応性関節炎）

郡司 哲己

中越小児臨床検討会，2016.3.17，長岡市

複数の要因が重なり死に瀕した牛乳アレルギー児の一例

江村 重仁

中越小児臨床検討会，2016.3.17，長岡市

## 外科

膵頭十二指腸切除術後の膵液漏減少を目指して—当科におけるBlumgart変法の検討

北見 智恵

第115回日本外科学会，2015.4.16，愛知県

浸潤性膵管癌術後残膵再発の1切除例

北見 智恵

第27回日本肝胆膵外科学会，2015.6.11，東京都

切除不能進行・再発食道癌に対するDocetaxel+Nedaplatin療法

河内 保之

第69回日本食道学会学術集会，2015.7.3，神奈川県

膵頭十二指腸切除後膵液漏の危険因子と当科におけるBlumgart変法の検討

北見 智恵

第70回日本消化器外科学会，2015.7.15，静岡県

当院における腹腔鏡下低位前方切除術の工夫

西村 淳、川原 聖佳子、河内 保之、牧野 成人、北見 智恵、岩城 孝和、  
庭野 稔之、新国 恵也

第70回日本消化器外科学会総会，2015.7.16，静岡県

合計8mmの腹壁創で行う大腸癌手術

西村 淳、川原 聖佳子、河内 保之、牧野 成人、北見 智恵、岩城 孝和、  
庭野 稔之、新国 恵也

第115回日本外科学会定期学術集会 パネルディスカッション，2015.7.17，愛知県

膵頭十二指腸切除の手技・手順は百人百様－当院における膵頭十二指腸切除術

北見 智恵

第16回新潟胆膵研究会，2015.9.12，新潟市

正常肝に発生した細胆管細胞癌の1切除例

北見 智恵

第51回日本胆道学会，2015.9.17，栃木県

肝内結石術後経過観察中に発症した胆管癌の1例

河内 保之

第51回日本胆道学会学術集会，2015.9.18，栃木県

腫瘍形成虫垂炎に対する治療

河内 保之

第64回日本農村医学会学術総会，2015.10.23，秋田県

胆嚢癌と下部胆管癌の異時性重複癌の1切除例

北見 智恵

第77回日本臨床外科学会，2015.11.26，福岡県

腹腔鏡下大腸癌手術におけるReduced port surgeryとNatural orifice surgeryの融合

西村 淳、川原 聖佳子、河内 保之、牧野 成人、北見 智恵、福田 進太郎、

油座 築、新国 恵也

第28回日本内視鏡外科学会総会 シンポジウム，2015.12.11，大阪府

POCY1 胃癌の治療成績

河内 保之

第88回日本胃癌学会総会，2016.3.18，大分県

## 整形外科

胸椎椎間板ヘルニアに対する後方進入顕微鏡視下椎間板摘出術の成績

矢尻 洋一

第44回日本脊椎脊髄病学会，2015.4.16，福岡県

手指伸筋腱皮下断裂に対する並列位テーピング法による早期運動療法の成績

善財 慶治

第58回日本手外科学会学術集会，2015.4.16，東京都

Intramedullary Guide Rod Control for Restoring Accurate Knee Flexion Axis in Total Knee Arthroplasty

有海 明央

10th Biennial ISAKOS Congress , 2015.6.7 , フランス・リヨン

JIGENを使用した人工膝関節置換術60例における大腿骨髄内ロッド位置・角度の三次元的検討～目標とする回転軸の獲得のために～

有海 明央

第7回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 , 2015.6.18 , 北海道

初回診断後長期経過を経て手術に至った成人膝離断性骨軟骨症の1例

勝見 亮太

第7回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 , 2015.6.18 , 北海道

Cushing症候群による続発性大腿骨顆部骨壊死の1例

勝見 亮太

第225回新潟整形外科学研究会 , 2016.3.19 , 新潟

外反型変形性膝関節症5例における人工膝関節全置換術大腿骨骨切りの術前三次元シミュレーション

有海 明央

第10回日本CAOS研究会 , 2016.3.24 , 愛知県

高度内反膝5例における人工膝関節全置換術大腿骨骨切りの術前三次元シミュレーション

勝見 亮太

第10回日本CAOS研究会 , 2016.3.24 , 愛知県

腰痛疾患の診断と治療

矢尻 洋一

にいがた臨床研究会 , 2016.3.24 , 新潟市



## 脳神経外科

FLAIR画像で脳に広範な高信号域を呈した一例

温 城太郎、中村 公彦、谷口 禎規、竹内 茂和、斎藤 理恵、柿田 明美  
第26回上中越臨床神経疾患研究会，2015.5.27，長岡市

抗凝固療法中の患者に対するPPSB-HTの使用経験

太田 智慶、竹内 茂和、谷口 禎規、神宮字 伸哉、温 城太郎  
第66回新潟脳神経外科懇話会，2015.6.20，新潟市

脳表静脈血栓症の1例

谷口 禎規、竹内 茂和、中村 公彦、温 城太郎  
第70回新潟脳卒中研究会，2015.7.11，山形県

## 脳神経外科学

竹内 茂和

新潟県厚生連中央看護専門学校講義，2015.10.1，長岡市

出血源不明のくも膜下出血の検討

谷口 禎規、竹内 茂和、中村 公彦、温 城太郎  
社団法人日本脳神経外科学会第73回学術総会，2015.10.14，北海道

多発脳梗塞と内頸動脈仮性動脈瘤

中村 公彦、竹内 茂和、谷口 禎規、温 城太郎  
第27回上中越臨床神経疾患研究会，2015.11.11，長岡市

脳血管疾患における4D-CT angiographyの有用性

中村 公彦、温 城太郎、谷口 禎規、竹内 茂和  
第70回新潟画像医学研究会，2015.11.14，新潟市

多発脳動脈解離による脳梗塞とくも膜下出血を生じた1例

中村 公彦、温 城太郎、谷口 禎規、竹内 茂和

第67回新潟脳神経外科懇話会，2015.12.12，新潟市

当院における出血源不明のくも膜下出血の検討

谷口 禎規、竹内 茂和、中村 公彦、温 城太郎

第71回新潟脳卒中研究会，2016.1.16，新潟市

ステロイド治療で寛解に至らず、嚢胞開窓術で寛解に至ったラトケ嚢胞に起因した下垂体炎の一例

温 城太郎、中村 公彦、谷口 禎規、竹内 茂和、神宮字 伸哉、横川 かおり、北津 勝、齋藤 理恵、柿田 明美

第26回日本間脳下垂体腫瘍学会，2016.2.19，福島県

#### 産婦人科

腔肉腫の1例

加勢 宏明、大島 彩恵子、横田 有紀、本多 啓輔、加藤 政美

第6回EGOGミーティング，2015.5.16，上越市

当院における円錐切除術後妊娠症例の検討

堀内 綾乃、大島 彩恵子、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明、加藤 政美、本多 啓輔

第170回新潟産科婦人科集談会，2015.6.21，新潟市

多量のmucinous ascitesを認めた卵巣腫瘍の破綻症例

大島 彩恵子、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明、加藤 政美、本多 啓輔

第170回新潟産科婦人科集談会，2015.6.21，新潟市

先天性心疾患に対する胎児心エコースクリーニングの普及について～山形県庄内地方で始まった取り組み～

古俣 大、大島 彩恵子、横田 有紀、加勢 宏明、加藤 政美

第80回長岡産婦人科Open Conference，2015.6.25，長岡市

TVM手術後に婦人科悪性腫瘍のために子宮全摘を施行した2例  
加勢 宏明、大島 彩恵子、横田 有紀、本多 啓輔、加藤 政美  
第17回日本女性骨盤底医学会，2015.8.1，東京都

タンポン挿入を契機に敗血症性ショックをきたした1例  
上田 遥香、大島 彩恵子、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明、加藤 政美、  
杉田 萌乃、佐藤 知巳  
第171回新潟産科婦人科集談会，2015.9.19，新潟市

筋腫分娩の中に認めた子宮頸部小細胞癌の1例  
上田 遥香、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明、加藤 政美、関根 正幸、榎本 隆之  
第88回中越産婦人科医会，2015.10.10，長岡市

TVM手術後に婦人科悪性腫瘍のために子宮全摘を施行した3例  
加勢 宏明、上田 遥香、横田 有紀、古俣 大、加藤 政美  
平成27年新潟大学医学部産科婦人科学教室同窓会集談会，2015.12.19，新潟市

長岡中央総合病院分娩の歴史  
加藤 政美、風間 絵里菜、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明  
第172回新潟産科婦人科集談会，2016.2.21，新潟市

当院における新生児聴覚スクリーニングの現状  
風間 絵里菜、古俣 大、横田 有紀、加勢 宏明、加藤 政美  
第82回長岡産婦人科Open Conference，2016.3.3，長岡市

術前診断できずに腹腔鏡下手術を行った卵管間質部妊娠の一例  
古俣 大、横田 有紀、加勢 宏明、加藤 政美、佐藤 彩恵子  
第31回新潟産科婦人科手術・内視鏡下手術研究会，2016.3.12，新潟市

深部縫合器Capioを用いた骨盤臓器脱矯正手術  
加勢 宏明、風間 絵里菜、横田 有紀、古俣 大、加藤 政美  
第31回新潟産科婦人科手術・内視鏡下手術研究会，2016.3.12，新潟市

## 看護部

術後早期離床指導に向けて動作写真を用いた成果

梅田 育代

日本農村医学会新潟地方会，2015.4.25，新潟市

乳幼児への内服援助の検討～アンケート結果より保護者の想いを知る

高橋 真寿子

日本農村医学会新潟地方会，2015.4.25，新潟市

当院における非がん呼吸器疾患患者の緩和ケア

佐々木 暁子

第20回日本緩和医療学会学術大会，2015.6.19，神奈川県

悪性腫瘍患者の終末期における下肢浮腫の苦痛緩和への取り組み

小川 知恵

第20回日本緩和医療学会学術大会，2015.6.20，神奈川県

乳がん看護認定看護師の役割周知～初期治療の意思決定支援を通じて

小川 知恵

第23回乳がん学会学術大会，2015.7.2，東京都

終末期がん患者のやすらぎにつながるものとは

原田 泉

第23回日本ホスピス・在宅ケア研究会，2015.8.29，神奈川県

当院におけるHOT導入時の指導の現状と今後の課題

佐々木 暁子

中越呼吸ケア研究会，2015.9.16，長岡市

精神症状による入退院を繰り返したがん患者への関わり

田邊 千代子

第28回日本サイコオンコロジー学会総会，2015.9.18，広島県

短期入院化学療法の継続中に適応障害診断を受けた患者の心理～社会リスク因子に関する  
一考察

三浦 一二三

第28回日本サイコオンコロジー学会総会，2015.9.18，広島県

幼児後期の日常生活動作維持を目指しての取り組み～点滴用シーネ固定を外して

中野 綾美

厚生連看護研究発表会，2015.10.10，長岡市

アービタックスを使用した外来化学療法を受ける頭頸部癌患者の情報共有の取り組み～ス  
キンケア調査票・指導経過記録用紙の検証

高橋 啓子

厚生連看護研究発表会，2015.10.10，長岡市

高齢者の早期離床を目指して～早期離床チェックリストの実践と検証

富居 美和

厚生連看護研究発表会，2015.10.10，長岡市

当院におけるHOT導入時の指導と今後の課題

佐々木 暁子

第25回日本呼吸器ケアリハビリテーション学会，2015.10.16，千葉県

ターミナル期の患者の看護を振り返る～死にゆく人のプロセスを用いて

大平 麻美

第64回日本農村医学会学術総会，2015.10.23，秋田県

出産体験の満足に影響する助産師の対応を考える

細野 晴子

第64回日本農村医学会学術総会，2015.10.23，秋田県

抑制介助シート活用に向けての検討

市川 久美子

新潟県看護協会看護学会，2015.11.27，新潟市

軽度精神遅滞のある若年2型糖尿病発症女性への自立支援に向けて

佐藤 恵利香

第45回新潟糖尿病談話会，2016.2.6，新潟市

水道蛇口部の汚染状況から考えるメンテナンス

吉田 直子

第31回日本環境感染学会，2016.2.19，京都府

#### 放射線科（技師）

タリウム心筋シンチにおける胃集積低減の検討

今井 強

厚生連診療放射線技師会，2015.6.27，長岡市

単純MRIによる肝のう胞と肝血管腫の鑑別

板垣 裕也

厚生連診療放射線技師会，2015.6.28，長岡市

肺塞栓症について

山岸 沙矢香

新潟Ctテクノロジー研究会，2015.9.25，長岡市

4月からのタリウム心筋シンチにむけて

今井 強

新潟県診療放射線技師会 中越地区会，2016.2.20，長岡市

## 検査科

プロカルシトニンと血液培養の比較

安藤 昭子、飯塚 麻里、石井 幸恵、山川 栄一

平成27年度JA新潟厚生連臨床検査技師会春季研修会，2015.6.6，長岡市

大腸菌のコロニーを分離できず診断に苦慮したEHEC感染症の一症例

石井 幸恵、安藤 昭子、飯塚 麻里

平成27年度JA新潟厚生連臨床検査技師会春季研修会，2015.6.6，長岡市

自動解析診断が不得手とする不整脈心電図（目視診断で注意するポイント）

大矢 佳奈

第35回日本ホルター・ノンインベシブ心電学研究会，2015.6.13，東京都

右室中隔ペーシングの三尖弁逆流への影響（心尖部ペーシングとの比較）

内山 博子、田川 実、大矢 佳奈、佐藤 真理子、落合 幸江、中村 裕一、  
池主 雅臣

第30回日本不整脈学会学術大会・第32回日本心電学会学術集会合同学術大会，2015.7.28  
，京都府

心エコー検査が診断に有用であった成人肺動脈弁狭窄症の一症例

山崎 健作

第90回新潟県臨床検査学会，2015.10.12，新潟市

12誘導心電図と心内心電図から観る発作性上室性頻拍の心房興奮

大矢 佳奈、田川 実、内山 博子、山崎 健作、落合 幸江、中村 裕一、池主 雅臣  
第64回日本農村医学会学術総会，2015.10.22，秋田県

変異ヘモグロビンによりA1c測定法間で乖離がみられた1症例

飯浜 綾子

平成27年度JA新潟厚生連臨床検査技師会秋季研修会，2015.11.7，長岡市

## 栄養科

教育入院前後での糖尿病に対する負担感情の変化

高橋 洋平

第19回日本病態栄養学会年次学術集会，2016.1.9，神奈川県

当院NSTと包括的呼吸リハビリテーションの連携

川上 瑞穂

第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会，2016.2.25，福岡県

DPC観点からの経管栄養剤の選択～NSTによる提案と経済効果～

高橋 洋平

第10回新潟NSTフォーラム，2016.3.5，新潟市

## ●講演・シンポジウム

### 外科

腹腔鏡下大腸癌手術の限界を求めて

西村 淳

第115回日本外科学会定期学術集会 ランチョンセミナー，2015.4.17，愛知県

新しい手術法を開発すること

西村 淳

Niigata Advanced Surgery Meeting 特別講演，2015.8.21，新潟市

Natural orifice surgery の存在価値とは

西村 淳

第8回次世代の内視鏡下消化管手術セミナー，2015.10.31，石川県



## 脳神経外科

脳卒中にならない・なったら？脳血管のしくみ～正常と異常

竹内 茂和

第23回にいがた脳卒中公開講座，2015.4.11，長岡市

脳卒中治療ガイドライン2015をうけて～長岡地域脳卒中診療の現状と抗血小板療法

竹内 茂和

Nagaoka Stroke 2015，2015.7.28，長岡市

脳血流SPECTとAcetazolamide(Diamox)負荷

竹内 茂和

8th Good Job Conference in Niigata，2015.10.3，新潟市

中越地区脳卒中地域連携パスの現状

竹内 茂和

中越地区脳卒中地域連携研究会報告会，2015.10.7，長岡市

「てんかん」の常識・非常識と診断・治療

竹内 茂和

エーザイ株式会社新潟統括部MR研修会，2016.3.10，長岡市

## 耳鼻咽喉科

小児急性中耳炎・副鼻腔炎の新しい治療と考え方

田中 久夫

長岡市小児科集談会，2015.5.20，長岡市

## ●院内関係

皮膚科

抗がん剤による皮膚障害

高橋 利幸

院内がんセミナー，2015.12.9，長岡市

## 平成28年度

### ●学会・研究会

内科（消化器）

EUS-FNAが診断に有用であったseratiaによる腹腔内膿瘍の一例

吉田 智彰、岡 宏充、堂森 浩二、佐藤 明人、福原 康夫、渡辺 庄治、富所 隆、  
吉川 明

第58回日本消化器病学会甲信越支部例会，2016.6.18，山梨県

長岡市で導入したABC検診の現状

佐藤 知巳、富所 隆、堂森 浩二、岡 宏充、佐藤 明人、福原 康夫、渡辺 庄治、  
吉川 明、杉谷 想一、山田 聡志、柳 雅彦、窪田 久、大貫 啓三、大塚 武司、  
長尾 政之助、草間 昭夫、太田 裕

第76回日本消化器がん検診学会関東甲信越支部地方会，2016.8.20，新潟市

当院におけるEUS-BD（超音波内視鏡下胆管ドレナージ）の現状

岡 宏充、堂森 浩二、佐藤 明人、福原 康夫、渡辺 庄治、佐藤 知巳、富所 隆、  
吉川 明

第17回新潟胆膵研究会，2016.9.17，新潟市

外傷性脾損傷に対する治療方針の検討

渡辺 庄治、富所 隆、堂森 浩二、岡 宏充、佐藤 明人、福原 康夫、佐藤 知巳、  
吉川 明

第65回日本農村医学会学術総会，2016.10.27，三重県

膵癌による胆道狭窄に対するドレナージ

岡 宏充

新潟胆膵内視鏡研究会2016，2016.10.28，新潟市

内科（循環器）

ニューキノロン系経口抗菌薬の内服後に意識消失を繰り返し、QT延長症候群の診断が得られた高齢者

田川 実、池主 雅臣、佐藤 光希、落合 幸江、中村 裕一

第7回失神研究会，2016.7.2，東京都

The Relationship of Electrocardiographic Characteristics, Presence of J-waves and Torsade de Pointes with Hypothermia

Minoru Tagawa ,Yuichi Nakamura ,Yukie Ochiai ,Masaomi Chinushi ,Yushifusa Aizawa

The 9th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session , 2016.10.12 , 韓国・ソウル

突発性心室期外収縮焼灼後に新たな心室頻拍が発症し、治療のため左冠尖よりの高出力通電を要した1例

田川 実、落合 幸江、中村 裕一、古嶋 博司、池主 雅臣

日本不整脈心電学会カテーテルアブレーション関連秋期大会2016，2016.10.27，福岡県

Evaluation of the Risk for Ischemic Heart Disease in Patients with Acute Ischemic Stroke

Minoru Tagawa ,Shigekazu Takeuchi ,Yuichi Nakamura ,Makihiko Saeki ,Yoshinori Taniguchi ,Hideko Ohno ,Hiroyuki Watanabe ,Yukie Ochiai ,Masaomi

Chinushi ,Yoshifusa Aizawa

The 81st Annual Scientific Meeting of the Japanese Circulation Society ,  
2017.3.17 , 石川県

## 小児科

小児気道異物・疫学調査～啓蒙活動について～

松井 俊晴

中越小児臨床検討会，2016.5.19，長岡市

下肢の麻痺と無呼吸を契機に発見された後縦隔腫瘍の一例

江村 重仁

中越小児臨床検討会，2016.5.19，長岡市

川崎病大量免疫グロブリン不応例に対する当科初のインフリキシマブ投与例について

堀 智里

中越小児臨床検討会，2016.7.23，長岡市

頸部リンパ節腫脹を主訴に受診した甲状腺腫瘍の男児例（異所性胸腺）

田村 千夏

中越小児臨床検討会，2016.9.15，長岡市

頭囲拡大で受診し巨脳症と診断した1歳男児例

田村 千夏

中越小児臨床検討会，2016.9.15，長岡市

右鎖骨上窩腫瘍の1例（リンパ管腫）

松井 俊晴

中越小児臨床検討会，2016.9.15，長岡市

腹部症状が先行したIgA血管炎の一例

後藤 侑世

中越小児臨床検討会，2016.11.17，長岡市

低ホスファターゼ血症の1例

竹内 一夫

中越小児臨床検討会，2016.11.17，長岡市

食物アレルギーの原因食物を安全に食べさせる方法～ガイドライン改訂に伴って～

江村 重仁

中越小児臨床検討会，2017.1.26，長岡市

発熱で偶然発見された好中球減少症について

郡司 哲己

中越小児臨床検討会，2017.1.26，長岡市

組織球性壊死性リンパ節炎～10年以上の経過で頻回に再発した女兒例～

郡司 哲己

中越小児臨床検討会，2017.3.16，長岡市

## 外科

肝胆膵 膵頭十二指腸切除術後の膵液漏減少を目指して 当科におけるBlumgart変法の検討

北見 智恵

第116回日本外科学会，2016.4.14，大阪府

様々なバリエーションに対応しやすい腹腔鏡下結腸右半切除の手術手技

西村 淳、川原 聖佳子、河内 保之、牧野 成人、北見 智恵、福田 進太郎、

加納 陽介、油座 築、三浦 要平、新国 恵也

第116回日本外科学会定期学術集会，2016.4.16，大阪府

膵癌遠隔転移症例の切除意義はあるか？ 当科における切除症例の検討

北見 智恵

第28回日本肝胆膵外科学会，2016.6.2，大阪府

腹腔鏡下大腸切除術における“場の展開”の工夫

西村 淳、川原 聖佳子、河内 保之、牧野 成人、北見 智恵、角田 知行、  
須藤 翔、松本 瑛生、新国 恵也

第25回新潟内視鏡外科研究会，2016.7.9，新潟市

患者体型が臍液瘻に及ぼす影響—重篤化を防止するためのドレーン管理の工夫

北見 智恵

第71回日本消化器外科学会，2016.7.14，徳島県

Influence of obesity for pancreatic fistula after pancreaticoduodenectomy

北見 智恵

第47回臍臓学会，2016.8.4，宮城県

膵癌に対する膵頭十二指腸切除—Mesenteric approachによる上腸間膜動脈神経叢郭清および門脈合併切除再建

北見 智恵

第17回新潟胆膵研究会，2016.9.17，新潟市

Gemcitabine+cisplatin併用療法が奏効した胆管癌術後肝転移の1例

北見 智恵

第52回日本胆道学会，2016.9.29，神奈川県

十二指腸傍乳頭憩室後腹膜穿孔の1例

河内 保之

第52回日本胆道学会学術集会，2016.9.29，神奈川県

Pancreaticoduodenectomy with Mesenteric Approach for Pancreatic Head Cancer-Surgical Outcome and Long-Term Results in Our Single Institution

北見 智恵

40th World Congress of the International College of Surgeons，2016.10.23，京都府

超高齢者（85歳以上）胃癌手術例の検討

河内 保之

第65回日本農村医学会学術総会，2016.10.28，三重県

膵癌術後再発に対するFOLFIRINOXおよびGEM+nab-paclitaxel併用療法の経験

北見 智恵

第14回日本消化器関連学会週間JDDW 消化器外科学会大会，2016.11.3，兵庫県

膵癌に対する上腸間膜動脈神経叢郭清 Mesenteric approachによる至適神経叢郭清の手術手技の工夫

北見 智恵

第78回日本臨床外科学会，2016.11.24，東京都

経腔的標本摘出による完全腹腔鏡下大腸癌手術の短期成績に関するpilot study

西村 淳、川原 聖佳子、伊藤 雅昭、浜部 敦史、波多 豪、河内 保之、  
牧野 成人、北見 智恵、角田 知行、須藤 翔、松本 瑛生、新国 恵也

第29回日本内視鏡外科学会総会，2016.12.8，神奈川県

外鼠径ヘルニアのヘルニア門から標本を摘出した腹腔鏡補助下S状結腸切除術の1例

窪田 晃、西村 淳、河内 保之、北見 智恵、川原 聖佳子、牧野 成人、  
角田 知行、須藤 翔、松本 瑛生、新国 恵也

第29回日本内視鏡外科学会総会，2016.12.9，神奈川県

右側結腸癌に対する腹腔鏡下手術後の腹膜・局所再発例の検討

角田 知行、西村 淳、松本 瑛生、須藤 翔、北見 智恵、川原 聖佳子、  
牧野 成人、河内 保之、新国 恵也

第29回日本内視鏡外科学会総会，2016.12.9，神奈川県

結腸腹腔内吻合の是非を問う 腹腔鏡下大腸癌手術における完全体内吻合の99例

西村 淳、川原 聖佳子、河内 保之、牧野 成人、北見 智恵、角田 知行、  
須藤 翔、松本 瑛生、新国 恵也

第29回日本内視鏡外科学会総会 パネルディスカッション，2016.12.10，神奈川県

## 整形外科

IFZ切離法術後の超音波検査所見第2報～抜釘例での検討

善財 慶治

第59回日本手外科学会学術集会，2016.4.21，広島県

当院における中高年に対する前十字靭帯再建術の成績

有海 明央

中越骨・関節懇話会，2016.6.9，長岡市

Cushing症候群による続発性大腿骨顆部骨壊死の1例

勝見 亮太

第8回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会，2016.7.28，福岡県

特発性脊髄ヘルニアの1例

石坂 佳祐

第227回新潟整形外科研究会，2016.11.26，新潟市

上腕骨顆上骨折に同側橈尺骨遠位端骨折を合併した1例

佐藤 雅之

第228回新潟整形外科研究会，2017.1.21，新潟市

TKAにおける三次元画像情報を用いた術前計画の再現性の検討

大浜 一孝

第47回日本人工関節学会，2017.2.24，沖縄県

人工膝関節置換術三次元的大腿骨骨切りシミュレーションの信頼性

大浜 一孝

第11回CAOS研究会，2017.3.9，新潟市

膝蓋骨下極骨折に対するpull-out法による内固定の小経験

酒井 瑛平



第229回新潟整形外科研究会，2017.3.25，新潟市

## 脳神経外科

脳室炎が主体の脳膿瘍

温 城太郎、中村 公彦、加藤 俊一、谷口 禎規、竹内 茂和  
第28回上中越臨床神経疾患研究会，2016.6.8，長岡市

Lymphomatoid granulomaの一例

谷口 禎規、竹内 茂和、加藤 俊一、温 城太郎、柿田 明美  
第68回新潟脳神経外科懇話会，2016.6.11，新潟市

高血圧性脳出血に対する神経内視鏡下血腫除去術の経験

加藤 俊一、竹内 茂和、谷口 禎規、温 城太郎  
第72回新潟脳卒中研究会，2016.7.9，魚沼市

術後24時間以内MRIを用いて検討した膠芽腫造影病変摘出の意義

加藤 俊一、竹内 茂和、谷口 禎規、温 城太郎  
一般社団法人日本脳神経外科学会第75回学術総会，2016.9.29，福岡県

多発脳動脈解離による脳梗塞とくも膜下出血を生じた1例

中村 公彦、竹内 茂和、谷口 禎規、温 城太郎、藤井 幸彦  
一般社団法人日本脳神経外科学会第75回学術総会，2016.9.29，福岡県

脳室腹腔シャント術後のシャント腎炎の2例

温 城太郎、加藤 俊一、谷口 禎規、竹内 茂和、河野 恵美子、高田 琢磨  
一般社団法人日本脳神経外科学会第75回学術総会，2016.9.29，福岡県

雷鳴様頭痛で発症した59歳女性例

澁谷 航平、竹内 茂和、谷口 禎規、加藤 俊一、温 城太郎  
第29回上中越臨床神経疾患研究会，2016.11.9，長岡市

脳梗塞を合併した片頭痛患者

渡邊 浩之、大野 司、竹内 茂和、谷口 禎規、加藤 俊一、温 城太郎

第29回上中越臨床神経疾患研究会，2016.11.9，長岡市

隔壁開放術を施行した脳室炎後水頭症の検討

加藤 俊一、竹内 茂和、谷口 禎規、温 城太郎

第23回日本神経内視鏡学会，2016.11.17，東京都

術後に原因不明の血小板減少を来した一例

谷口 禎規、竹内 茂和、加藤 俊一、澁谷 航平

第69回新潟脳神経外科懇話会，2016.12.10，新潟市

私の歩いた道～現役世代の脳神経外科医に明るい未来を～

竹内 茂和

第69回新潟脳神経外科懇話会，2016.12.10，新潟市

## 産婦人科

胸腹水をもとめた卵巣粘液腺腫の1例

風間 絵里菜、松本 賢典、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明、加藤 政美

第8回EGOGミーティング，2016.4.9，上越市

Capioを用いたUphold型骨盤底矯正術の検討：Elevate型TVM手術と比較

加勢 宏明、風間 絵里菜、松本 賢典、横田 有紀、古俣 大

第18回日本女性骨盤底医学会，2016.6.11，福岡県

当院における新生児聴覚スクリーニングの現状

風間 絵里菜、古俣 大、松本 賢典、横田 有紀、加勢 宏明、竹内 一夫

第173回新潟産科婦人科集談会，2016.6.11，新潟市

新生児重症貧血を来した胎児母体間輸血症候群について

松本 賢典、風間 絵里菜、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明

第83回長岡産婦人科オープンカンファレンス，2016.6.30，長岡市

中越産婦人科のこれから

加勢 宏明

第83回長岡産婦人科オープンカンファレンス，2016.6.30，長岡市

当院における新生児聴覚スクリーニングの現状

風間 絵里菜、古俣 大、松本 賢典、竹内 一夫

第52回日本周産期・新生児医学会学会集會，2016.7.16，富山県

非認定研修施設での技術認定医受験～地方での取り組み～

古俣 大、風間 絵里菜、松本 幸典、横田 有紀、加勢 宏明

第56回日本産科婦人科内視鏡学会，2016.9.1，長崎県

当院における新生児聴覚スクリーニングの現状

風間 絵里菜、古俣 大、松本 賢典、横田 有紀、加勢 宏明、竹内 一夫

第64回北日本産科婦人科学会総会・学術講演会，2016.9.17，北海道

腹腔鏡手術に対するカーボテクトの導入

横田 有紀、古俣 大、齋藤 強太、松本 賢典、加勢 宏明

第174回新潟産科婦人科集談会，2016.10.16，新潟市

術中に判明した片側の付属器欠損について

齋藤 強太、古俣 大、松本 賢典、横田 有紀、加勢 宏明

第89回中越産婦人科医会，2016.10.22，長岡市

術中に判明した片側の付属器欠損の一例

齋藤 強太、古俣 大、松本 賢典、横田 有紀、加勢 宏明

平成28年新潟大学医学部産科婦人科学教室同窓会集談会，2016.12.17，新潟市

尿道脱環状切開法を併施した腹圧性尿失禁手術の1例

加勢 宏明、齋藤 強太、松本 賢典、横田 有紀、古俣 大

第32回新潟産科婦人科手術・内視鏡下手術研究会，2017.2.4，新潟市

腹腔鏡下手術におけるセプララップの使用経験

横田 有紀、古俣 大、齋藤 強太、松本 賢典、加勢 宏明

第32回新潟産科婦人科手術・内視鏡下手術研究会，2017.2.4，新潟市

内視鏡技術認定医の申請用件の検討～専攻医から始める申請準備～

古俣 大、齋藤 強太、松本 賢典、横田 有紀、加勢 宏明

第32回新潟産科婦人科手術・内視鏡下手術研究会，2017.2.4，新潟市

子宮頸部円錐切除術後管理での標本中の頸管腺細胞及び移行帯細胞の検討

齋藤 強太、松本 賢典、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明

第175回新潟産科婦人科集談会，2017.2.12，新潟市

妊娠中に外科治療を要した腰椎椎間板ヘルニア合併妊娠について

齋藤 強太、春谷 千智、松本 賢典、横田 有紀、古俣 大、加勢 宏明

第85回長岡産婦人科オープンカンファレンス，2017.3.2，長岡市

## 臨床研修医

仮性脾動脈瘤破裂によりhemosuccus pancreaticusを来したと考えられ,coil塞栓術が有用であった消化管出血の一例

夏井 一輝、佐藤 明人、堂森 浩二、岡 宏充、福原 康夫、渡辺 庄治、  
佐藤 知巳、富所 隆、吉川 明

第59回日本消化器病学会甲信越支部例会，2016.11.19，山梨県

興味ある画像所見を呈した胃癌原発転移性大腸癌の一例

湯山 聡子、佐藤 知巳、堂森 浩二、岡 宏充、佐藤 明人、福原 康夫、  
渡辺 庄治、富所 隆、吉川 明、河内 保之

第81回日本消化器内視鏡学会甲信越支部例会，2016.11.19，山梨県

外傷性後腹膜血腫による胆管狭窄の一例

杉田 萌乃、岡 宏充、堂森 浩二、佐藤 明人、福原 康夫、渡辺 庄治、  
佐藤 知巳、富所 隆、吉川 明

第59回日本消化器病学会甲信越支部例会，2016.11.19，山梨県

貧血・膿瘍形成を伴う局所進行S状結腸癌の輸血拒否患者に対しXELOX療法後根治切除し  
得た一例

湯山 聡子、川原 聖佳子、北見 智恵、牧野 成人、西村 淳、河内 保之、  
新国 恵也、外池 祐子、渡辺 庄治、富所 隆

第72回新潟大腸肛門病研究会，2016.12.10，新潟市

#### 中央看護専門学校

看護専門学校の看護教員のワークモチベーションを高める要因とストレス要因に関する文  
献研究

川崎 郷子

厚生連看護部研究発表会，2015.10.17，長岡市

看護学生が老年看護実習を通して捉えた高齢患者の持てる力に関する研究

千蔵 まや、角山 裕美子

第28回日本看護学協議会学会，2016.8.18，静岡県

看護学実習において指導に困難を感じた時の教師の態度構造

大崎 美奈子

日本看護学教育学会第26回学術集会，2016.8.22，東京都

#### 放射線科（技師）

タリウム心筋シンチ投与量減少への対応

笠原 良平

厚生連診療放射線技師会，2016.6.18，長岡市

FLAIRの画像コントラスト

板垣 裕也

新潟MR技術研究会，2016.7.30，新潟市

当院検診用PACS・レポートシステムの使用経験

渡辺 豊央

新潟県検診従事職員研修会，2017.2.28，新潟市

## 検査科

変異ヘモグロビンによりA1C測定法間で乖離が見られた一症例

飯浜 綾子、石橋 美由紀、船山 真理子、林 典子、手塚 宗昭

日本農村医学会新潟地方会第66回例会，2016.4.23，長岡市

当院における化学療法と心エコーについて

今井 貴子

第29回循環器メディカルスタッフカンファランス，2016.7.7，長岡市

健診腹部超音波検査で認めた嚢胞様エコー像を呈した腓尾部腫瘍の1例

大矢 佳奈

第5回北日本支部医学検査学会，2016.10.1，新潟市

化学療法で心不全を発症した2症例について

今井 貴子

平成28年度JA新潟厚生連臨床検査技師会秋季研修会，2016.11.5，長岡市

## リハビリテーション科

変形性膝関節症の体組成について

渡邊 博史

第2回日本予防理学療法学会学術集会，2015.12.19，北海道

膝蓋腱断裂症例に対する術後理学療法の報告～膝伸展筋力評価・回復について

渡邊 博史

第21回スポーツ傷害フォーラム，2016.1.23，大阪府

評価用紙を使った症例検討（アセスメントをしっかりとしよう！）

片桐 啓之

中越NST摂食嚥下部門第7回勉強会，2016.4.23，長岡市

中学生の軽度発達障害児の構音訓練

目黒 文

第42回日本コミュニケーション障害学会，2016.5.14，千葉県

嚥下食の食事指導症例報告

片桐 啓之

中越NST摂食嚥下部門第5回特別講習会，2016.6.26，長岡市

地域でのNST摂食嚥下部門の活動報告

片桐 啓之

第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会，2016.9.23，新潟市

歯科医師・歯科衛生士との連携

片桐 啓之

多職種連携プロジェクト事例交換会，2017.1.15，新潟市

急性期病院による転院先決定まで

片桐 啓之

中越NST勉強会，2017.1.28，長岡市

歯科衛生士連絡票の見方 嚥下訓練の実技

片桐 啓之

中越NST摂食嚥下部門第7回特別講習会，2017.3.5，長岡市

## 臨床工学科

当院における内視鏡手術での臨床工学技士の現状と課題

渡邊 肇、加藤 崇、金寄 春美、西村 淳

第29回日本内視鏡外科学会総会，2016.12.10，神奈川県

## 栄養科

多施設協働による嚥下食指導媒体作成～地域連携における嚥下食の共有～

高橋 洋平

第22回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術集会，2016.9.23，新潟市

肺癌患者の皮膚筋炎発症例に対するEPA含有栄養剤使用とNST介入

高橋 洋平

第20回日本病態栄養学会年次学術集会，2017.1.13，京都府

在宅経管栄養患者のCKD症例における栄養プラン～経済的視点からのハイブリッド処方～

高橋 洋平

第11回新潟NSTフォーラム，2017.3.4，新潟市

## ●講演・シンポジウム

### 内科（消化器）

長岡市でのABC胃がんリスク検診の現状

富所 隆

中越上部消化管検討会，2015.6.18，長岡市

胃がんの予防とピロリ菌

富所 隆



地域保健福祉会議，2015.7.2，長岡市

暮らしの中に笑いと健康を

富所 隆

多世代健康作りセミナー，2015.8.8，長岡市

ある消化器内視鏡医が見てきた40年間の消化器病学の変遷

富所 隆

NGS in Nagaoka，2015.8.15，長岡市

今日から出来るがん予防

富所 隆

多世代健康作りセミナー，2015.8.22，長岡市

長岡市での胃がんリスク検診の現状と課題

富所 隆

柏崎刈羽郡医師会学術講演会，2015.10.7，柏崎市

今日から出来るがん予防

富所 隆

多世代健康作りセミナー，2015.10.26，長岡市

暮らしの中のがん予防

富所 隆

多世代健康作りセミナー，2015.11.13，長岡市

長岡市での胃がんリスク検診の現状と課題

富所 隆

十日町市中魚沼郡医師会学術講演会，2015.11.17，十日町市

若年者に対するピロリ感染対策

富所 隆

長岡市養護教員研修会，2015.11.24，長岡市

大腸がんと生活習慣病予防

富所 隆

多世代健康作りセミナー，2015.11.28，長岡市

長岡市での胃がんリスク検診の現状と課題

富所 隆

新潟市医師会学術講演会，2015.12.9，新潟市

30分で分かるピロリ菌

富所 隆

新潟県雇用促進支援機構研修会，2015.12.17，長岡市

ピロリ菌と胃がん－次世代への感染予防－

富所 隆

長岡産婦人科医会，2015.12.18，長岡市

大腸がんと生活習慣

富所 隆

生活習慣病予防講座，2016.2.13，長岡市

若年者に対するピロリ感染対策

富所 隆

長岡市教職員研修会，2016.2.19，長岡市

長岡市での胃がんリスク検診の現状と課題

富所 隆

新潟県検診従事者研修会，2016.3.3，新潟市

健腸生活のすすめ

富所 隆

生活習慣病予防講座，2016.3.5，長岡市

ピロリ菌を知ろうー胃がん予防と早期発見のためにー

富所 隆

五泉市胃がん予防講座，2016.3.6，五泉市

若年者に対するピロリ菌感染予防対策の必要性和意義

富所 隆

長岡市内中学校保護者説明会，2016.4.18，長岡市

各施設におけるメシル酸カモスタットの使用状況と嚢胞形成を伴う膵疾患

岡 宏充

Niigata pancreato-biliary conference 2016，2016.5.26，新潟市

GERD診療の実際

佐藤 明人

新潟県Primary Care Forum 2016，2016.5.28，長岡市

知っておきたいピロリ菌のこと

富所 隆

胃がん予防講座，2016.5.28，十日町市

これから出来るがん予防

富所 隆

多世代健康作りセミナー，2016.6.13，長岡市

C型肝炎治療の現状とDAA製剤の使用経験

福原 康夫

中越C型肝炎ミーティング，2016.6.20，長岡市

がん予防と長寿

富所 隆

三島町多世代健康作りセミナー，2016.6.25，長岡市

がんの予防と女性の幸せ

富所 隆

JA女性大会，2016.7.9，長岡市

大腸内視鏡的治療の基本手技

佐藤 明人

中越消化器疾患検討会，2016.7.12，長岡市

長岡中央総合病院創立80年を迎えて

富所 隆

協栄会総会，2016.8.29，長岡市

胃がんに対する内視鏡検診

富所 隆

長岡市医師会全体懇談会，2016.9.7，長岡市

当院における大腸ステントの現状

岡 宏充

内科・外科の視点からの大腸ステント，2016.9.14，長岡市

スライドで綴る80年

富所 隆

中央病院OB会総会，2016.10.2，長岡市

炎症性腸疾患の診断と治療

富所 隆

MC研修会，2016.10.17，長岡市

C型肝炎治療の現状とDAA製剤の使用経験

福原 康夫

C型肝炎治療のFront Line，2016.10.17，新潟市

GERD診療の実際

佐藤 明人

糸魚川市医師会学術講演会，2016.10.17，糸魚川市

胃がん予防と早期発見

富所 隆

与板町多世代健康作りセミナー，2016.10.22，長岡市

15分で分かるピロリ菌

富所 隆

市民公開講座，2016.10.31，長岡市

長岡市におけるABC検診の現状

佐藤 知巳

学術講演会，2016.12.2，長岡市

長岡での消化器病診療の歩み

富所 隆

中越消化器疾患検討会，2016.12.13，長岡市

生活習慣病予防には

富所 隆

生活習慣病予防講座，2017.2.6，長岡市

当院におけるEUS-BD（超音波内視鏡下胆管ドレナージ）の現状

岡 宏充

長岡消化器内科 r TM講演会，2017.2.10，長岡市

長岡市における胃がん撲滅プロジェクト

富所 隆

五泉市東蒲原郡医師会，2017.2.24，五泉市

暮らしの中のがん予防

富所 隆

中之島健康作り講座，2017.3.11，長岡市

最新のH.pylori除菌治療について

佐藤 知巳

糸魚川市医師会学術講演会，2017.3.16，糸魚川市

長岡市胃がん撲滅プロジェクト

富所 隆

長生ライオンズクラブ総会，2017.3.21，長岡市

長岡市における胃がん撲滅プロジェクト

富所 隆

長岡市医師会総会，2017.3.24，長岡市

## 外科

腹部に小切開を置かない腹腔鏡下大腸癌手術～NOSE～

西村 淳

2016中日直腸癌精益治療サミット colorectal surgery 学科ブランド設立明道サミット，  
2016.8.13，中国・北京

興味津々のTA・TV ～低侵襲大腸がん手術の最前線～

西村 淳

第71回日本大腸肛門病学会学術集会 ランチタイムセミナー，2016.11.18，三重県

## 脳神経外科

ボケてなんかいられない！脳卒中後遺症のあれこれ

竹内 茂和

第24回にいがた脳卒中公開講座，2016.5.14，長岡市

脳動脈瘤クリッピング術

竹内 茂和

第46回上中越脳神経外科学会特別講演，2016.11.11，長岡市

看護部

外国人糖尿病患者の指導からの学び

佐藤 恵利香

第26回新潟糖尿病セミナー，2016.9.4，新潟市

## ●院内関係

脳神経外科

脳卒中の診断と治療

竹内 茂和

院内クラーク勉強会，2016.12.22，長岡市

臨床研修医

閉塞性大腸癌に対するbrige to surgery としての大腸ステントと経肛門イレウス管の比較  
検討

茂木 大輔、西村 淳、川原 聖佳子、河内 保之、牧野 成人、北見 智恵、

角田 知行、須藤 翔、松本 瑛生、新国 恵也

臨床研修医修了研究発表会，2017.3.23，長岡市

## 編集後記

---

やっとできました。平成18・19年を最後に久々の復活であります。

思えば、富所院長先生の命を受け、昨年3月17日に学術教育委員会第1回の招集令状を頂きました。私の手元に残っているファイル資料で確認する限り、平成22年3月10日以来、実に7年ぶりの会議です。確か私は、前委員長であられた内科の波田野先生が当院を出られる際に「楽だから。よろしくね。」と言われ、あとを託された記憶はあります（10年以上前です）。当時は事務方の有能なY女史が全ての編集をして下さっていました。しかし拠点病院としてのガンの集計等で多忙を極めたため、いつの間にか、紙面による業績提出のお願いのみとなり、全く委員会の招集はされなくなっておりました。

今回の作成にあたり、各診療科長先生方をはじめ、各種部署および委員会の活動報告を作成して頂いた方々に厚く御礼申し上げます。阿部総務課長、長谷川医事課長を中心とし、学術教育委員会の委員とともに、胸を張れる年報ができたと思います。今後も私たちの働いた証、いや生きた証として 爪痕を残し続けねばなりません。

長岡中央総合病院  
学術教育委員会 委員長

上條 正



新潟県立中央病院



新潟厚生連  
長岡中央総合病院